岐阜県地方自治研究センター

岐阜市のまちづくりと市民活動

2023年3月

はじめに：岐阜市と岐阜県地方自治研究センターの連携による協働研究

岐阜県地方自治研究センターは、1978 年の発足以来、県内の地域での問題や政策にかかわる研究や報告を続けてきました . さらにその取り組みを強化するために，自治体，大学と連携した調査事業を企画し，2021 年は関市役所との協定によって『関市のまちづくりの現状と課題』という報告書を作成し，報告会（2022 年 8 月 8 日，せきてらす）も開催して好評を得ました．引き続いて 2022 年度は，同じくセンターに団体加盟して頂いている岐阜市役所と連携して，「岐阜市のまちづくりと市民活動：まちづくり協議会と住民活動から」の調査研究を行っていきたいと企画を立てました.

これまでも，岐阜大学地域科学部の地域学実習や，ぎふまちづくりセンター（2001 ～ 2015）の活動を通じて，岐阜市内の自治会やまちづくり協議会 , 景観や商店街などのまちづくり組織についての調査を行ない , その成果を『自治研ぎふ』で報告してきました．また，『ぎふ躍動プラン 21，2008，2013』での市民アンケートやワークショップにも岐阜大学地域科学部などが協力してきています.

岐阜市でも関市と同様に，小学校区などを単位としたまちづくり協議会が 44 地区（全体では 50 地区）で設立されています．また，市民活動支援事業を始め，NPO やボランティア団体などの活動も盛んに行われています．柳ケ瀬や玉宮，金華，加納地区の景観形成市民団体，黒野城と加藤貞泰公研究会など多彩で新たな市民活動もみられます.

市民協働，市民参画は，大きく自治会などの地縁型と，テーマ型の NPO などとして分けられてきました.「市民協働の指針」の現状の課題でも述べられているように，人口の減少と少子高齢化，自治会加入率の低下のような地域活動への参加率の低迷の中で，地縁型の地域活動も見直しを迫られています.

他方で，今回の各地区からの報告に見られるように，この 20 ないし 30 年間にわたって非常にアクティブな活動を繰り広げてきたまちづくり会，協議会などが岐阜市内にあります．バブルの崩壊後，柳ヶ瀬や問屋町など中心市街地の衰退は著しかったのですが，それに代わって，玉宮通りの賑わいや，町家の並ぶ川原町のまちづくりなど，新しく知られてきた場所がでてきています．柳ヶ瀬でも再開発が進む一方，サンデービルヂングマーケットや，リノベーション，柳ヶ瀬日常ニナーレなど新しい動きが生まれてます．今回は取り上げていませんが，2022 年のライブラリ・オブ・ジ・イアのぎふメディアコスモス，産業観光大賞を受けた NPO 法人 ORGAN の和傘（加納で一部，触れてます）など，これまでの活動の成果が全国的にも注目されるものとなってきています.

こうした 20 ～ 30 年の積み重ねを振り返って，そのプロセスと課題をまとめることが今回の報告書の役割です．高度成長期にできた芥見東の大洞団地に入居した団塊の世代が，退職と高齢化を迎えている中で，人の絆を活かしたコミュニティバスの運行に取り組んでいます．岐阜城だけでなく，中山道と加納城，旧役場から新しい交流センターの立ち上げに至った加納や，同じくあまり知られることがありませんでしたが，17 世紀初めに黒野藩の城下町でその面影を色濃く残している黒野でも黒野城研究会が非常に活発な活動を展開してきました．金華地区でも，景観問題から空き家，高齢化，新しい中堅や若手の新しいまちづくり活動が次々と起こっています.

芥見東のように，まちづくり協議会自体の手によって活動が行われているものがありますし，金華や加納（東西），黒野でもまちづくり協議会 · 自治会とも連携が行われています．自治会が毎年，行っている活動に加えて，新しい活動に広げていくところに，まちづくり協議会の役割があるともいえます.

高齢化が進む中で，小中学校や高校，大学との連携が見られるのも，今回の報告で強調しておきたかった側面です．岐阜大学地域科学部の発足後，地域学実習で各地のまちづくりの調査を行っていたことが，金華や加納，黒野，芥見東などの活動のベースとなってきました．地元の小中学校との連携に止まらず，高校の「ふるさと教育」と大学や地域の連携も広がってきています.

活動のエリアは，玉宮通りや川原町のような通り一本から，自治会連合会（小学校区）＝まちづくり協議会の単位，コミュニティバスのように東西の加納，芥見東 · 南のように複数の地区による運営協議会までさまざまです．加納が中山道のまち歩きで，各務原市の新加納から鏡島まで繋いだり，黒野城研究会と西郷や網代，常磐など周りの地域とのつながりが行われていることもあります．さらに「長良川おんぱく」にそれぞれの地域がパートナーとして参加して，共通のプラットフォームとなっていたことも特筆すべきことでしょう．また，県内外への視察研修を通じたまちづくりの学習や，黒野のように藩主の加藤氏の米子や大洲への移籍からの連携も見られるのです.

活動のためには，人と資金も必要ですが，自治会からの補助や，まちづくり会などの会費，まちづくり協議会に対する市からの助成金，景観形成市民団体へのにぎわいまち公社経由の助成金などの市からの補助，市民活動支援事業への応募，民間企業やロータリークラブ，JA などからの協賛，さらにはクラウドファンディングや一般社団法人，株式会社としての資金調達など，これも多彩なかたちをとるようになってきています．

こうした現状に関する調査を通じて，新しいまちづくりの動きを報告するとともに，これからに向けた課題と提案を行いたいと考えております．ご協力いただいた岐阜市役所市民協働推進部，まちづくり会，自治会，まちづくり協議会など，さまざまな市民の皆さんのご協力に感謝するとともに，これからの岐阜市の地域づくりのつながることを期待します．

		玉宮	柳ケ瀬	金華	加納	黒野	芥見東
地域課題	景観・歴史	玉宮通りまちづくり協議会		川原町，井の口，伊奈波	加納城，中山道，和傘	黒野城・城下町	
	空き家・利用		カフェ	空き家，活用 岐阜まち家守			みどりっこハウス，里山
	高齢化		（再開発）	買物難民，見守り			高齢者きずな
	観光	おんぱく	おんぱく，柳ケ瀬日常ニナーレ	おんぱく	おんぱく	おんぱく	
	ゆるきゃら		やなな		亀姫	武将隊	
	コミュニティバス				加納めぐりバス	（大学アンケート集計で協力）	みどりっこバス
学校 若者	高校 中学 小学校 コミュニティスクール		長良高まちあるき 岐阜大附属小中学校	加納高校地域研究部 岐阜小学校	鶯谷中・高地域研究部，加納高校地域研究部，加納小，岐阜大附属小中学校	黒野小	藍川東中
	大学	（社会人院生）	地域学実習，柳ケ瀬日常ニナーレ	地域学実習，景観，空き家，町家利用	地域学実習	地域学実習	地域学実習 （団地）
資金	助成金	前面舗装・緑化補助金		景観形成市民団体 市民活動支援事業	景観形成市民団体 岐阜南ロータリー 岐阜加納ロータリー	市民活動支援事業，JA 補助金，地元企業協賛金	
行政		まちづくり協定 街並み整備整備事業	商店街，にぎわいまち公社	景観，にぎわいまち公社	景観，交流センター，にぎわいまち公社	（旧）教育委員会 社会教育課	
自治会連合会 まちづくり協議会				見守り，祭り・イベント，清掃	まち協・自治会， 中山道加納宿文化保存会	文化．歴史・スポーツ部会	まちづくり協議会

目次

はじめに：岐阜市と岐阜県地方自治研究センターの連携による協働研究…… 1

1. 岐阜市における市民協働と都市内分権…… 4
富樫幸一（岐阜大学名誉教授，地理学，岐阜県自治研究センター理事長）

2.「玉宮まちづくり協議会の歴史と現状」について ……17
高森正明（玉宮まちづくり協議会会長）

3. 柳ケ瀬のまちづくり
3.1 岐阜市柳ヶ瀬商店街における活性化活動への評価―本通り商店街店主に対する聞き取り調査を通して
……29
甲斐智大（岐阜大学地域科学部，地理学）
3.2 若者のまちづくり ……41
福富 梢（柳ヶ瀬を楽しいまちにする会社）

4. 金華のまちづくり……46
富樫幸一

5. 加納地域のまちづくり……56
富樫幸一（加納まちづくり会）

6. よみがえれ黒野城 : ふるさとのまちづくり市民活動…… 68
河口耕三（黒野城と加藤貞泰公研究会会長）

7. 絆を結ぶまちづくり：芥見東まちづくり協議会……88
山田正行（芥見東まちづくり協議会会長）

8. まちづくりの担い手としての高校生と岐阜市・高校の協働について……118
三谷　晋（岐阜大学地域科学部，行政法，岐阜県地方自治研究センター理事）

1. 岐阜市における市民協働と都市内分権

(1) 岐阜市の成り立ちと岐阜圏域の構成

岐阜市は，明治 22（1889）年の市制施行以来，当初の岐阜町とその周辺に，上加納村の岐阜街道沿いを加えて，2.5 万人の人口で市街地を形成した．その後，旧加納藩の城下町と中山道加納宿からなる加納町，厚見郡・方県郡・各務郡（明治 30（1897）年以降，稲葉郡）などの周辺の村々を合併し，1963 年にほぼ現在の市域となった．2004 年には羽島郡柳津町を編入している．

小学校区単位のまとまりがあり，公民館も小学校の敷地や建物内にあるのが岐阜方式の特色である．歴史的に遡れば，2022 年は多くの小学校の設立から 150 周年に当たっていたが，当時の村は財源が乏しく，住民の寄付を集めている学校を作っていったのである．芥見東のように，高度成長期に出来た団地でも，保育所や学校を自らの手で順番に立ち上げながらコミュニティを作り上げてきた．こうした背景が，多世代の地域と学校の連携の基盤となっている．残念ながら，大学進学や就職で市外に若い世代が流出していることが，高齢化と人口減少の要因としてある．

旧岐阜町の中の小学校区を単位とした 7 地区と，こうして編入してきた旧農村部，さらには人口の増加や郊外団地の形成で分離してきた地区を合わせて，現在では 50 の連合自治会の地区を持っている．ただし，少子化にともなう子どもの減少のため，芥見東と南，金華と京町，明徳と本郷，徹明と木ノ本で小学校の統合が行われている．

中心市街地（岐阜駅から金華までと，加納東と西），戦前の合併区域（旧郊外とする），戦後と平成の合併による郊外部の 3 つの地帯に分けて，さらに岐阜圏域を形成する各務原市，関市，現・瑞穂市，本巣市，山県市，羽島郡の笠松町と岐南町，本巣郡の北方町における人口の推移を図 1 に示す．岐阜市（柳津町の合併前）の人口は 1975 年の約 40 万人まで増加してきたが，その 3 地帯別では中心部の人口は 1960 年から減少傾向に入って，約 15 万人から 7 万人台まで半減した．旧郊外は地区によって増減があるが，合計では 18 万人程度で横ばいであり，戦後合併した地域での増加が中心部の減少を補ったため，40 万人前後で横ばいから微減となってきた．

一極集中的な他県の県庁所在都市や旧中核市と比較すると，全体で 2000 年頃に岐阜市が 40 万人，都市圏で 80 万人とほぼ同等であり，通勤通学などで関係する地域も約半分となっているのが特徴である．岐阜市の第四次総合計画では「コア 100 万構想」として，この広域圏の中心としての役割を果たすことを掲げている．しかし他方では，名古屋市や尾張地域の通勤圏にも入っており，常住地による就業（通学）人口の約 5％が愛知県側に通っている．つまり，名古屋大都市圏の中において，岐阜や大垣の生活圏の中心であるという二重の性格を持っている．

近年（2015 年 10 月～ 2020 年 8 月）の間の各地区の人口の変化をみると，マンション建設が進んだ中央の徹明

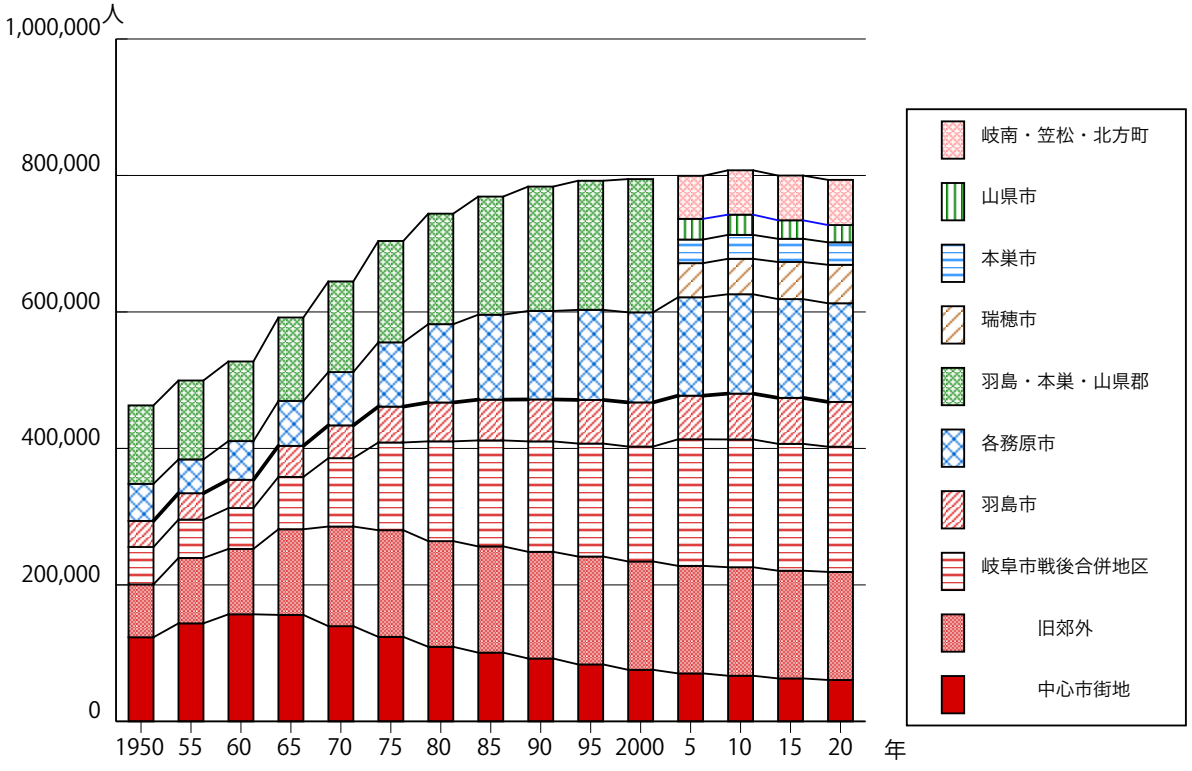


図 1　岐阜都市圏と岐阜市内の三地帯別の人口の推移

資料：国勢調査

や加納西が横ばい，もしくは増加に転じて，若干の都心回帰の傾向が生まれている．

これに対して，1960 年代から郊外団地の形成が進んでいた北東部の大洞（芥見東），藍川，三田洞（岩野田）では高齢化と団塊ジュニアの入出によって減少に転じている．

一方，区画整理や戸建て住宅の建設が近年，進んでいる岐阜環状線沿いの鶉，市橋，島，則武，そして各務原市に接する長森東での増加がみられる．

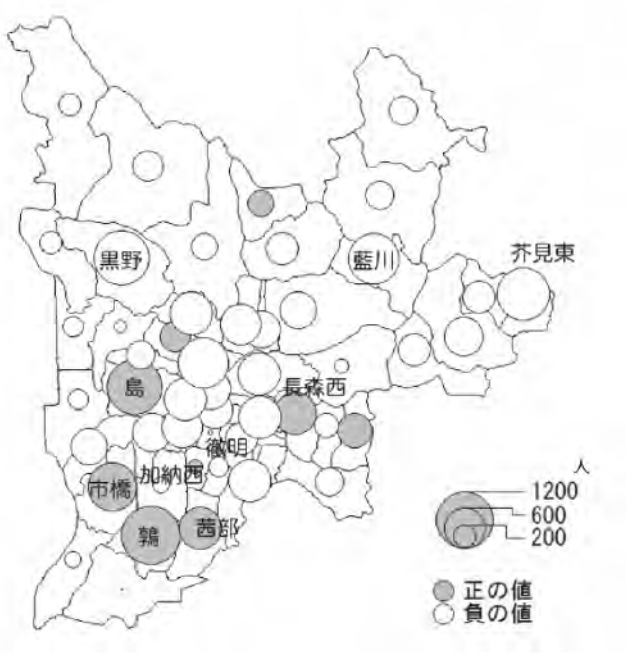


図 2　岐阜市内の地区別の人口の推移
2015 年 10 月～ 2022 年 8 月
資料：岐阜市統計書

(2) 市民協働と都市内分権，地域別ビジョン

岐阜市では 2004 年に「岐阜市協働のまちづくり指針」を策定して，住民自治や NPO などの活動の推進を図り，さらに 2007 年には住民自治基本条例を制定している．第四次総合計画の前期計画から，2004 年には「ぎふ躍動プラン」に切り替え，さらに「岐阜躍動プラン 2008」では「都市内分権」を掲げて，各自治会連合やコミュニティセンターなどの単位でのビジョンを初めて作成した．「多様な地域核からなる集約型の都市構造」を全体のビジョンとして掲げている．そして 13 地区ごとに人口や施設，地域資源，市民アンケートの結果，そしてワークショップを通じてそれぞれ３つずつの方針を作成している．「躍動プラン 2013」では，もう一度，住民によるワークショップによって，その見直しを行っている．並行して後述するまちづくり協議会の立ち上げが続けられていく（例えば三輪南）．岩野田北の「音楽」や「里山」のように，地域のテーマを積極的に持っている地域が出てきていた．

図 3　地域別ビジョン中央部①
ぎふ躍動プラン 21，2013

表 1　ぎふ躍動プラン 21 2013 における地域別ビジョン

中央部①（金華・京町・明徳・徹明・白山・梅林・本郷・華陽・木之本）	岐阜城や金華山，寺社などの地域資源を生かした「ぎふまち」の歴史文化の薫り漂うまち
	若者から高齢者まで住みやすいまち
	人が集い，にぎわう活力のあるまち
中央部②（加納東・加納西・茜部・厚見）	日常生活のなかに歴史が息づくまち
	多世代が交流し，見守り支え合うまち
	名鉄名古屋本線の高架化の促進などによる安全で安心な住みやすいまち
南西部①（本荘・三里・市橋・鏡島）	副都心に自然，歴史が調和したまち
	文化芸術機能を生かした教養豊かなまち
	住民の心が通い合い，災害などに強いまち
南西部②（鶉・日置江・柳津町）	住民によるまちづくりが活発なまち
	子どもから高齢者まで安全で安心して暮らせる，住みたくなるまち
	境川緑道公園などの豊かな自然と活力のある産業が融和したまち
北西部①（黒野・方県・西郷・網代）	東海環状自動車道の開通により岐阜市の新たな玄関口として若者が集い，にぎわいのあるまち
	都市農業や地域資源の活用などにより人が集い，つながるまち
	弱者に配慮した防災に強いまち
北西部②（木田・七郷・合渡）	伊自良川などの地域資源を生かした交流が盛んなまち
	交通環境の向上による便利で住みやすいまち
	子育て環境が充実したまち
北西部③（島・早田・城西・則武）	防災や防犯にしっかりと取り組む安全で安心なまち
	心が通い，つながり合うまち
	自然環境や伝統文化が継承されるまち
北東部①（藍川・三輪南・三輪北）	東海環状自動車道の開通により交流と産業が盛んなまち
	豊かな自然に囲まれ，子どもから高齢者まで，安全，安心に暮らせるまち
	人と人とがつながり，子育て環境がしっかりとしたまち
北東部②（岩野田・岩野田北）	百々ヶ峰，三田洞弘法，鳥羽川などの豊かな地域資源を生かした交流が盛んなまち
	生涯学習が盛んなまち
	子どもから高齢者まで安心して暮らせるまち
北東部③（鷺山・常磐）	鷺山城跡や畜産センター公園などの地域資源を生かしたにぎわいのあるまち
	高齢者が住みやすいまち
	住民によるまちづくりが盛んなまち
北東部④（長良・長良西・長良東	子どもから高齢者まで互いに支え合い，生き生きと暮らせるまち
	自転車による交通事故のない安全なまち
	道三塚や寺社などの地域資源を生かした観光のまち
南東部①（岩・芥見・芥見東・芥見南）	子どもから高齢者まで支え合い，生き生きと暮らせるまち
	ふるさとの歴史や自然など，豊かな地域資源を生かしたまち
	若者が集い，定住するまち
南東部②（日野・長森南・長森北・長森西・長森東）	豊かな自然と歴史文化を大切にした安らぎのあるまち
	子どもから高齢者まで安全で安心して，生き生きと暮らせるまち
	健康づくりの盛んなまち

(3) 岐阜大学地域科学部の地域学実習

地域科学部では３年生の地域学実習を必修としている．1997 年から学生を受け入れているので 1999 年が最初だったが，学際的な分野の教員がいることから，同じ地域で共同調査をすることが提案された．最初の 2000 年は，JR 岐阜駅から柳ケ瀬南部にかけての徹明地域（徹明小学校区）の自治会に働き掛けて，繊維問屋街，新岐阜と柳ケ瀬の商店街，小学校の児童達をめぐる調査を行った．続いて，この地区から北上して，2001 年には明徳，京町，金華，2003 年は加納でも実習を行った．こうした地域におけるまちづくりについては，本報告書でそれぞれまとめていく．

図３岐阜大学地域科学部の地域学実習におけるこれまでの調査地区とテーマ

(4) 岐阜大学地域科学部の実習，ぎふまちづくりセンターの活動（2001 ～ 15），岐阜市の諸計画

地域学実習	まちづくり会，市民活動	岐阜市・調査，計画等
1996 【岐阜大学地域科学部発足】		
1999		岐阜市中心市街地活性化基本計画
2000 徹明地区（問屋町，柳ヶ瀬）	美殿町都市景観まちづくり推進協議会	岐阜市第四次総合計画後期計画市民アンケート
2001 明徳・京町（大学病院跡地計画）	川原町まちづくり会 ぎふまちづくりセンター　都市景観サロン	
2002 金華，駅前再開発	伊奈波界隈まちつくり会	
2003 川原町，加納	岐阜三十六景 ぎふ空き店舗活用研究会	総合計画ワークショップ 都市再生モデル調査①長良川・金華山まるごと博物館構想
2004 柳ヶ瀬①	加納まちづくり会，岐阜スタイル 川原町まちづくり協定	岐阜市総合計画2004，新市建設基本計画（柳津町合併） 都市再生モデル調査②柳ヶ瀬～加納
2005 柳ヶ瀬②		
2006 （黒野①）	行ってきて岐阜のまち，マップ展 町家情報バンク 岐阜まち物語	
2007 （黒野②）	**「古今金華」**	市民アンケート，ワークショップ，地域別意見交換会
2008 柳ヶ瀬，明徳（住民，NPO等）		岐阜躍動プラン・21
2009 京町（高齢化）		中活計画（岐大医学部等跡地追加）
2010 長良川（早田）	イカス（旧）岐阜県庁舎の会	
2011 鵜飼屋・川原町	**「車を捨てよ，町へ出よう」** 長良川おんぱく	市民アンケート，市民討議会，地域別意見交換会
2012 長良川おんぱく	長良川おんぱく2012	岐阜市基本計画，中心市街地活性化基本計画2期
2014	サンデービルディングマーケット	
2015	まちづくりセンター終了，メディアコスモス開設	
2016	ぎふ　川原町	
2016	メディコスクラブ設立	岐阜市史現代編　編さん中

地域学実習と並行して，1999 年末に十六銀行から「産学連携地域活性化研究会」として地域科学部との連携の働きかけがあり，さらに「ぎふまちづくりセンター」の設立が提案された．この両者に加えて岐阜市，岐阜県岐阜地域振興局，岐阜商工会議所，後に岐阜青年会議所，岐阜信用金庫も参加する．総合計画のアンケート調査やワークショップとも並行しており，柳ケ瀬（3，は本報告の章）や隣の美殿町，金華（4），加納（5）などへ取組みの範囲を広げていく．

(5) 地域のソーシャル・キャピタル推進事業

岐阜市より「ソーシャル・キャピタル研究支援業務」を岐阜大学地域科学部の山崎仁朗が受けて，コミュニティ診断士や学生の協力を得て，2010 ～ 12（平成 22 ～ 24）年度の 3 カ年に掛けて，自治会連合会やまちづくり協議会を構成（結成）する住民団体への聞き取り調査が行われた．

「ソーシャル・キャピタル」とは，コールマンが資本を「装置，人的資本，人と人との関係」と再定義して，人と人との関係として用いた．続いて，パットナムはイタリアの北部と南部の対比から，市民社会の関係性が民主的な北部が，同時の経済的にも活力を持っていると論じている．しかしパットナムは，第二次大戦後のアメリカにおいて，人間同士の関係性が衰退してきていることを「ひとりぼっちのボーリング」として論じることになる．このキーワードを岐阜市の副市長が気づいて，このような各年度の地区における調査のきっかけを作ったと聞いている．山崎は「まちづくり協議会」の活動を把握し，発展させていくために次の用な図式を提示している．

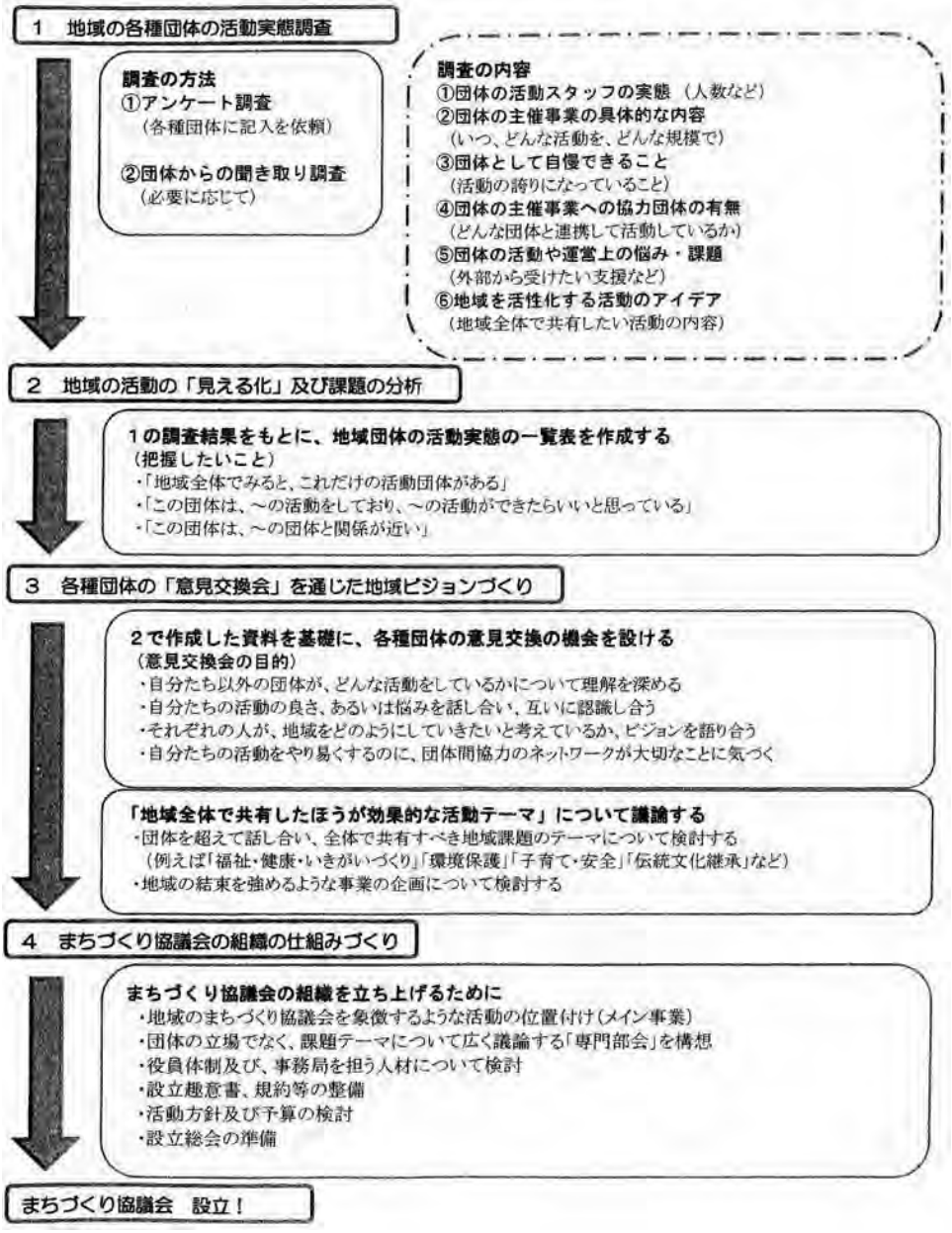


図 4　ソーシャル・キャピタル支援事業におけるまちづくり協議会設立へのプロセス

2011 年度：徹明，三輪南，岩野田
2012 年度：黒野，明徳，日野，茜部，柳津
2013 年度：黒野，明徳，三輪北

(6)「岐阜市協働のまちづくり推進計画 2023 － 2027（案）」(2023）へのパブリックコメントより

まちづくりと市民協働をめぐる現状と課題が具体的に記述されていたので，それに対する意見（富樫）からです．

1）まちづくり協議会の現状と課題

若い世代の地域活動への参加が少ない，担い手が不足しているなど，まちづくり協議会を運営する上での課題を抱えています．・・・協働のまちづくりに対する市民意識の醸成を図る取り組みは非常に重要です．

具体的にどうすればいいのか，どうしているのか．まちづくり協議会，例えば本郷地区のシンボルである並木を活かした「けやき祭」のようなケースもあります．アイデンティティをシンボルとした，楽しい活動を紹介してはどうでしょうか．若手が積極的に活動しているケース，例えば市民活動支援事業の日野南 FAM（お父さん達の夏祭）もあります．かがみはら暮らし委員会も参考になります．

自治会などの活動及び組織運営における役員の負担感が増しており，地域のまちづくりの担い手確保が課題となっている．世代や性別，国籍等によらない支え合いや連携により，交流・共生して地域社会を支え合うまちづくりが重要である中，地域社会を担う人材の発掘，育成が急務である．・・・④地域のまちづくり活動における負担感の軽減や新たな担い手確保等のため，これまでとは異なる組織運営，活動方法が求められている．

自治会への加入率の低下，役員のなり手の不足など，どこでも大きな問題となっています．「負担感」よりも，上記のようにみんなが参加できる楽しい活動，イベント，マルシェにすることで，住民の交流も促せるのではないでしょうか．例えば，リノベーションから始まった「ミライの参道まるけ」（善光寺前）では，多世代，地元のお店の参加もみられて，大きなにぎわいがうまれています．

2）自治会とまちづくり協議会の役割分担

その一方で，まちづくり協議会の将来像が見えない，自治会活動や各種団体の活動とまちづくり協議会としての活動との棲み分けも含め，具体的な事業展開に戸惑いがある，活動を推進するための事務局などの人材が必要といった声も聞かれます．・・・そのため，まちづくり協議会が自立した活動を行い，自ら地域の課題の解決に向けて取り組めるよう，支援していく必要があります．

自治（連合）会は，ほぼ敬老会，成人式，市民運動会，防災訓練など，毎年の定例の行事で手一杯です．地域の祭りが盛んなところ（岐阜祭，池ノ上の裸祭り，手力の火祭り）でも，人手不足感も大きいようです．それ以外の，防災や安全，コミュニティバス，里山，人の繋がりを生んでいく活動の可能性の方に，まちづくり協議会の役割があるのではないでしょうか（本報告書の金華，芥見東（7））．

3）財源の確保：助成金，負担金，クラファン，寄付，財団

施策の方向性

②将来的には，まちづくり協議会に一定の自由度の高い財源を付与し，地域の合意のもと，地域課題解決のための取り組みが実施されることを目指し，各種団体ごとに交付している補助金（現在の目的型の補助金）等について整理・統合するなど，地域の組織体制に合わせた財政支援を行うとともに，財源を適切に運用するためのガバナンス強化など必要な取り組みを進める．

まちづくり協議会への助成や，各種団体への補助金はありますが，少額です．活動を拡げていくためには，例えば，黒野城と加藤貞泰公研究会（6, 地元企業からの寄付金, JA の助成金），和傘の後継者育成や空き家•空き店舗のリノベーション（クラウドファンディング）もあることを紹介するといいかと思います．

4）市民の活動の交流と連携

【市民活動支援事業の推進】

①市民の主体的なまちづくりの活動提案は近年増加の傾向にある．一方で，活動メンバーが少なく，活動の担い手が不足している．

②市民活動団体間の交流・連携を図り，情報交換できる機会が少ない．また，市民活動団体自体が IT を活用した情報発信力を高めていく必要がある．

市民活動交流センターをはじめとする市の機関，産官学金の連携により設置された岐阜市まちづくりサポートセンター，（社福）岐阜市社会福祉協議会，（公財）岐阜市国際交流協会，（一財）岐阜市にぎわいまち公社など，民間の機関を含め様々な中間支援組織が存在し，それぞれの中間支援組織が相互の連携や情報共有を図ることで，多様な市民活動に対し，幅広く支援しています．

岐阜市まちづくりサポートセンターと連携した人材育成支援の講座を企画・実施するなど，中間支援機能を生かしながら，人材を発掘・育成し，地域のまちづくりへとつなげることに努めていきます．

中間支援組織，市民活動交流センター，生涯学習センターなど，テーマや課題によって窓口となる場を，具体的の紹介するとよいと思います．市民活動の助成金事業の提案や報告の場でも，グループ間での交流を大切にしています．メディアコスモスで再開した「毎月２木，みんなで集まって情報交換会」や「てにておラジオ」の番組にも，グループや個人が繋がる機会を作っています．地域の中でも，社会福祉協議会，包括支援センター，医療・福祉法人，民間企業でもコミュニティスペースが生まれています．

5）課題やテーマにそった市役所の各部署の支援

市の職員の意識や活動を高めることは大事ですし，地域担当職員制もあるでしょう．それよりもむしろ，地域の課題に即した関係部署が連携したサポートの方が有効ですし，実際に現場に出ていってます．

・商店街と自治会：経済部，まちづくり推進部，市民協働推進部，（にぎわいまち公社）
・観光：経済部，ぎふ魅力づくり推進部，まちづくり推進部（景観），（まちなか案内人）
・住宅地：福祉・医療，防災，公共交通，教育など

一方，市民活動の多様性と補完性があり，市民活動支援事業の提案と活動をみていると，福祉，教育などのタテ割りの「すき間」をカバーする活動がみられます．

6）都市内分権の体制の整備と強化：公民館，コミセン，支所の役割

協働のまちづくりの分野においては，行政から地域自治組織などの住民組織へ権限移譲する「都市内分権」や，概ね小学校区などの区域内に住み，又は活動する個人，地縁型・属性型・目的型などのあらゆる団体等により構成された地域共同体が，地域の実情及び課題に応じて住民の福祉を増進するための取組みを行う「小規模多機能自治」の動きが全国的に進んでいます．

公民館を拠点とすることは，自治会，まちづくり協議会にとってもなじみがあり，小学校との連携もとりやすいのでメリットがあります．しかし，館長と主事に，まちづくり協議会の事務局まで受け持つのは大きな負担がかかってきます．複数人のスタッフの確保，シフト制をしければいいかもしれません（例えば，関市の地域委員会では３人），もちろん，そうした人材の確保や育成も大事ですが，同時に継承性にもつなげられます．

都市内分権の 50 ある自治会連合会に対して，少人数のまちづくりサポートセンターや市民活動交流センターで支援するのは限界があります．各コミュニティセンターは，関係の自治会で指定管理を受けて運営されているし，支所も少ないながらあります．コミセンと支所を，いくつかのまちづくり協議会が連携して，運営や資金管理を行政側から支援するすこし広域的な拠点としてはどうでしょうか．　**（富樫幸一）**

まちづくり協議会

●「まちづくり」ってな～に？

- **市が行うまちづくり**
  - 道路や公園の整備
  - 教育や福祉など総合行政の推進
- **市民の皆さんが主体的に行うまちづくり**
  - 健康づくりやごみ減量
  - 美化運動や資源分別回収への参加など
- **市民と市が協働で行うまちづくり**
  - アダプトプログラム
  - まちづくり協議会の活動

市民の皆さんの生活に関わる様々な分野において、地域などをより良いものにするための取り組み。

●なぜ今、「まちづくり」が大切なの？

地域の課題		
・少子高齢化・人口減少 ・価値観の多様化	→	町内同士のつながりの充実
・震災や防災、防犯への備え	→	地域の連携・助け合い
・参加者の固定化 ・事業のマンネリ化	→	地域の活動の継続
・各種団体の事業の重複	→	情報の共有・相互理解

地域課題の解決に向けて

地域に暮らし地域を愛する皆さんが、お互いの理解を深め協力して地域課題の解決を図ることが求められています。

●まちづくり協議会は、どんな活動をするの？

■地域の**課題**、地域の**特性・資源**を見つけ、活動の展開方法を話し合う
（活動の**見直し**、企画運営の**工夫**）
■お互いが**情報**を**交換**し合う場の設定
■必要に応じて、**共通テーマ**ごとに専門部会を設置し、より**深い話し合い**を行う
■**幅広い年齢層**の住民とより多くの参加が得られるように**アイデア**を出し合う
■広報紙やチラシを作成し、地域への**情報発信**を行う

●まちづくり協議会ができると、何が変わるの？

①地域の未来を話し合う機会をつくる
「地域をこうしたい」という夢のある話をすることで
やらされ仕事ではなく、何のための活動か再確認できる

②後継者をつくり、組織をつなぐ
若者や女性、新住民など新しい人に、**ゆるやか**に活躍の
チャンスを与えて、活動の**後継者育成**につなげる

③協議を常設にして、活動をしやすくする
各団体から活動提案や呼びかけ、お願いをするときに、
「いつ、どこで話し合えるのか」がわかりやすくなる

●自治会とまちづくり協議会の比較

○○○地域

相互扶助

自治会

1. 住民自治基本条例第7条

相互扶助の精神に基づき、**地域住民相互の結びつきを深め**、地域住民の福祉の向上を図ることにより、**豊かで住みよい地域社会の実現に努めるもの**とする。（第4項）

2. 活動内容

■市からの受託的活動
→広報ぎふ、新成人を祝い励ます会、自主防災、資源分別回収など

■各種団体への助成（地域連携活動）
→子ども会など

■自主的活動
→運動会、文化祭、敬老会など

3. 組織体系

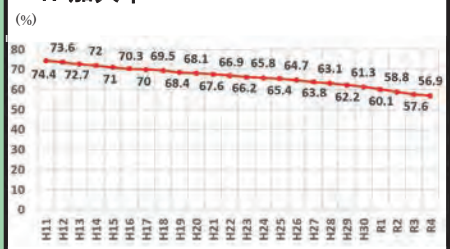
市全域で50地区 → 自治会連合会

市全域で約2,600 → 単位自治会

市全域で約11,000班 → 班（組）

会員

4. 加入率



比較1：条例の位置づけ

比較2：活動内容

自治会の自主的活動の一部を、まちづくり協議会が実施している場合もある。

比較3：組織体系

¥ まちづくり協議会の事業費の一部を自治会が助成

加入

参画

地域住民

1. 住民自治基本条例第7条

市民はコミュニティに対する理解を深め互いに協働してまちづくりの推進に努めるものとする（第3項）

自治会への加入及び自治会の活動への参加に努めるものとする。（第5項）

まちづくり協議会

協働

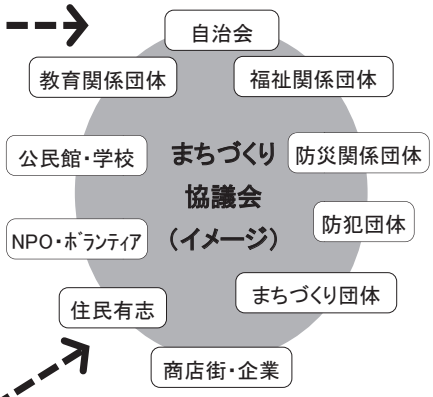
1. 住民自治基本条例第7条

地域住民が主体となり、地域のまちづくりを展開するため、**地域の将来像を描き地域における課題等について協議し、解決し、及び地域の特性を生かしたまちづくりを推進する**ことに努めるものとする。（第7項）

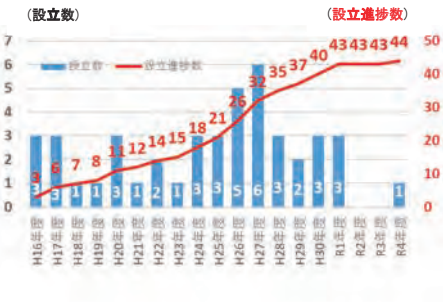
2. 活動内容（44地区の活動を分類）

■地域の課題を解決する活動
- 防犯・防災活動
- 福祉・健康活動
- 歴史・文化・教育活動
- 地域振興活動
- 環境・美化活動
- 広報活動
- その他

3. 組織体系



4. 組織数



¥ 自治会連合会運営費補助金
■1地区平均約61万円
（均等割額 456,000 円＋世帯割額）
※R3年度実績

¥ 地域力創生事業補助金
■1地区10、30、50万円
（1年目 10 万円、2年目以降 30 万円、まちづくりビジョン策定後 50 万円）

市民活動交流センター

まちづくり協議会設置状況

★ビジョン策定済み
（R4.11.12 現在）

地区名		協議会名称	主な事業内容
1	京町	京まちづくりの会 (設立 H16.5.31)	・防災マニュアル・ハザードマップ更新　・ふれあい市場の開催 ・「歴史を学ぶ会イン京町」の開催　・「京まち歴史散歩」等の普及
2	岩野田北	★岩野田北まちづくり協議会 (設立 H16.10.2)	・青色回転灯車両による防犯パトロール ・夏まつりの開催　・秋のウォーキングの開催
3	白山	響明るい白山まちづくりの会 (設立 H17.1.7)	・響白山夏まつりの開催　・夜間一斉パトロール ・安全安心ステーション活動（駐輪場点検）　・岩戸川清掃
4	西郷	水と親しむ西郷まちづくり推進協議会 (設立 H17.4.19)	・板屋川清掃活動　・ホタルまつりの開催 ・西郷ふれあい夏まつり　・カワニナ水路 西郷小ビオトープ清掃
5	芥見南	★芥見南・安心・安全なまちづくり委員会 (設立 H17.7.25)	・シデコブシ花見会　・ふれあい花壇交流会 ・みんなの祭りの開催
6	鷺山	★鷺山まちづくり協議会 (設立 H17.8.30)	・鷺山夏祭り大会の開催　・地域みまもり活動 ・ホームページによる情報発信
7	芥見東	★芥見東まちづくり協議会 (設立 H19.1.26)	・「お花見カラオケ春祭り」「ほたる祭り」の開催 ・夏祭り
8	鏡島	鏡島まちづくり協議会 (設立 H19.7.1)	・凧揚げ大会の開催　・鏡島太鼓活動　・鏡島ウォーキング大会 ・青色回転灯車両による防犯パトロール　・盆踊り大会
9	日置江	日置江地域まちづくり協議会 (設立 H20.6.18)	・碧江灯籠まつりの開催　・ふれあい町内づくりラジオ体操会 ・青色回転灯車両による防犯パトロール　・三世代軽スポーツ大会
10	三里	三里まちづくり協議会 (設立 H20.6.20)	・青色回転灯車両による防犯パトロール　・あいさつ運動の推進 ・三里夏まつりの開催　・餅つき大会の開催
11	則武	則武まちづくり協議会 (設立 H20.12.6)	・則武夏まつりの開催　・地域ボランティア活動 ・清掃活動の参加　・市民運動会の共催
12	本荘	★本荘まちづくり協議会 (設立 H21.5.15)	・ひとり暮らし高齢者の集い　・本荘大家族ふれあい広場 ・本荘ふれあい夏まつりの開催　・子育て支援事業
13	合渡	合渡まちづくり協議会 (設立 H22.5.30)	・各地域夏祭り　・天王川堤防植樹　・子ども見守り活動 ・祭いこまい中山道河渡宿　・凧あげ大会の開催
14	芥見	★芥見まちづくり協議会 (設立 H22.10.16)	・放課後子ども教室 土曜寺子屋　・お互いさまネット芥見 ・「芥見の将来に寄せる小中学生の夢」絵画表彰　・男の料理教室
15	三輪南	★三輪南まちづくり協議会 (設立 H23.6.25)	・ホタル祭りの開催　・みなみっこ祭りの開催 ・ふるさと福祉村　・子ども安全サミット
16	日野	日野まちづくり協議会 (設立 H24.7.22)	・夢づくりふれあい事業　・子どもの見守り活動　・日野フェスタ ・日野市民消火隊の活動
17	茜部	茜部まちづくり協議会 (設立 H24.7.29)	・茜部あんどん祭りの開催　・三世代ふれあい軽スポーツ大会 ・夢ふれ愛あかなべ　・歩け歩け健康づくり
18	島	★島まちづくり協議会 (設立 H24.8.8)	・島地域安全パトロールの実施　・島まちバザーの開催 ・門松作成と配布の協賛　・「島まち歴史講座」
19	本郷	★本郷まちづくり協議会 (設立 H25.6.20)	・本郷けやき祭りの開催　・高齢者・子育て支援 ・外国人市民との交流
20	黒野	黒野まちづくり協議会 (設立 H25.10.30)	・高齢者見守りの継続　・ラジオ体操会の開催 ・黒野歴史探訪
21	長良東	長良東まちづくり協議会 (設立 H25.12.6)	・健康まつりの開催　・花壇つくり活動 ・陽光さくらの接ぎ木実習
22	明徳	明徳まちづくり協議会 (設立 H26.12.19)	・岐阜祭り「若戎号」への協力　・餅つき大会の実施 ・自転車安全点検　・地区マップの（公衆電話、消火器など）作成
23	藍川	★藍川まちづくり協議会 (設立 H27.1.16)	・藍川夏まつりの開催　・「僕私の将来の夢」作文絵のコンクール ・星の勉強会観る会　・歩け歩け健康ウォーク
24	三輪北	三輪北まちづくり協議会 (設立 H27.2.2)	・夏祭りの共催　・防災訓練の開催　・市民運動会の共催 ・文化のつどい、ふれあい広場の共催
25	常磐	ときわまちづくり協議会 (設立 H27.2.10)	・夏祭りの企画、運営　・市民運動会の運営 ・まちづくり啓発活動　・各種団体支援
26	鶉	鶉まちづくり協議会 (設立 H27.3.1)	・夏まつりの開催　・青色回転灯車両による防犯パトロール ・通学路の見守り活動　・のびのびうずらっこ教室

地区名		協議会名称	主な事業内容
27	岩	岩まちづくり協議会 (設立 H27.8.30)	・夢づくりフェスティバルの開催　・認知症サポーター養成講座 ・コミュニティバスの利用促進検討
28	城西	城西まちづくり協議会 (設立 H27.10.21)	・地区内危険箇所の把握と改善　・早田川クリーン作戦 ・萱場音頭復活保存に向けた推進活動　・３世代交流餅つき大会
29	七郷	七郷いきいきふるさとづくり 委員会 (設立 H28.1.17)	・ひとり暮らし高齢者の集い　・やろまいか！七郷なつまつり ・文化祭
30	柳津町	★柳津町まちづくり協議会 (設立 H28.2.10)	・どんと！こいこい祭りの開催　・オレンジカフェ ・原三渓翁顕彰写生大会作品展　・市民運動会
31	厚見	厚見まちづくり協議会 (設立 H28.2.28)	・一人暮らし老人支援活動の実施　・見守り活動の実施 ・花もちづくりの開催　・夏祭りの協賛
32	早田	早田まちづくり協議会 (設立 H28.3.9)	・ぎふ早田太鼓の普及　・５校ふれあい交流事業の実施 ・郷土芸能「正調新調拍子踊り」の普及
33	金華	★金華まちづくり協議会 (設立 H29.2.17)	・金華の歴史文化の発掘と発信　・ふれあいサロン活動等の協力 ・金華篝火塾と篝火賞　・「互金助愛」ネットワークサービス
34	木之本	★木之本まちづくり協議会 (設立 H29.2.19)	・児童登下校見守り活動の実施　・道三祭り子ども神輿参加 ・支え合いマップづくり　・三世代ふれあいカーニバル
35	加納東	加納東まちづくり協議会 (設立 H29.2.26)	・清水川さくらまつりの開催　・ほたる鑑賞会の開催 ・三世代交流ふれあい盆踊り大会の開催
36	徹明	徹明まちづくり協議会 (設立 H29.12.6)	・登下校の見守り　・てつめい未来塾　・もちつき大会 ・全地域合同ラジオ体操　・ビオトープ整備
37	加納西	加納西まちづくり協議会 (設立 H29.12.15)	・清水川清掃　・市民運動会　・加納西校区文化祭 ・美濃中山道ふるさとまつり　・青色回転灯車両によるパトロール
38	市橋	市橋まちづくり協議会 (設立 H31.2.16)	・運転者横断歩道停止運動　・市橋ふれあいフェスタ ・男性の料理教室
39	梅林	梅林まちづくり協議会 (設立 H31.2.16)	・学校下校時の見守り　・地域の夜間パトロール ・防災ウォーク　・盆踊り大会　・子供フェスティバル
40	木田	★木田まちづくり協議会 (設立 H31.2.23)	・防犯パトロール隊活動　・ミニコンサート ・木田ふれあい夏まつり　・青色回転灯車両によるパトロール
41	岩野田	★岩野田まちづくり協議会 (設立 R1.10.26)	・「岩野田・まち協だより」の発行　・朝の交通安全活動 ・危険個所・不備な箇所の洗い出し　・文化祭＆演奏会の開催
42	長良西	長良西まちづくり協議会 (設立 R1.11.1)	・事務局機能の充実　・まちづくりの芽の継続的なチェック ・情報誌の発行　・子どもの地域活動への参画の場づくり
43	長森東	長森東汎愛の郷づくり協議会 (設立 R2.2.29)	・地域のふれあい推進（夏祭り）　・文化祭　・防犯パトロール ・「長森東汎愛の郷だより」の発行　・ホームページの開設
44	長森西	長森西まちづくり協議会 (設立 R4.11.12)	・まちづくりの芽の発見　・情報誌の発行 ・次年度以降の活動検討

まちづくり協議会の今後

岐阜市は、人口減少社会、高齢社会が現実化するなかで、人々による相互扶助の社会基盤をしっかりと地域社会につくりあげるためにも、全 50 地区へのまちづくり協議会の設立を促進し、市全体として地域の課題に取り組むことができる体制を整えていきます。そして、全 50 地区にまちづくり協議会が設立された段階で、まちづくり協議会を束ねる連合した住民組織制度の導入を検討すべきであると考えています。

まちづくり協議会の最終的に求められる姿は、市から一定の自主財源が付与され、住民自身がまちづくりの主体として、責任を担いながら、財源を執行していく、いわば自立した組織であることです。このような自立型のまちづくり協議会は、多様な地域核のある都市として、地域独自の多様性を生み出し、地域の持続性、継承性を維持する重要な住民自治の目指すべき姿となるものです。

さらに、自主財源を活用した自らの公益性ある地域活動、住民自治活動を行うのに加え、地域内のボランティアや様々な住民活動を支援するなど、小規模な住民自治を活発化させるような、地域の住民自治のリーダーシップを担うことも役割として期待されるところです。

こうした中で、まちづくり協議会の活動と行政からの支援についても様々な考え方に基づき補助金との整理をする必要があります。そこで、まちづくり協議会を支援する地域力創生事業制度の再設計を検討していく中で、一律な枠組みを行政が押し付けるのではなく、地域のニーズにあった支援や組織体制のほか、自主的な地域活動事業や行政への協働事業に関する提案などの地域の声や考えをとりまとめた「(仮称)我がまちプラン書」の策定により、市が地域の自主性を尊重し、多様性と個性ある地域づくりと、成熟度の高い住民自治を促進していきたいと考えています。

～岐阜市都市内分権推進構想（平成 27 年３月策定）より～

2「玉宮まちづくり協議会の歴史と現状」について

(1) はじめに

本稿の目的は,「玉宮まちづくり協議会」の設立当初から現在までの活動と現状について明らかにし，どのような課題があるかについて述べる.

「玉宮まちづくり協議会」は，まちの再生に向けて玉宮通り商店街の沿道住民，事業者が一体となって 1990 年 2 月 22 日に設立した．設立 2 年後には「まちづくり協定方式」による「玉宮通りまちづくり協定」が締結された．この協定の狙いは,「玉宮通りのまちづくりは，関係者（任意団体玉宮まちづくり協議会会員 100 名，沿道住民，事業者）に対してまちづくりの意思統一を図り，横浜馬車道通りを参考に，店舗と住宅が一体となった魅力的なショッピングモールをつくるために，まちづくり全般に渡り取り決めを定めたものである.」

玉宮通りまちづくり協定の街並み整備のルール化によって景観は，個性的な商店街に大きく変化し，住民と行政が一体となって魅力ある街並みを形成することに成功した．特徴的な街並みは，1.5m セットバックした前面空地，半地下建物，通りもインターロッキングブロックという舗装方式が施された．その結果，街並み整備の促進とあわせて，新しい社会実験の開催によるまちづくりの展開として，オープンカフェ社会実験や落書きクリーンアップキャンペーンなども行われた．このように，玉宮まちづくり協議会の沿道住民，事業者が主体となり，行政と一体となって魅力ある街並みを形成したまちづくりは，画期的な取組みとして県内外から注目を浴びた．しかしまちづくりは，取り巻く環境の変化に対応しつつ，課題を示しながら現在に至っている.

(2) 玉宮通りの位置

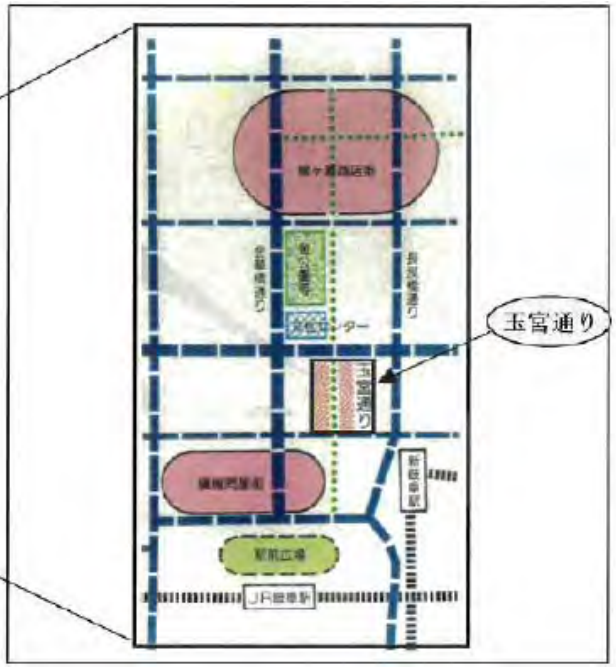


図 1　玉宮通りの位置　　図 2　玉宮通りは JR 岐阜駅と柳ケ瀬の中間に位置している
左：岐阜市中心市街地基本計画（平成 30 年 4 月）44 頁　右：玉宮まちづくり協議会パンフレットより

本稿が対象としている玉宮通りは, JR･名鉄岐阜駅と柳ケ瀬との間にあり, 長良橋通り（旧神田町通り), 長住町通り, 金華橋通り（旧平和通り），金宝町通りの四方に囲まれた玉宮地区の中央に位置し，南北 280m，幅員 6m の玉宮通り商店街である.

(2) 歴史的背景

2-1　玉宮通り商店街の歴史

古くは商人の町として栄えた岐阜の町は，明治の鉄道開通で大きな発展を遂げた．戦前の岐阜駅周辺には，長良川の川運を利用した丸太の木材を製材し販売する材木屋が多数存在した（※ 1）．戦後，岐阜駅前は，ハルピン街（※ 2）を起点とした岐阜駅前繊維問屋街とともに発展してきた．

玉宮通り商店街（以下，玉宮通り）は，岐阜繊維問屋街の隆盛に伴い，全国から問屋町に買い付けに来る人達で，商人宿，喫茶店，食堂なども賑わっていた．さらに，公共交通機関を利用して岐阜駅から柳ケ瀬，司町方面の官庁及びビジネス街の朝夕の通勤客通りでもあり，近隣の主婦らが徒歩，自転車などを利用して日用品を買求めたり，問屋町周辺に暮らす住民や問屋町で働く人達が，主に毎日の食材や日用雑貨品の買い物をする商店街でもあった．土日や祝祭日は，パルコなどの大型商業施設に寄り，玉宮通りのブティックに買物客が集まった．1980 年代の後半は，バブル景気が助長して比較的高級なブランドの扱うブティックが営業していた．

2-2　蒔田浩市長より玉宮まちづくり協議会へ感謝状贈呈

市長からの感謝状の贈呈

（注）1992（平成 4）年度の総会が開催され，
蒔田市長（左）から感謝状が贈呈された．

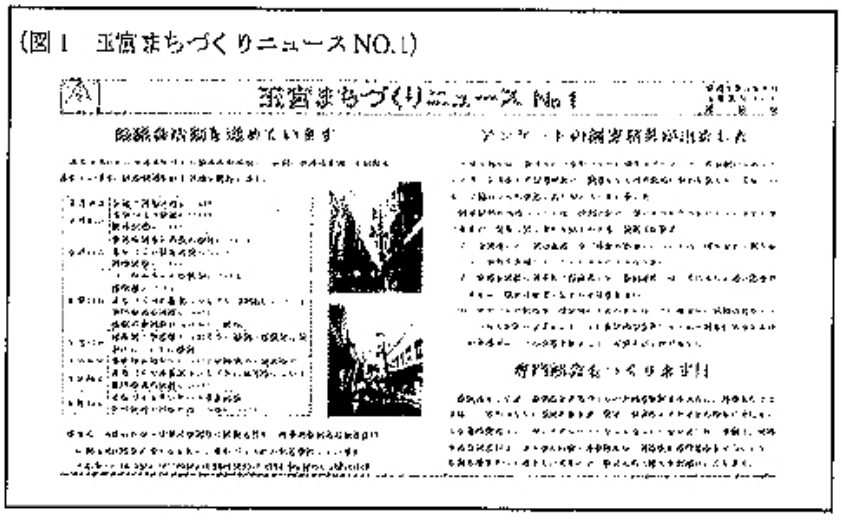
1992（平成 4）年の提起総会では，蒔田浩岐阜市長から玉宮まちづくり協議会（以下，本協議会）に感謝状が贈呈された（写真）．

蒔田浩市長は，「市内で初めてスタートする住民自らのまちづくり協定にそった事業推進が出来るように行政としてもバックアップしたい」と述べられた．本協議会では，玉宮通りまちづくり協定（以下，まちづくり協定）を中心に，街路灯整備，愛称シンボルカラー，統一看板の考え方について討議した．（玉宮まちづくりニュース 12 号（1992 年）より）

2-3　調査方法とデータ収集

筆者が，フィールドワークの基本となったのは，まちづくりに関連する参加であった．調査は，まちづくりの活動と関連がありそうな組織や人から出来事などについての情報収集をした．

参与観察は，実際に会議に参加したり，まつりなどの地域イベントの実行役を通じて，状況を把握した．インタビューは，設立当時の故役員に行った．情報が乏しい中，「玉宮まちづくりニュース」は，B4 両面カラー印刷で，創刊から 20 号（平成 2 年 10 月 8 日から平成 8 年 7 月 8 日）まで発行された．今となっては，「玉宮まちづくり協議会」の設立当時の様子を知るには，貴重な情報源であった．


(図 1　玉宮まちづくりニュース NO.1)

玉宮まちづくりニュース創刊号（平成 2 年 10 月 8 日）

調査は，参与観察，インタビュー，玉宮まちづくりニュース，新聞の切り抜きから得たデータを収集した．「玉宮まちづくりニュース」が，本協議会故役員 H 氏から生前に引き継いだもので，唯一，貴重な資料である．このニュースの出来栄えから想像して，当時の印刷技術は現在と比較すると格段に落ちるが，「総会の開催状況，参加者の熱心な協議内容，講師を招いての熱心な勉強会の様子がよく紙面から受け取ることができる．」

(3)「都市ファッションストリート構想」と「ショッピングストリートの整備」について

3-1　第 1 回岐阜市議会定例会（1981（和 51）年）において

この市議会では，王宮通りを「玉宮通りショッピングストリート」として整備することを審議したもので，岐阜駅前商業地と柳ケ瀬を結び，岐阜市中心市街地の活性化を狙いとした中心部の流動性を高めることを基本方針とした．

この定例市議会（以下，本市議会）が開催され，「都市モデル構想ファッションストリート」について質疑応答が行われた本市議会会議録（昭和 56 年，292 ～ 294 頁）によると，冒頭，蒔田市長と伊藤博議員の質疑が行われた内容が会議録にのこされていた．この本市会議で「都市モデル構想ファッションストリート」についての審議を経て，岐阜市第三次総合計画で実施されるようになった．

伊藤博議員の質問の抜粋内容

「岐阜駅前と柳ヶ瀬を結ぶファッションストリートについて，岐阜駅前のコマーシャルゾーンと柳ケ瀬コマーシャルゾーンの人の流れは急変されると推測される場合は非常に重大な事柄であるためマスタープランの作成」を依頼したい（昭和 56 年本市議会会議録 287-288 頁）．

蒔田市長の回答の抜粋内容

「これからのショッピングは，きわめて楽しくできると，そして通りは公園的な広さを持ち，専門的な商店街が非常に切望されていることは事実であるから，他都市を見てデザインをしていくことを強く思う」，さらに「岐阜駅と柳ヶ瀬を結ぶファッションストリートについて，岐阜駅前のコマーシャルゾーンと柳ケ瀬コマーシャルゾーンの人の流れは急変されると推測される場合は，非常に重大な事柄であるためマスタープランの作成を依頼した」と答えている．＜中略＞又，「鉄道高架事業をきっかけとして，駅前周辺全体の再開発問題は，岐阜市としましては，市の生命となるべき大きな事業であろうということと同時に，いま産業の進展のとにおいてセンター，まあ観光物産館，商工物産館と申しますか，そういう施設を建てるような計画に今進みつつあるわけである．」更に「玉宮通りを柳ケ瀬に繋ぐ道路としてショッピングモールとして開発すべきである」と答えている（昭和 56 年，本市議会会議録 287-294 頁）．

このように中心市街地の「都市ファッションストリート構想」について議論が尽くされ，お酒落で魅了的な玉官通りの歩行者空間づくりへと第一歩が動き出した．しかし，その後，岐阜市郊外への大型商業施設の郊外進出が盛んに行われ，駅前の大型店の閉店と郊外での開店ラッシュ（※ 4）が続いた．そのため，次々と人出が流出したことも重なり，岐阜駅前繊紺問屋街の衰退に伴い玉宮通り商店街も廃業する店も出始めた．廃業した店舗では，テナントを募集し，入居するテナントは建築物を活かしたまま改修を加えて新店舗として営業した．飲食店を始め美容室，ラーメン屋，若者対象のブティック，マッサージ店と色んな店舗が入居し始めてきた．

街並み整備推進事業の一環で行った「光と緑，あふれるショッピンク，モール」．玉宮通りでは街路灯の上部に設置されたブルーとグリーンの「リボン型イルミネーションＪ を設置した．当時ファッションストリートとして周囲から注目された（1993（平成 5）年岐阜市王宮通り（岐阜新聞，1993 3.25 より）（※ 5）．

3-2　コア 100 万計画と市民オーナーシップ計画

1986 年市議会の答弁内容が，5 年後の 1986（昭和 61）年，岐阜市第三次総合計画（岐阜市新都市開発推進部）において具現化され，玉宮通りがファッションストリートとして整備する方針が打ち出された．その後 1989（平成元）年において「岐阜駅前地区地区更新基本計画」において，ショッピングプロムナードとして整備されることになった（岐阜市史通史編現代Ⅱ，99 頁より）

1999（平成 11）年に岐阜市は第四次総合計画において，「街まるごとファッションパーク」の実現をめざした．総合計画の基本構想として「コア 100 万計画」と「市民オーナーシップ計画」の二つの重点施策が掲げられた．

「コア 100 万計画」は，中心市街地の整備改善及び商業などの活

性化の一体的推進に関する法律，コンパクトシティに通じる考えが見られる．「市民オーナーシップ計画」は，市民一人一人が社会課題を自らの課題とし，自発的に行動する主体であることを示した上で，市民としての新たな協力関係を構築する考え方である．この考え方は時代の流れに即した計画であったといえる．その理念は，「暮らしの安全条例」「自然環境保全に関する条例」「環境基本条例」に反映される．このような計画理念に基づく具体的な取り組みが，民と官双方で次々と実施される（岐阜市史通史編現代Ⅱ，214 頁より）．

3-3　岐阜市の地域再生計画（内閣府地方創生推進事務局）

岐阜市は，2003（平成 15）年「都市再生特別措置法」に基づく「都市再生緊急幣備地域」の指定を受け市街地の整備を進めていた．岐阜市の地域再生の期間を 2004（平成 16 年 6 月）年～ 2009（平成 21 年 3 月）と定め，名称を「玉宮通り光と緑あふれる歩行者空間創出による地域再生」として，特に岐阜駅と柳ケ瀬を結ぶ地域の中心に位置する「玉宮通り」において「信長まつり」の開催に併せて「玉宮まちづくり協議会」が主体となり各種イベントと，オープンカフェ等社会実験を先導的に実施することで，岐阜市中心市街地に相応しい「まちづくり」を推進した．

こうした計画の中で，玉宮通りは，岐阜駅前と柳ケ瀬間に位置する主要な歩行者動線軸であり，道路を有効活用する社会実験を通して，安全性・利便性・快適性を高め，「光と緑あふれるショッピングモール」を創造し，商店街としての賑わい，魅力あるまちなみの形成により，活力ある中心市街地を再生し，個性的な，岐阜市の都心地区に相応しいまちづくりを推進した（地方再生制度パンフレット，2022（令和 4）年 7 月）．

3-4「ぎふ躍動プラン 21」

この地域再生計画の実施が地域に及ぼす経済的社会的効果について，「ぎふ躍動プラン 21」（人・まち・自然個性輝く市民協働都市ぎふ）で定めた「ひと・もの・情報が行き交う交流環境づくり」の指標として，街の賑わい度を表すものとして，都心部等において通行者数（2002（平成 14）年，335，622 人）を，2008（平成 20）年には 380，000 人とすることを目標に掲げ，岐阜駅前から柳ケ瀬にいたるショッピングコアと位置づけた上で，まちなか回避ゾーンの形成を図ることで地域内の流動性を高めることを基本方針とした（岐阜市史通史編現代Ⅱ，14 頁）．

（4）変革期を迎えた市民のまちづくり

まちづくりの変革は，「陳情型」,「行政指導型」, 地域と市が役割を分かち合う「まちづくり」へと変革期を迎えた．岐阜市新都市開発部は，1986（昭和 61）年にファッションストリートとして位置づけられた玉宮通りを，市の助成制度の「街並み整備事業推進事業」により官民一体でまちづくりを推進した（1993（平成 5）年開始, 岐阜新聞参照）．本協議会設立以降も，住民合意のまちづくり協定書という自主規定を掲げ，イベントなどのソフトの両面も重視したまちづくりを推進した．行政指導型のまちづくりから市民参画のまちづくりの手法は，やがてさまざまな分野のまちづくりへと広がった．

（5）玉宮通りと周辺地域の飲食店の出店状況

① 2000（平成 12）年頃

この頃の玉宮通り商店街は，商人宿の他に，鮮魚店，精肉店，呉服店，スポーツ用店，喫茶店が営業していた．当時の喫茶店は，特にモーニングに力をいれ，日替わりランチも人気があった．

② 2010（平成 22）年頃

この頃は景気が良く, フランスの高級ブランドを扱う店舗から若者の服飾雑貨（11）のブティックが営業していた．商人宿は来客が減り営業をやめた．高級ブティック以外の店舗では，美容・理容店（7） あり，近隣の多くの家族が利用していた．他に，呉服店，スポーツ洋品店，精肉店，鮮魚店，割烹料理店，革製品店，麻雀荘で構成していた．

また，（株）ぶらっ菜ググループと（株）IBS グループの二つ代表グループの居酒屋が柳ヶ瀬から玉宮通りに出店してきた．この二つのグループの成功を夢見て若い個人事業者の出店が目立ち，飲食店が図の東方向に向かって半放射線を描くように広がった形跡が分かる．

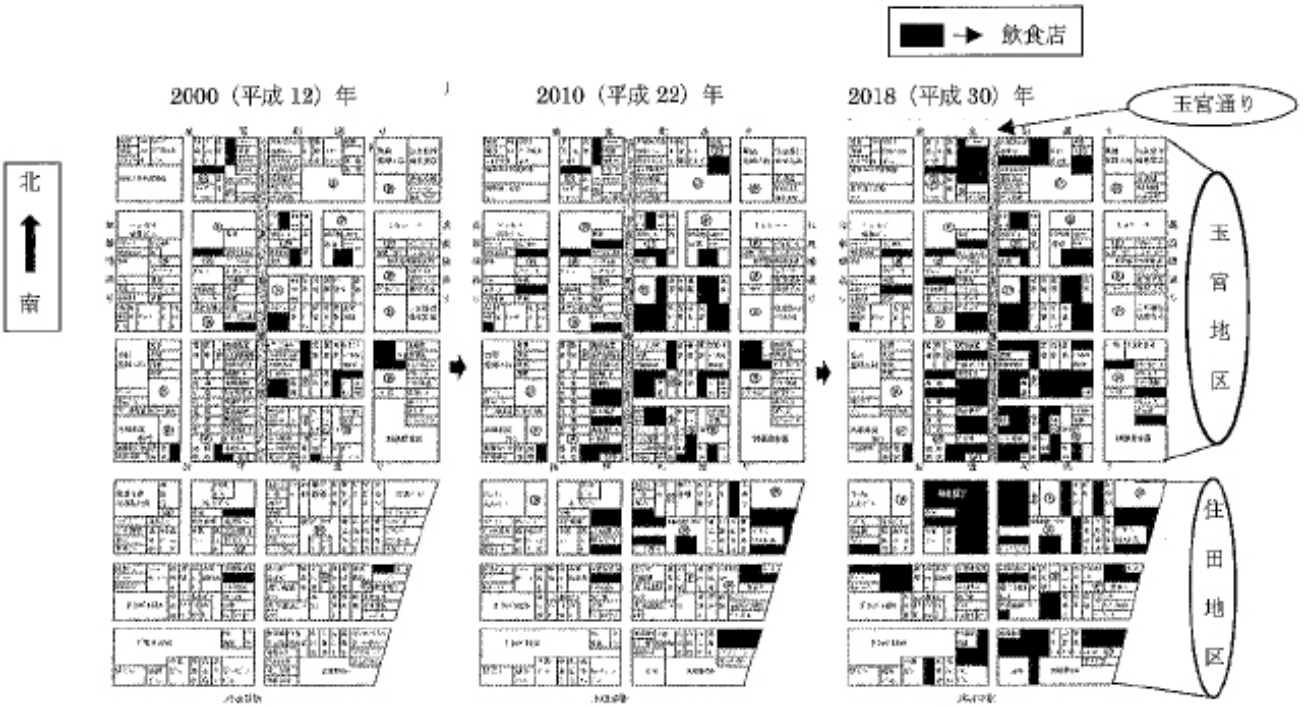


図 3　2000 年，2010 年，2018 年の居酒屋の出店状況
（注）① 2000 年，② 2010 年，③ 2018 年年度別に飲食店（居酒屋）の出店の変化を中心に集計した．
（資料）「ゼンリン住宅地区」（株）ゼンリン，「岐阜市都市地区」昭文社，ヒアリングにより著者が作成．同志社大学今出川キャンパスで行われた第 16 回「日本企業経営学会」全国大会（2018.8.23）で研究事例発表した「賑わいを取り戻した岐阜駅前商店街再生の歩み—リボンの街から洋風居酒屋への再生—」に加筆修正を加えたものである．

③ 2018（平成 30）年頃

この頃は，玉宮地区では居酒屋が出店する店舗の余裕がなく，玉官通りから長良橋通り，住田地区へと広がっていった．この頃の出店は「路面店」（ストリート）として物理的に困難となるため，「雑居ビル」に出店する個人事業者も出てきた．

このように，時代の流れで，夜の盛り場として様変わりしてきた．この時代の変化は，1990 （平成 2）年に立ち上げた本協議会が描いていた「魅力」と「賑わい」があるファッションストリートの業種と違った新たな業種の出店が目立ち始めた．

玉宮地区，住田地区（岐阜繊維問屋街東部地区）に居酒屋の出店が多くなった理由は，① JR・名鉄岐阜駅に近くにあればギリギリ最終電車の時刻まで飲めるという利便性に富んでいた．②　家賃が柳ヶ瀬と比べ安かった．当時，出店する店舗物件が路面店が多く，家屋一軒分の広さで借用できるという営業的なメリットの魅力があった．柳ヶ瀬に比べると，防犯上安心な街である，などがあげられる．

(6) まちづくり協定による玉宮通りのまちづくり

6-1　協定内容

玉宮まちづくり協定（※ 6）の設立の狙いは，お洒落な横浜の馬車道通りを夢見て楽しいショッピングができることである．歩いて楽しいストリートの賑わいを狙ったものである．

本協議会の専門部会において，まちづくり協定方式（※ 7）による「玉宮通りまちづくり協定」を締結した．その内容は，お洒落で魅力のある商店街に昨生するために，6m の幅員をどうやって広く見せるかが課題となった．通行しやすくするために，建物の開口部を広くし，更に前面から 1.5m セットバックして前面空地や半地下建設を行い，通りに広がりとゆとりを見せる工夫をした．更に，土地を有効利用するために建物の共同化を進めたり，ベンチの設置，緑化を推進するのに植栽をしたり，看板の統一などをルール化した中心市街地のショッピングストリート構想であっ

た． 1993（平成 5） 年「街並み環境整備事業」，1994（平成 6）年に「カラー舗装等道路修景事業」が行われファッションストリートに相応しいお酒落で魅力的な商店が出来上がった．

6-2「がんばる商店街 77 選」に選定（平成 18 年，経済産業省中小企業庁）

オープンカフェ社会実験などから，商店街のモール化と賑わいの仕掛けづくりにより商店街の集客力が向上することが実証され，その後，信長まつり時等定期的に道路空間を活用した取組を（写真 1 ①～③）実施した．玉宮通りのこうした継続的な取組みが評価され，平成 18 年，経済産業省中小企業庁により，「がんばる商店街 77 選」に選定された（岐阜市まちづくり推進部『2 期岐阜市中心市街地基本計画』平成 24 年，岐阜市より抜粋）．

表 1　玉宮通りのまちづくりの歩み

年代（年）	内容
1981（昭和 56）	第一回岐阜市議会定例会議開催（3 月）．蒔田市長「王宮通りを岐阜市に新しい買い物ができるショッピングモールとして開発すべきである」と述べた．（第一回義岐阜市議会定例会議録 287 頁～ 297 頁）
1986（昭和 61）	岐阜市第三次総合計画「玉宮通りがファッションストリート整備方針」
1988（昭和 63）	岐阜駅前地区更新基本計画策定（玉宮通りの歩行者軸の位置づけの確定）
1989（平成元）	岐阜駅前地区更新計画の建設大臣承認
1990（平成 2）	玉宮まちづくり協議会設立．玉宮まちづくりニュース（20 号迄 1996 年） 建設大臣賞の承認（ショッピングプロムナードの）
1992（平成 4）	玉宮通りまちづくり協定の締結．内容を地元住民が承認(街路整備構想, 年度末のイベントの実施, 協定に基づく具体的な改装計画）
1993（平成 5）	街並み整備推進事業制度の創設（前面空地部分の舗装費，緑化費補助）
1994（平成 6）	北側半分の街路修景（カラー舗装化，街路灯の設置，電柱の美装化） 協働型まちづくりを推進
1995（平成 7）	南側半分の街路修景（カラー舗装化，街路灯の設置，電柱の美装化）
1996（平成 8）	まちづくり月間建設大臣賞受賞（写真），岐阜市第四次総合計画
1996 ～ 1999（平成 8 ～ 11）	建築，建替えに伴う前面空地整備（7 件），くらしの安全条例，まちを美しくする条例
1999（平成 11）	岐阜市・市民オーナーショップ賞と，手づくり郷土（ふるさと）賞を受賞 岐阜市中心市街地活性化基本計画（旧基本計画）
2003（平成 15）	自然環境の保全に関する条例
2004（平成 16）	光と緑あふれる歩行者空間創出実験（オープンカフェ）
2004 ～ 2005（平成 16 ～ 17）	建替えに伴う前面空地整備（2 件）
2006（平成 18）	県初「がんばる商店街 77 選」に選定（中小企業庁），環境基本条例
2007（平成 19）	地方自治功労者表彰，岐阜市中心市街地活性化基本計画（1 期）を内閣承認
2008（平成 20）	建替えに伴う前面空地整備（1 件）

（注）岐阜市史通史編　現代Ⅱ，上巻，99 頁，玉宮まちづくりニュース（NO.1 ～ NO.20），サイト「玉宮通りの住民等を主体としたまちづくり」より筆者が作成．
http://ai-machicon.com/oldmachi-con/kouza/2002/tamamiya/index.htm より作成． 2023 年 1 月 20 日閲覧．

写真 -1　個性ある街並みの賑わいを象徴する賑わい作り（①～⑦）

岐阜県民踊踊連会（玉宮まつり）

徳島阿波踊り（中部徳島県人会鯱ほこ連）

岐阜県立岐阜商業「ローズパレード」（玉宮まつり）

紙芝居（玉宮まつり）

岐阜大学吹奏楽団の演奏（玉宮まつり）

玉宮グルメ王座決定戦会場

（注）「玉宮まつり」筆者が撮影（①～⑥，2013 年 10 月 6 日，2014 年 10 月 4 日）

大道芸人のパフォーマンス

岐阜新聞（1995 年）

話題を呼んだ「オープンカフェ社会実験」

がんばる商店街 77 選パンフレットより

（注）
⑦第一回「玉宮まつり」通行人を楽しませた「大道芸人のパフォーマンス」（1995 年 7 月，岐阜新聞より）
⑧オープンカフェ社会実験（中小企業庁『がんばる商店街 77 選』のパンフレットより）この社会実験から商店街のモール化と賑わいの仕掛けづくりにより商店街の集客力の向上が実証された※ 11

6-3　玉宮通りまちづくり協定ルール

岐阜市の中心市街地にふさわしい「光と緑にあふれたショッピングモール」の創造に向けた「建築物の建替えなどの際のルールを自主的に定めたものが「玉宮通りまちづくり協定」である.

表ー３　協定の概要「新築・新増改築の際のルール」

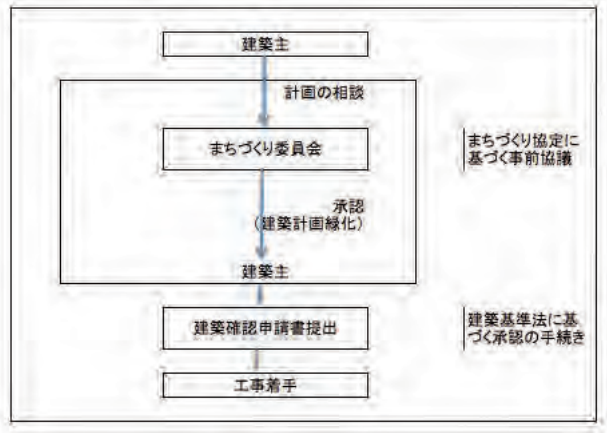
項　目	内　容	項　目	内　容
建築用途と開口部	1階部分は出来る限り開口部の多い商店を用意して賑わいを高める。	前面空地	立物と道路の間には1.5mの空地を設け、通りに広がりやゆとりを作る。
半地下建物	通り一帯の支持地盤の特徴を生かした半地下のある建物にして、個性ある街並みにする。	看板の統一	看板のデザインや色彩の統一をすすめ、通りの統一イメージを作る。
緑地の統一	敷地内の空地には植栽を施し季節感あふれる景観を作る。	共同化	土地の有効活用を図るため建物の共同化に努める。
外観・色等	派手なデザインや原色は使用せず、デザインの調和・統合する。	高さ・階高	建物の高さは隣接する建物と調和

（注）「玉宮通りまちづくり協定」岐阜市，玉宮通りまちづくり協定パンフレットより著者が作成

【街並み整備後の玉宮通り商店街】

街並み整備のルール化による個性的な景観を有する商店街の創出が行われた.
（1.5m のセットバック，半地下建物の奨励等）

（注）「王宮通りまちづくり協定」岐阜市，玉宮通りまちづくり協定パンフレットより
サイト，名古屋市港区築地の「夢塾 21」による地域主導のまちづくり（mlit.go.jp），2022.12.20 取得.



まちづくり協定の運用

協定の運用は，「まちづくり委員会Ｊ で，次の様な段階を踏んで運用されている．委員会は地元数名と岐阜市，まちづくりの専門家によって構成されている．

ステップ１→ 建築主は，まちづくり委員会に建替え等お内容を相談する
ステップ２→まちづくり委員会は，協定にもとづいて事前協議を行う．
ステップ３　委員会は，建築計画経由証明書を発行する．
ステップ４　建築主は，証明書を添付して，確認申請書を提出する．

「玉宮通りまちづくり協定」より

（7）本稿の課題

玉宮通りまちづくり協定の締結による街並み整備の推進について課題がある．街並み整備のルール化は，研究者や建築家の提案する計画についての内容は示唆に富んでいるが，現実として具体性に欠ける点がある．

岐阜市独自の街並み整備推進事業の創設で制度的な後押しがあったことは，高く評価する一方，魅力的な街並み整備の早期実現に向けて建替えのスピードが遅れていること，さらに，景観協定，新築・増改などについては，法的拘束力を持ったルールを画一的に進めようとする場合課題がある．看板のデザインや色彩のイメージを画一的に統一しようとすると，店舗の個性を考慮した建築物に妨げになる．取り扱う商品の場合は，オリジナル性や特徴が伝わりにくくなること，さらにはサービス面についても店舗全体のイメージを損なうという懸念が生じる．

中心市街地を活性化していくには，オープンカフェ社会実験で一定の成果が見られたように，モール化と賑わいの仕掛けづくりを行うことにより歩行者が楽しんで飲食等ができる条件整備の必要性と，玉官通りより広域に効果的な中心部の回遊的な促進が不足していると言えるだろう．

住民組織に関しては，役割・行動が変化してきている点が課題として挙げられる．地域組織の役割を果たしていくには，自然発生的に住民の生活に必要なものとして組織されたのかということなどが焦点である．本協議会を存続していくには，協議会構成員の高齢化問題，担い手不足についても避けて通れない．設立当時から住民の年齢も高齢になり，他の地域に移る人々も出てきている．それには，どのような組織化が可能であるか本協議会との関係性と役割分担，歴史的な視点，を含めて検討していく必要があろう．こうした課題を解決することで，これからの住民組織の役割や機能，活動を明確にすることが出来るのではないだろうか．

おわりに

本協議会が設立して２年後に締結された「玉宮通りまちづくり協定Ｊ は，「まちづくり協定方式」を取り入れた画期的な取組であった．官民挙げてまちづくりの成功好事例として県内外に高く評価され大きな反響を呼んだ．しかし，時代の変化と供に住民の高齢化，住民がほとんど住んでいない状況が進み，商店街を穴埋めするように多くのテナント入居者が現れて，同一の地域において資本の再構築が行われたという現実を直視すると，「地域」という抽象的な領域において玉宮通りが関わるとき，その「地域」とはイメージの領域との空間が安定的に捉えることが出来るであろうか．当初，抱いていたイメージとは別の領域に進んだ．これからは，新しい枠組みの中で新しい資本の再構築を行う必要があると考えられる．まちづくり協定の限界として，協定書に基づく魅力的な街並みの実現と建替えのスピードアップを図ると，景観協定などの法的拘束力にも相反することを前提に考慮に入れながら魅力的なまちづくりの形成を進めなければならない．これからの商店街は，ゆったりとした空間を確保し，すみずみまで行き届いたバランスの取れた空間を捉えたまちづくりを行う必要があるだろう．さらにもう少し大きく地域を捉えるならば，自分達のテリトリーに限らず，地域を活性化して行くには，それぞれの商店街の保守的な垣根を取り外し回遊性の促進を重視した広域の空間を確保することで得られる効果は大きいと言えるだろう．

上からの巨大な社会資本で JR 岐阜駅の高架化事業，JR 岐阜駅前周辺の急速な再開発は，どんどん進み住民の地元への関心を喚起させる役割を果たし，更に地域の風習・文化・歴史を生かした新しいまちづくりが行われてきていると確信していいのだろうか． JR 岐阜駅前には，新しい空間を生み出す影響を与える新業種が現れてきた．岐阜繊維問屋街東部地区は，建物を生かしたリノベーションを主とした飲食店街へと新しく変化しつつある．これが現実であることを，著者は，その方向性が，相反する変化として同時に観察できる．

本協議会が主体である玉宮通りに関しては，地域社会の構成員は常に変化しており，他の地域社会と外部との問の境界線においても，はっきりしていない領域がある．これは，不透明な領域として存在する．玉宮通りが直面する流動的な変化と地域社会の変化については，住民の多様性や社会構成の複雑化を反映した地域の個性・らしさの可能性を含むものとして捉え，地域外部との多層的な相互作用の中で進行する過程として地域活性化をもたらすまちづくりを考えなくてはならないであろうと著者は考える．

（注）

※ 1　川出信太郎著（昭和 40 年）『岐阜木材界今昔物語』（39 頁），岐阜駅前材木業者分布図（大正初年より終戦まで）から 85 軒の材木屋が存在した．今の十六銀行本店あたりから住之江町・長住町・金町・高野町・橋本町・吉野町に製材所が立ち並んでいた．

※ 2　荻久保嘉章，根岸秀幸編（2003）『岐阜アパレル産地の形成一証言集・孵卵器としてのハルピン一』（成文堂 11-38 頁）．戦後国鉄岐阜駅前頭に出現した「ヤミ市」である．岐阜駅前繊維閲屋街やアパレル産地の形成へと発展した．

※ 3 王宮まちづくりニュースは創刊から 20 号迄発行された．　12 号（平成 4 年 5 月 10 日）では，市長からの感謝状の贈呈，玉官通りまちづくり協定内容として半地下計画案，記念講演など貴重な「まちづくり」について報道した .

※ 4　2012 （平成 24）年 10 月，146 頁．「大規模小売店舗の立地状況（店舗面積 10，000 rrf 以上）J　の閉店・開店店舗が記されている．名鉄岐阜駅前の大型商業腕設は，ダイエー岐阜店（2002 年），名鉄新岐阜百貨店（2005 年），岐阜パルコ（2006 年）が次々と閉店した．まちづくり三法改正（1998 年）により大規模小売店舗立地法（2000 年）に移行するが，郊外では事前駆け込みで，カラフルタウン（2000 年），モレラ岐阜（2006 年），イオンモール各務原（2007 年）が開店したため郊外でも競争が激化した．

※ 5　岐阜新聞 1993（平成 5）年 3 月 25 日．玉宮まちづくり協定締結後，魅力的なショッピングモールづくりを目指す玉宮通りでは約 60 店の商店が協力で「新地球人講座」と銘打ち，社会人を対象に商店街イベントを 4 月末まで開催した．この時期，玉宮通りでは，魅力的なショッピングモールを象徴するようなブルーとグリーンのリボン型のイルミネーションを設置した．

中心市街地を活性化するために，岐阜駅前商業地区と柳ケ瀬をつなぐ玉宮通りを歩行者動線と位置づけた「光と緑あふれるショッピングモール化」をめざし「玉宮通りまちづくり協定」と岐阜市の「街並み整備推進事業」「カラー舗装道路修景事業」により協働でまちづくりが行われた．

※ 6　玉宮通りまちづくり協定

協定の目的

本協定は，王宮通りにおけるまちづくり憲章として，関係者（玉宮まちづくり協議会の会員，沿道区内関係者）のまちづくりに対する意思統一を図り，店舗と住宅が一体となった魅力的なショッピングモール（買物道路）にするためのまちづくり全般に関わる取 り 決めを定めるものである．

岐阜市新都市開発推進部都市開発課

※ 7　古倉宗治は，研究ノート『まちづくりにおける協定制度の制度上の比較とその現代的意義』において，まちづくり協定方式を次のように述べている．

「従来，都市計画などの土地利用の もとづく公法的な観点からの規制 を媒介にしたまちづくりが主流で行われてきた．まちづくりの質的の向上の要求の高度化に伴い，都市計画等のまちづくり法制は，徐々にそのきめ細かさをまして，地区計画の穂類や内容のきめ細かさなど住民参加による地区 レベルのまちづくり手法を提供するもとともに，近年の景観法体系の創設，まちづくり 三法の見直しによる都市計画等の白地地域での用途規制，開発許可等の改正などにより，まちづくり水準の高度化 と計画適合性が大きく前進した．」

つまり，都市計画制限などの公法による制限では，限界があることが分かってきた．一方，住民のまちづくりの係り合いがどんどん進化し，住民が行政の作成した案に，意見を述べる住民参加から住民発意，さらに官民協働，住民主導，住民による分担や実施まで，まちづくりのやり方は進展を遂げている．このような動きを担うものとして，協定方式が存在し，その住民主導，住民実施の一つの典型としての役割が期待されている．」と 述べている．

※8　受賞一覧

以下の賞は，受賞の他個性的な魅力ある街並みの整備が行われた結果として関連として受賞したものである．

表 2　受賞一覧

受賞名	年度	番号	名称	活動区域
岐阜市都市最観賞受賞	平成 14 年（2002）	43 番	玉宮通りまちづくり	金宝町，王宮町，長住町
岐阜市都市最観賞受賞	平成 17 年度（2005）	58 番	玉宮通り落書き落とし実行委員会	金宝町，玉宮町，長住町地内
岐阜市景観奨励賞	平成 25 年（2013）	109 番	ensoTAMAMIYA	玉宮町
まちづくり月間建設大臣表彰	平成 8 年（1996）		玉宮通りまちづくり	金宝町，王宮町，長住町
手づくり郷土（ふるさと）賞	平成 11 年（1999）			
岐阜市・市民オーナーシップ賞				
がんばる商店街 77 選	平成 18 年（2006）			
地方自治功労賞	平成 19 年（2007）			

玉宮まちづくり協議会の設立後数々の賞を受貨した．岐阜市史通史遍現代 99 頁，（https://www.city.gifu.lg.jp/info/machizukuri/1007948/1007958/1007968/1007969.html　#group7 サイト）岐阜市景観賞受賞物件一覧より著者が作成

※9 『2 期岐阜市中心市街地活性化基本計画』（2012（平成 24）年 10 月，154 頁）では，（1）にぎわいの創出に関連した活動として，空間の有効活用社会実験（国土交通省）で「玉宮通りオープンカフェ等の社会実験における歩行者数の変化」について，データが記載されている．この一連の活動の評価を得て，2006（平成 18）年，中小企業庁「がんばる商店街 77 選」に選定された．

事業実施の背景，事業概要と経過，効果的な事業については，「魅力的な街並みの整備と個性的なテナントの集約」，「イベント開催による賑わいの再生」，「都心部の回遊性促進と一体的な発展」，「先駆的な試みによる街の情報発信（オーブンカフェ，クリーンアップキャンベーン）」を岐阜市中心市街地活性化基本計画（旧基本計画）では，第四次総合計画「街まるごとファッションパーク」の実現をめざした．「岐阜市中心市街地活性化基本計画（1 期）」（2007 年）では，「まちなか居住の推進」，「商業の沼性化の増進」，「にぎわいの創出」を目標とした．「岐阜市中心市街地活性化計画（2 期）」（2012 年）は「にぎわいの創出」，「まちなか居住の推進」を策定し内閣府の承認を得た．

※10 『2 期岐阜市中心市街地活性化基本計画（2012（平成 24）年 10 月，154 頁）では，（1）にぎわいの創出に関連した活動として，空間の有効活用社会実験（国土交通省）で「玉宮通りオープンカフェ等の社会実験におりる歩行者量の変化」について，データーが記載されている．この一連の活動の評価を得て，2006（平成 18）年，中小企業庁「がんばる商店街 77 選」に選定された．

経済産業省中小企業庁編「がんばる商店街 77 選」（2006 年，44-45 頁）では，玉宮通り商店街の選定の理由を次の様に述べている．「まちづくりと一体となった商業活動として商店主を中心とした地域住民がまちづくり組織を結成し，まちづくり協定の締結街並み整備の推進，オープンカフェなどの実験的イベントを開催した」ことが評価された．名古屋の大須商店街と同時に受賞した．

（参考文献）
田村明（1992）『まちづくりの発想』岩波新書
——（2003）『まちづくりの実践』岩波新書
——（2005）『まちづくりの景観』岩波新書
荻久保嘉章，根岸秀幸編（2003）『岐阜アパレル産地の形成—証言集・孵卵器としてのハルピン—』成文堂
武岡暢（2017）『生き延びる都市 新宿歌舞伎町の社会学』新曜社
合田昭二（2002）「中心市街地活性化計画の比較分析」岐阜大学地域科学部研究報告第 10 号
吉見俊哉（1997）『都市のドラマトゥルギー』弘文堂
金善美（2018）『墨田川・向島のエスノグラフィー』晃洋書房
西村貢編著，野村典博，平田亨，三浦文彦著（2004）『協働型まちづくりのすすめ』まつお出版
西村貢・富樫幸一・山崎仁朗・合掌顕・高木美和・伊原亮司（2009）「まちなか居住調査，企業の職場調査」岐阜大学地域科学部・地域学実習報告書・岐阜市調査・パートⅣ 21-23 頁
岐阜市(昭和 61 年 8 月)企画開発部企画調整課「21 世紀への架け橋 岐阜市第三次総合計画」岐阜市 7 頁，11-12 頁，44-45 頁，68，74 頁
——（平成 8 年 9 月）総合企画部総合企画課岐阜市第四次総合計画 前期基本計画概要版」14-15 頁
——（平成 16 年 3 月）市長公室総合計画策定室「ぎふ躍動プラン・21 岐阜市総合計画 2004-2008」26-27 頁，118-129 頁
——（平成 24 年 10 月）「2 期岐阜市中心市街地活性化基本計画」
——（平成 25 年 3 月）市長公室総合計画策定室「ぎふ躍動プラン・21 岐阜市総合計画 2013-2017」岐阜市 8-23 頁，75 頁，98-101 頁
——（平成 30 年 4 月）「岐阜市中心市街地活性化基本計画」
岐阜市史編さん委員会，岐阜市史編さん専門委員会（平成 31 年 3 月 31 日）『岐阜市史通史遍現代Ⅱ上巻』岐阜市 14-21 頁，90-99 頁，158-165 頁，212-215 頁，142-147 頁
岐阜市 1981(昭和 56)年 第一回岐阜市議会定例会会議録(292~294 頁)．伊藤博巖員と蒔田浩市長の答弁が会議録．
岐阜市「岐阜市中心市街地活性化基本計両」（平成 30 年 4 月）144 頁出典：経済産業省中小企業町「がんばる商店街 77 選（平成 18 年)」
玉宮まちづくりニュース（創刊号～ N0.20）

（参考サイト）
内閣府『人口，経済社会等の日本の将来像に関する世論調査』https://survey.gov-online.go.jp/h26/h26-shourai/gairyaku.pdf 内閣府『コンパクトシティの形成等』
https://www5.cao.go.jp/keizai-shimon/kaigi/special/2030tf/281027/shiryou5_6.pdf
岐阜市ホームページ https://www.city.gifu.lg.jp/
まちづくり協定による玉宮通りのまちづくり～岐阜市玉宮通り～
https://www.cbr.mlit.go.jp/kensei/build_town/program/pdf/gifu.pdf

高森正明
（岐阜大学大学院地域科学研究科地域文化専攻）

3. 柳ケ瀬商店街

3.1 岐阜市柳ヶ瀬商店街における活性化活動への評価―本通り商店街店主に対する聞き取り調査を通して

(1) よみがえる商店街

現在，多く地方都市が中心市街地の空洞化の問題に直面している．こうした問題はモータリゼーションの進展や，郊外ショッピングモールの増加，広域中心都市への流出などの外的要因や，経営者の高齢化や店舗の老朽化，職住分離など中心市街地の内的要因による変化，さらに国のまちづくり制度の変化などによって生じたとされる（下中・下川 2021）．

これに対して，1998 年から 2000 年にかけて整備された「まちづくり三法」は 1990 年の大規模小売店舗法の緩和と大規模小売店舗立地法への移行による大型店の出店攻勢に対して，中心市街地の求心力を維持する目的で施行された法体系である．まちづくり三法に含まれる中心市街地活性化法では，中心市街地整備推進機構（TMO）をはじめとする地元のまちづくり組織が実施する活性化に対する視線が強化された．他方で，改正都市計画法や大規模小売店舗立地法では規制を通して量販資本と中小資本の中心市街地と郊外との間での住み分けが目指されていた．しかし，改正都市計画法で大型店舗に対する郊外立地の規制の緩和が進み，大規模小売店舗立地法で大規模店舗に付帯施設の設置が要求されると，交通渋滞や騒音などの規制がかえって強まることを懸念して，改正前の駆け込み立地が相次ぎ[1)]，大型店舗の郊外誘導が促進する結果となった（箸本 2016）．つまり，中心市街地活性化法に基づき，都心中心部に対する政策的支援が行われたものの，他の 2 法が大型店の郊外出店を後押ししたことで，その政策は大幅に減殺されることとなったのである（渡辺 2011）．その結果，地方の中心商業地に位置する百貨店の撤退が相次ぎ，百貨店を集客力に依存してきた商店の経営はこれまで以上に厳しい状況におかれている．

こうしたなかで，地方の商店街には必ずしも利益の追求を目的とせず，暮らしを成り立たせるための販売経営によって営業する店舗の割合が増加している（土屋 2022）．生業的経営を行うこれらの店舗では，生活を成り立たせる程度の商売に収めているケースが多いため，後継者の確保が困難であり，結果的に廃業する店舗も増加している．さらに，こうした店舗は自宅兼店舗であることが多いため，商店の廃業の増加によって地方の商店街はでは商店街の居住地化と中心商店街のシャッター通り化がすすんでいる．そのなかで商業集積としての魅力と集客力の低下の悪循環に陥っている地方の商店街では（浅野 2002），小売機能の提供に加えて，地域社会における生活防衛やコミュニティ維持機能を有する地域密着型の小規模店舗の役割が再評価されている（土屋・兼子 2013）．しかし，自宅兼店舗の割合が高く，商業集積としての魅力と集客力を低下させている地方の商店街では店舗の入れ替えが進みにくいため，地方商店街の再生は困難とされる．

こうしたなか，香川県丸亀商店街では「所有と利用の分離」を行い商店街のリニューアルに成功しつつある．この取り組みでは商店街内の地区ごとに地権者の共同出資会社を設立し，その会社が地権者から 60 年の定期借地権を取得して，まとまった土地の利用権を獲得している．他方，地権者は土地の所有権を手放さずに利用権だけにまとめて共同出資会社に提供している．共同出資会社はまとまった区画の場所をもとに大型商業施設を建設し，テナントに集客力のある様々なブランド店を入店させている．共同出資会社はマンションタイプの住宅建設も進めており，常住人口を増やして生活基盤の充実も図られている[2)]．

また，日本の多くの商店街ではコンビニやファストフードのチェーン店が目立つ．レルフはどこの場所でも景観が同じようになり場所の個性やアイデンティティが弱められてしまう状況を没場所性と表しており，日本の地方商店街の没場化が進んでいる（土屋 2022）．こうしたなかで，中心市街地の衰退が課題となっていた大分県豊後高田市では 90 年代から地元商店主や商工会議所の若手メンバーが中心となり，昭和をウリにした活性化に向けた取り組みが行われた．2001 年からは昭和 30 年代の商店街を再現にむけて，商店のリフォームが行われた．近年，若者の間で「歴史的ノスタルジア感情 」と「新奇性」を楽しめる昭和の時代を彷彿させる商品が若者の間で評価され，「レトロ消費」・「レトロ需要」が高まっている (古谷ほか 2019）．若者の間で「レトロブーム」が拡大するなるなかで，豊後高田市の取り組みは若者からも注目をあびており地方商店街の再生の成功例として全国から注目をあびるに至っている（天野 2017）．

丸亀商店街にせよ，豊後高田にせよ，商店街主の連携の下で商店街を面的な広がりをもつ一つの空間として設計しなおしたことが商店街活性化の成功要因といえる．つまり，外的要因と内的要因によって衰退を余儀なくされた中心商店街を再興させるためには，商店街主の連携と意思統一を図り，方向性の統一を図ることが重要である[3)]．中心

市街地活性化法が制定されて以降，全国の商店街では活性化を目指してこうした様々な実践が繰り広げられている．

本学が位置する岐阜市の中心商店街である柳ケ瀬商店街でも，中心市街地の求心力が低下した 2000 年代以降，様々な取り組みが展開している．そこで，地域科学部では 2004 年～ 2005 年にかけて，岐阜市中心地においてコミュニティ力の低下や経済機能の縮小，活性化の萌芽の実態について調査を実施した (岐阜大学地域科学部 2005，岐阜大学地域科学部 2006)．その結果をみると，調査を実施した 2000 年代初頭から，地域内外の緩やかなつながりのなかで，様々な活性化活動が展開され始めていた．しかし，調査から約 20 年が経過した現在，こうした取り組みがどのように継承され，商店主がいかに評価しているのかは不明確である．そこで 2022 年度の地域学実習では柳ヶ瀬商店街 の 20 年間の変化とその背景について検討した．具体的には受講者 18 名を 4 つのグループに分け，「レトロを活用したまちづくり」「再開発と柳ヶ瀬商店街」「ソーシャルキャピタルと地域活性化」「商店街主の地域活性化への関わり」をテーマに報告書を作成した．本稿は担当教員が 4 つの報告書を再整理したものであり，本年度の地域学実習の総まとめにあたる．各グループの報告書を再整理するにあたり，本稿の目的を 2000 年代以降に柳ケ瀬商店街で行われている商店街再興にむけた取り組みに対する各店主からの評価について考察することで 2000 年代以降の柳ケ瀬商店街の変化の実態とその要因を明らかにすることと設定した．(2) では対象地域である柳ケ瀬商店街の概要とそこで行われてきた取り組みについて整理する．(3) では 2004 ～ 2005 年に実施された調査結果と 2022 年 7 月～ 12 月に実施した調査結果 [4] をもとに，商店街の活動を支える主体である各商店の経営実態をふまえて，地域活動への認識について検討する．(4) では 2022 年に実施された「昭和」をイメージした活動と「サンビル」を事例に，現在の活性化活動の運営体制について検討する．そのうえで (5) では商店街再興に向けた取り組みに対する各店舗の評価ついて考察し，2000 年代以降の柳ケ瀬商店街の変化の実態とその要因を明らかにする．

(2) 柳ケ瀬商店街の変化と現状

1889 年に岐阜市制が施行されると岐阜市柳ヶ瀬町が誕生し，1897 年ごろには金津遊廓への参道として多くの店舗が建ち並び始めた．1919 年に行われた内国勧業博覧会の跡地には，岐阜劇場や金華劇場などの劇場がオープンし，柳ケ瀬は大衆娯楽のメッカとなった．さらに昭和初期には鉄筋コンクリート製の建物やエレベーター付きのビルが相次いで建造された．1945 年の岐阜空襲によって焼野原となった柳ヶ瀬は，戦後，柳ヶ瀬座や演技座，豊富座などの映画館が先駆けとなって復興を遂げた．1955 年頃になると，岐阜松竹，満映，小劇場，岐阜東宝，自由劇場，岐阜東映，衆楽館が 200 メートルの範囲に軒を連ね，岐阜のブロードウェーとして娯楽のまちとしての様相を強めた．1960 年には柳ケ瀬通 1 ・ 2 ・ 3 丁目に全天候型のアーケードを構え，娯楽の町としてだけではなく商業の町としても繁栄を遂げた．1966 年には，美川憲一のご当地ソング「柳ヶ瀬ブルース」が大ヒットし，柳ヶ瀬の名を全国に轟かせた．さらに，柳ケ瀬は映画「柳ケ瀬ブルース」のロケ地となり，中心繁華街として全国的に不動の位置付けがなされた．1977 年までには，近鉄アミコや岐阜高島屋，長崎屋などの百貨店と総合スーパーが相次いでオープンし，大型店と中小の専門店が建ち並ぶ繁華街となった．

しかし，昭和後期から平成中期にかけて交通のモーダルシフトの影響を受けて，岐阜市内電車が廃止され，岐阜市にもマーサ 21 を初めとした郊外型ショッピングモールが登場した．さらに，バブル景気が崩壊も相まって，柳ヶ瀬に出店していた大型の商業施設は次々と撤退し，繁華街からシャッター商店街へと姿を変えた．停滞期を迎えた柳ケ瀬商店街では 2000 年代前半から，若い商店街主主導のもと商店街活性化に向けた取り組みが行われるようになった．一連の取り組みを取り上げた論考では柳ケ瀬商店街の 2000 年代段階の売り上げがピーク時の半分ほどに落ち込んでいるとしながらも，過去の貯蓄と子供世帯の独立によって当面の生活に差し支えない範囲での経営が可能であることが指摘されている．一方，報告書ではその負の側面として，従前の経営形態を変えず，地権者としても空いた店舗を無理してまで貸さないという保守的な行動が生み出されていることも指摘されている．

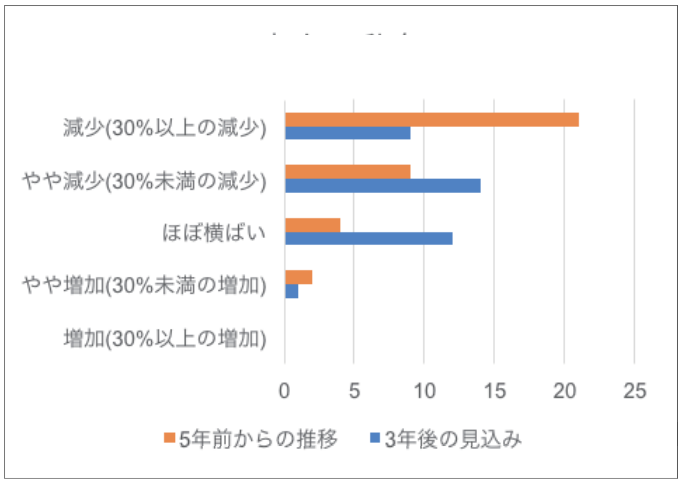
こうした負の側面から脱却するために柳ケ瀬商店街の若手店主らは玉宮地区や美殿町など周辺の商業地域との連携を模索し，梅林スタンプラリーやこたつ会議など，外部との緩やかなつながりのなかで新しい試みを展開してきた．さらに，2008 年には柳ヶ瀬活性化に関するまちづくり団体「ひとひとの会」によって手掛けられた非公式ゆるキャラの「やなな」が登場した．一連の有志によるとりくみを契機に，柳ヶ瀬商店街では若い店主らが中心となり「ハロー！やながせ」やその後続である「サンデービルヂングマーケット」などのイベントが企画された．現在，「サンデービルヂングマーケット」は規模を拡大させ，毎月，複数回も定期開催されるイベントとなっている．さらに，近年，柳

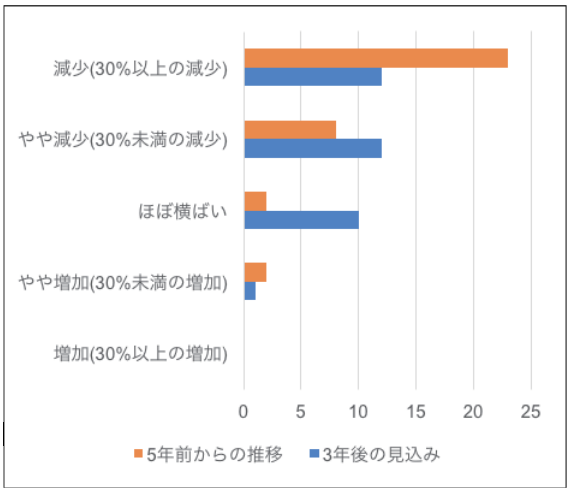
ケ瀬商店街は「レトロな商店街」として各種メディアで取り上げられており，若手店主らが中心となりながら柳ケ瀬商店街に残る昭和の雰囲気に浸りながら，新たなイベントを企画するという雰囲気が醸成されつつある．このように柳ケ瀬商店街は，賑わい創出を目指して，継続的にソフト面での発展を遂げている．

加えて，柳ケ瀬地区では柳ケ瀬本通りの一部を中心とする「柳ケ瀬通北地区第一種市街地再開発事業」や，再開発ビル「柳ヶ瀬グラッスル 35」の建設を中心とした「高島屋南地区第一種市街地再開発事業」などの大規模な再開発事業や，リノベーションまちづくり推進拠点「やながせ R テラス」の設置など，ハード面に関する事業も行われている．

こうした状況にある柳ケ瀬商店街の店舗数は 232 店舗（2017 年；中小企業庁）あり，その内訳は小売業 95 店，飲食業 76 店，サービス業 27 店，金融業 1 店，不動産業 2 店，医療サービス業 2 店，その他 29 店である．平成 12 年以降の柳ケ瀬商店街全体の人口は減少傾向にあり（図 1），各店舗の売上も，大半の店舗で平成 11 年から 5 年間で売上が 30%以上減少している（図 2）．また，来客数も平成 11 年から 5 年間で 30%以上減少した店舗が最も多く，30%以上の増加があった店舗はない（図 3）．これらのことから柳ケ瀬商店街では活性化に向けた取り組みは展開しているものの人口・売上・来客数いずれも減少傾向にあり，柳ケ瀬商店街は衰退傾向にあるといえる．

図 1 柳ケ瀬商店街における人口の推移（地域学実習報告書より引用）





(3) 商店街の活動を支える主体である各商店の経営実態の変化

2004 年～ 2005 年時点での調査対象は食堂・喫茶店などの飲食やアパレル関係，映画館，写真館，貴金属店など中心であった．調査対象となった店舗の客層は 40 代以上の者が中心であり顧客の年齢は比較的高かった．また，調査対象となった店舗のなかには若者をターゲットとする店舗はみられなかった．調査の結果，商店街の各舗は，陳列商品の差別化や，専門店としての接客，販売後のアフターサービスに力を注ぐことで郊外店との差別化を図っていた．なお，当時の建物の所有状況をみると大部分が自己所有であった．

調査対象の選定方法が異なるため単純な比較はできないものの，以下では 2022 年の調査対象となった店舗の状況を示す（表 1）[5]．各店舗の創業年は，活性化事業が拡大した 2005 年以降が 8 件，バブルが崩壊し，柳ケ瀬の売り

表 1　柳ヶ瀬本通りの店舗への聞き取り調査

No	業種	創業	年齢	活性化への参加	場所	生きがい型	主な客層	所有	サンビルに対するコメント	賛否
1	飲食	2021		×	1 丁目		現役世代		昔の良かった柳ケ瀬を知っているから，良い柳ケ瀬を作るために，いろんな取り組み 地域活性化事業 は続けてほしい．	○
2	飲食	2019	53	×	1 丁目		現役世代		サンビルに出店しているような若い店主は店の前を使っているのに挨拶にも来ず，交流はあまりない．そもそもサンビルは元々あるお店にお金が落ちないことが問題である.	×
3	飲食	1980 年頃	64	×	1 丁目		60 歳以上		自分の店の主な客層である高齢者がサンビルをやることで自転車で通れなくなったりして，お客さんがこないから店を閉めている.	×
4	日用品	1894	66	×	1 丁目	○	60 歳以上	所有	サンビルは物品販売をしているうちにとっては敵だと思っている．サンビルのような出店系のイベントよりも，空き店舗を活用できるようなイベントをしてほしい.	×
5	衣料品	2016	33	◎	1 丁目		現役世代	所有	これからはイベントをしていない平日にどのようにして柳ヶ瀬商店街に来てもらうかが重要だと思う．イベントの開催が店にとって売上などの面でマイナスになる店主もいる.	○
6	サービス	1970		×	1 丁目		両方	所有	サンビルは見て回る程度しか知らない．店に影響は全くないけど，通りに活気があっていいと思う．でも組合などとかかわりがないから，そういう活動の中心人物とかは広報で知る程度.	×
7	サービス	2009		×	1 丁目		両方		ジュラシックアーケードなど新しいことをやることには肯定的である．柳ケ瀬を知るきっかけになればいいと思う．しかし，新しいことに文句を言う人も存在するため，必ずしも新たなやりたいことすべてができるという環境ではないと思う.	×
8	その他	1969		×	1 丁目		60 歳以上	所有	サンビルは普段の柳ケ瀬とは客層が違うので，年配の人が買えるものはないと思う．だから，サンビル開催日には自分のお店にお客さんはほとんど来ない．そういったイベントには人はたくさん来るので，飲食店には恩恵があるのではないかと思う.	×
9	衣料品	1935	82	×	2 丁目	○	60 歳以上	所有	サンビルなどの活性化事業は柳ヶ瀬商店街全体としてはいいかもしれないが，自分の店との客層の違いなど，商売としてはいいといえない.	×
10	衣料品	1934		×	2 丁目	○	60 歳以上	所有	補助金が出るからやるのだろうけど，安いものしか売れないし，既存店にはあまり恩恵はない．市全体の祭りにはみんな参加するけど，サンビルなど活性化事業のイベントをやっていこうとは自分は思わない.	×
11	衣料品	1952	73	×	2 丁目	○	60 歳以上	所有	サンビルを通して若者を中心にたくさんの人が集まってくれるのはありがたい．しかしサンビルの主催者側の人たちについて，体温計や消毒液の設置などコロナ対策の不十分さや，商店街事業主たちとのコミュニケーション不足な点に不満を感じている．とくに，アーケードや道路の維持費を負担している商店街主に対して，出店者は挨拶に来ないし，運営側も指導をしない．出店者は柳ケ瀬の外に店を持っていて柳ケ瀬に出店してきている人ばかり．イベントをやって盛り上げてくれるのはありがたいが，挨拶など最低限のことはやるべき.	△
12	雑貨	1970 年頃	72	○	2 丁目	○	両方	所有	地域活性化事業のイベントに積極的に参加したいと思っているから，サンビルにもかかわっている．それを通して，若者に積極的に参入してほしいけど，環境は整っていないと感じている．時代は新しい人が作っていくべきだから順応していくべき．サンビルに出店している人が柳ケ瀬に店を出してほしい．ただ，出店者のなかには挨拶をしない人もいる．アーケードや道路を管理している商店街の人に挨拶するをするのは最低限のことだと思う．柳ケ瀬を何とか盛り上げたい．イベントとかは一時的だ，本通りの人が発奮するようなきっかけが欲しい.	△
13	サービス	2010	37		2 丁目		両方		静かな柳ケ瀬になってから店を出したから，にぎやかになるのはうれしい．普段柳ケ瀬を利用する人にとっては週末は人が多くて生活しづらそう.	×

14	飲食	2002		×	2 丁目		両方		お店が参加できるイベントではなく，イベント会社の他力本願のイベントばかりで効果はないと思う．情報も回ってこない．組合も把握していないイベントもあるように思う．商店街にはたくさんお店があって，多種多様なのが魅力だから，組合が色んなお店を誘致してほしい．	×
15	衣料品	1911	74	×	2 丁目	○	60 歳以上	所有	サンビルに飲食関係の事業主たちは賛成していると思うけど，物販は乗り気じゃないと思う．活気があることは悪いことじゃないし，若い人がいないと活気がないと思う．サンビルが柳ケ瀬への出店につながればいいなと思う．商売において大切なのは商品制作．イベントをやることではなく，地道な物販の積み重ねが必要であり，下から積み重ねていけばそれは簡単には崩れない．イベントを一つやってなんとかなるものではない．イベントをやれば人は出てくるが売り上げは変わらないので恩恵は感じない．	×
16	その他	1915		×	2 丁目	○	60 歳以上	所有	自分の力でできるようなことではないから，こういうイベントをやれるのはうれしい．にぎわいが戻ってきてほしいと思っている．	○
17	飲食	1971	45	×	2 丁目		現役世代		イベントに関わってはいないけど，お客さんが増えるのは助かる．夜の営業だから，夜に人が集まるイベントをやってくれると嬉しい．	○
18	衣料品	1934	70 代	×	2 丁目	○	60 歳以上	所有	サンビルの主催側とは，コロナ禍で検温やアルコールを用意しないことや，食べ物を提供することでもめた．また，店の前がサンビル関係のものでごちゃごちゃしていたから，整理してほしいとお願いしたら，個々の責任だから知らないといわれたため，関わるのをやめた．	×
19	雑貨	1922	62	○	2 丁目	○	60 歳以上	所有	サンビルの床に目印を張る活動には参加しているが，サンビルは本通りの商売の客層とはずれを感じる．サンビルは元々空き店舗に新規店を呼ぶためのもののはずなのに，他の場所で店を出している人が出張してくるだけだからそれはどうかと思っている．	△
20	雑貨	2008	30 ～ 40 代	○	2 丁目				柳ケ瀬の悪いイメージを払しょくしたい．今後利益を出せる街になってほしい．若い人と年配の人の感覚をつなぐ人になりたい	△
21	その他	1893	69	×	2 丁目	○	60 歳以上	所有	イベントありがたい，理事長がいろいろと頑張っている．	○
22	飲食	2008	40 代	×	2 丁目		現役世代	所有	サンビルによって，お客さんの数が増える．昔は様々な活性化事業に関わっていた．ただ，まちおこしやイベントにかまけすぎてしまい，店自体の売り上げが落ちたため，あまり参加しなくなった．地元の人は，店の評判や責任を背負っているからやりたいことを制限される．一方イベントでは，いけいけどんどんと前に進むあまり，周りが見えていない人もいるため，迷惑をこうむっている人もいる．	△
23	雑貨	1987	83	×	3 丁目	○	両方	所有	人通りが増えるだけで，飲食店は儲かるのかもしれない．だけど自分には関係ないから好きにやればいいと思う．あと，サンビルとかの活性化事業について情報があまり回ってこないからわからない部分もある．	△
24	サービス	1984	72	×	3 丁目	○	60 歳以上		サンビルは関わりはないけど，イベント自体はまあまあにぎわっているしいいのではないかと思う．	△
25	飲食	1985	65 歳以上	×	3 丁目	○	60 歳以上	所有	今もこれからも関わるつもりはない．あとはどんな活性化事業をやろうとしているかなど，情報が入ってこないし，常連客の商店街事業主も情報をもっていない．サンビルは人通りは増えるけどお店には入ってくれないから恩恵はない．	×
26	サービス	2018	60 ― 70 代	○	3 丁目		両方		サンビルなどは人が集まるからいいと思う．集客は大切だから継続的にやるべきだと思う．ただ，お金と人の問題で難しいところもあるのではないか．	○
27	飲食	1953	83	×	3 丁目		両方	所有	サンビルなどに参加はしていない．一度手伝いをし始めるとそれからもやらなくてはいけなくなるし，お店が 1 人になってしまうため，できない． 3 丁目の自治会長が一生懸命やっているため，任せている．	×
28	衣料品	1997		×	3 丁目		現役世代		関わりとしては頼まれたチラシを張るくらいである．サンビルは業種が違うから興味はないし，外の人たちのネットワークが形成されている感じがする．	×
29	雑貨	比較的古くから		○	3 丁目		60 歳以上		関わりとしては，頼まれたチラシを置いているだけである．サンビルなどはやらないよりはましなのではないかと思う．こういったイベントは新しい人がやりだした感覚がある．	○

上げが激減した 90 年～ 04 年までが 3 件，それ以前が 18 件であった．地区別の特徴をみると大通りからほど近い 1 丁目には 05 年以降に創業した商店が 4 店あり，他の地区と比べてその割合は高い．2 丁目は店舗数に対して 90 年代以降に創業した店舗が少ない．3 丁目についても 90 年代以降に創業した店舗は少ないが，夜間に営業しているキャバクラやクラブなどの比率が他と比べて高いこと特徴がある（表 1）．

土地建物の所有状況をみると，1 丁目では 4 店舗が賃貸，2 丁目では 4 店舗が賃貸，3 丁目では 4 店舗が賃貸となっている．1 丁目にはオフィスビルや大手ドラックストアなども立地している．また，3 丁目のなかで協力の得られなかった店舗の大部分は接待を伴う飲食店が複数入る雑居ビルであったことから賃貸の割合が高いと推察される．これに関して，聞き取り調査では 90 年後半以降，空き店舗の増加を背景に，西柳ケ瀬からこうした店舗が流入してきたが，地元店主の反発によって一定の歯止めがかかり，現在の状況となっていることが分かった．これらのことから，賃貸による新規出店がみられる 1 丁目，自社で物件を所有し古くからの営業を続ける店舗が目立つ 2 丁目，自社で物件を所有し営業を続けてきた店舗が少なく，賃貸物件に接待を伴う飲食店などが多く入居する 3 丁目といったように，本通りについても各地区で異なる特徴を有している．

店舗の経営方針に着目すると，高齢店主の割合が高く，すべての地区で利益の追求よりも自身の健康維持や生きがいを目的に営業している店舗が存在している．とりわけ，その割合は 2 丁目で高い．自身で店舗を所有している者はやりがいを目的として営業を続けているケースが目立つ．この状況について聞き取り調査では「相続で店舗の所有者になった．退職後の趣味で店をやっている．ちょっとしたお小遣いになっている」「息子たちは名古屋ではたらいているし，安定した収入が見込めないので，継いでもらうつもりはない」との話がきかれた．また既存研究ではこうした店舗経営者はこれまでの収益と年金，不動産収入を前提に店を営業しているとされる．そこで，オーナー店舗の後継ぎの状況についてみると 1 店舗を除いて後継者がいないことが明らかになった．とりわけ，2 丁目の店主は 65 歳代以上の者が 10 件に上る．また，主な客層をみると，1 丁目，3 丁目には現役世代をターゲットにしている店もみられる．他方，2 丁目は 60 歳以上の高齢者をターゲットにしている店が大半を占めている．

(4) サンビルへの評価と「昭和」をイメージした活動への評価

① サンビルへの評価

柳ケ瀬商店街の特徴である全面アーケードは天候を問わず，商店街内の公共空間の利用を可能とする．「サンビル」はこの強みを活かして毎月定期的に若年女性向けのマーケットを開催し，「柳ケ瀬」の新たなるファンの獲得をめざしている．これまでのイベント型の活性化事業は自主的に集まったイベントの運営者の余暇と資金の投入によって成立してきた．これに対して，06 年から岐阜市の中心市街地整備推進法人として柳ケ瀬で活動を行ってきた岐阜市にぎわいまち公社は，一部の運営者が余暇的に楽しむイベントからの脱却を図る必要性を主張し，岐阜市が商店街活性化プロデューサーを募集するに至った．これをきっかけに，余暇的なイベントからの脱却が図られることとなった．つまり「サンビル」は 2000 年代以降に実施されてきた，有志によるイベント型の中心市街地活性化策の反省のもとでその在り方を変化させてきた企画であるといえる．

2014 年に開始された当初，「サンビル」の取り組みは一部の商店街主を中心とする「サンビル実行委員会」によって企画されていた．有志による運営である点でこそ従来のイベントと共通するが，当事業は持続的なイベント実施を可能にするために，出店者から出店料を徴収している．その結果，毎月定期的にマーケットを開催し続けており，2022 年 12 月には開催 100 回を迎えた．また，柳ケ瀬での取り組みは次の段階に入っており 2016 年には柳ケ瀬の遊休不動産の活用を含むエリアマネジメントを実施する「柳ヶ瀬を楽しいまちにする株式会社」が立ち上げられ，現在は当事業の運営もこの会社が担っている．既存研究ではこうした取り組みの成果が示されており，媒介中心性の高い個人がキーパーソンとなり，活性化の取り組みにおいて自身が持つ人的つながりを活用して周囲にいる個人同士を結び付け，新規組織を作り出すといった，ソーシャルキャピタルの連鎖が地域活性化をもたらすことが明らかにされている（堀口・出村 2021）．その一方で，こうしたネットワークに含まれない商店主が活性化事業をいかに捉えているのかは明らかにされていない．

そこで，本節では当該事業への商店街主の関わりと認識に着目した．調査結果をみると，30 店舗のうち，この取り組みの運営に関わっているのは 1 店舗，何らかの形でこの取り組みに協力している店舗が 6 店舗，ほとんど関わりを持っていないのが 23 店舗であった（表 1）．23 店舗のうち 8 店舗はこの取り組みを肯定的に捉えている．この

8 店舗の業種をみると雑貨屋やその他が目立つ．また，年齢別にみると比較的年齢の若い店主はこの取り組みに対して肯定的である．No.20 は「柳ケ瀬の悪いイメージを払しょくしたい．今後利益を出せる商店街になってほしい」と述べたうえで，この取り組みに賛同している．また No.12 は「時代は新しい人が作っていくものだから順応していくべき．サンビルに出店している人が柳ケ瀬に店をだしてほしい」する一方で，「サンビルの効果は一時的で，イベントのときだけ賑やかになっている」とも話す．また，No.17 も「イベントがあるとお客さんが増えるので取り組み自体には賛成．だが，夜の営業なので，夜に人があつまりものも検討してほしい」と話す．

他方，否定的に捉えている 17 店舗の内訳をみると飲食店や衣料品店が目立つ．No.22 は「ただ，まちおこしやイベントにかまけすぎてしまい，店自体の売り上げが落ちたため，あまり参加しなくなった．地元の人は，店の評判や責任を背負っているからやりたいことを制限される．一方イベントでは，いけいけどんどんと前に進むあまり，周りが見えていない人もいるため，迷惑をこうむっている人もいる．」とする．No.15 は商売において大切なのは商品制作．イベントをやるとかではなく，地道な物販の一つ一つの積み重ねが必要であり，下から積み重ねていけば，それは簡単には崩れない．イベントごとを一つやって何とかなるものではない．イベントをやれば人は出てくるが，商品が売れないから恩恵は感じない，物販系は購買に繋がらない．」と話しており，定期的に開催しているものの，商店街主にとっての利益はないことを問題とする．また No.11 は「アーケードや道路の維持費を払っている商店主らに対して，イベント出展者は挨拶に来ない．運営側もその点の指導はしない．そもそもサンビルに出店している人らは，外部で店を持っていて，柳ケ瀬に出店しているだけの人ばかり．イベントをやって盛り上げようとしてくれているのはありがたいが，挨拶などの最低限のことはするべき．」と話す．No.30 も「サンビルは常連客が来なくなるので反対」としており，サンビルという取り組みが，新たな出店者の獲得や，新たな地域イメージの創出を目的としていることに対する反発が大きい．NO2 は，参加の誘いは受けるものの，イベント以外でお金を落としてくれないため参加しないという意思を持っていた．

また，イベント開催時の柳ケ瀬への来場者は増加するものの，衣料品を取り扱う店舗では通常時と比べて入り込み客数は減少傾向にある．これらの店は業主の特性上，常連客によって経営が支えられているため，各店主はアーケードの公共空間において，マーケットが開催されることで，入口が塞がれたり，通行しにくくなることで，イベント開催時に常連客が来なくなることを問題視している．飲食店についても同様で，サンビルには雑貨店のほかにも食べ歩き可能な商品を販売する店の出店がみられる．そのため，サンビルの来場者はマーケット内で昼食を済ませるため，自店の売り上げは上がっていない．むしろ，通行人の目が道路の側面に並ぶ商店ではなくアーケード内の中央部に並ぶマーケットに向くため，売り上げは下がる傾向にある．こうしたことから，柳ケ瀬商店街に店を構える店主の業種によってはサンビルに対して肯定的な意見を持っていない者も一定数みられる．さらにイベントの運営体制について No．23 は「そもそも活性化に向けた取り組みをしているという情報すら回って来ず，知らないうちにイベントが開催されていることもある」としている．

伊佐（2014）によると商店街のコミュニティ維持には，制度的ソーシャルキャピタルと認知的ソーシャルキャピタルの両方の継承が必要であるとする．柳ケ瀬商店街では「岐阜市にぎわいまち公社」，「柳ケ瀬商店街振興組合連合会 」[6]，「柳ヶ瀬を楽しいまちにする株式会社」などが組織的に地域活性化を行っている．組織が中心となり取り組みが行われていることから，柳ケ瀬商店街での取り組みは組織を中心に構築される制度的ソーシャルキャピタルをもとに展開しているとみなせる．また，この取り組みでは組織的な運営によって，商店街外部の店舗が主な出店者となっている．とくに出店者のなかには創業から日が浅い出店者も目立つ．こうした点に着目すると，この取り組みは「新しい柳ケ瀬」を創るためのものであると理解できる．一方で，古くからの常連客をターゲットとした商店主の多くがこうした取り組みに対して疑問を抱いており，取り組みの運営に携わっている者はほぼみられない[7]．

つまり，サンビルは新規出店者や若手創業者の意向にそった取り組みにすぎず，地域に残る規範や慣習を黙示的に継承する機能を有する認知的ソーシャルキャピタルは，一連の取り組みを支える制度的ソーシャルキャピタルとは分断して存在していると考えられる．しかし，商店街のコミュニティ維持には，制度的ソーシャルキャピタルと認知的ソーシャルキャピタルの両方の継承が要求されていることを踏まえれば，一連のとりくみを通して，既存店を中心につくられた認知的ソーシャルキャピタルをもつネットワークと，新しい柳ケ瀬を創ろうとする制度的ソーシャルキャピタルをもつ組織の連携・統合が求められる．そこで，次節ではこれらの統合を図り，地域を活性化する取り組みである「レトロ」な雰囲気を用いた地域活性化への取り組みについて検討する．

②「昭和」をイメージした活動への評価

近年，若者の間での「レトロ」消費の拡大が話題となっている．レトロ消費はノスタルジア感情によって拡大するとされる．ノスタルジア感情は個人的ノスタルジアと歴史的ノスタルジアに分類される（天野 2017）．個人的ノスタルジアは個人的な出来事の記憶に基づき，自分自身の過去における心地よい部分から生じる懐古感情を指すのに対して，歴史的ノスタルジアは自分自身が生まれる以前の古き良き時代の歴史的物事や人物に対して生じる懐古感情を指す．近年の「レトロ」ブームは 90 年代後半以降に生まれた若者（Z 世代を含む）が歴史的ノスタルジア感情を抱くモノを SNS を通して，いかにも「新奇性」のあるモノとして発信しはじめたのがきっかけとされる．つまり，歴史的ノスタルジア感情を抱くモノでありながら新奇性をもつという両義性が若者から評価され，現代のレトロブームが巻き起こっている．

そのなかで，柳ヶ瀬商店街は「レトロな商店街」として各種メディアで取り上げられている．柳ケ瀬商店街の活性化を目的に様々なイベント運営業務を手掛ける「柳ヶ瀬を楽しいまちにする株式会社」や「柳ケ瀬商店街振興組合連合会」も，商店街の雰囲気を「レトロ」であると表現する．2022 年には「レトロカルチャーを発信しつつ，老若男女問わず楽しめるイベント」をテーマに，「柳ケ瀬商店街振興組合連合会」の主催のもとで「岐阜柳ケ瀬まつり」が開催された．このイベントでは柳ヶ瀬商店街の最盛期を支えた映画産業にちなんで，昭和の若者を描いた映画である「逆光」の試写会や，昭和歌謡ショーやレトロスイーツ，レトロ雑貨などのブースなどが企画された．こうした企画は歴史的ノスタルジア感情に浸りながら新奇性を楽しむことができるという点から若者から受け入れられた（福富 2022）．しかし，こうした評価は主催者や来訪者側からの評価であり，一連の「レトロ」な活動に対する一般の商店街主の認識については明らかにされていない．「レトロ」な雰囲気は商店街全体で醸成されることを踏まえれば，一

表 2　聞き取り調査による「レトロ」へのコメント

No	レトロに対するコメントの例	所在地
1	レトロだとは思うが活かしきれていない．ただ建物が風化しているから「レトロだ」と言っているだけではないか．	1 丁目
2	柳ケ瀬商店街をレトロであると感じるし，ロイヤル 40（築 40 年が経過したロイヤルビルをリノベーションした商業ビル）のように，レトロを売りにできる施設が揃っている．レトロな雰囲気にするお店があるなど，リノベーションにおいても応用されている 2017 年 3 月にオープンした衣料品店「BLUE BULE GIFU」はロイヤル 40 の看板に惹かれて柳ケ瀬商店街に出店を決定しているため，名古屋・他県から人を呼び寄せられる商店を惹きつけるレトロさがあるのではないか．	
3	良いように言うと「レトロ」．（レトロ以外に言いようがない．）	
4	柳ケ瀬がレトロであることは事実である．時代に取り残された様子がウケている．しかしこの状況は長続きしない．10 年が限界であり建物の建て替えの問題が発生すると考えられる．	
5	よくわからない	
6	レトロかどうか考えたことがない．	
7	レトロさは感じていない．火災前の持ちビルは天窓があってレトロだったが，今の柳ケ瀬商店街はさびれていて中途半端でレトロではない．	
8	アーケードなどを見ると，「レトロ」であると思う．しかし，古いだけのところもあるので「古臭い」ともいえるのではないか．	
9	店舗を約 30 年前に店内をリフォームしたため，店舗としてはレトロではないと考える．商店街全体に関しては不明．	2 丁目
10	レトロとか新しいよりも，それぞれのお店が魅力ある店づくりに努めることが必要．	
11	死んだまち，活力がない．細々と撤退しようとしない人がいるまち．	
12	オーナーがシニアなので，柳ケ瀬商店街はレトロなまちかなと思う．	
13	本通りが 30 年前にリフォームされ，北側は昭和中期にリフォームした．この通りは中途半端だと捉えられる．本当に懐かしいと感じるか，レトロと感じるか疑問が残る．	
14	古き良き時代が残っているのは良いと考えている．	
15	建物が 60 年前に建てられたもので，バラバラになってしまっている．負の遺産とならないように未来へ良い形で残していきたい．	
16	レトロだと感じる．新しいものもいいけれども歴史もあるので，全てを新しくする必要はない．	3 丁目
17	今後良くなることはないのではないか．しかし，現状維持も良くはないので，何かしらの新しい活動を実施しなければならない．レトロだとは思わない．	
18	レトロ感や懐かしさはあると思う．しかし，レトロを売りにするにはもっと強調しなければならない．	
19	レトロというよりは代わり映えがしないというのが正しい．しかし，商店街全域をきれいにするのは違うと感じている．	
20	きれいになってほしいと思う．若者があまり来ないからレトロであると思う．	

般の商店主がこうした活動をいかに評価しているのかを検討する必要がある．そこで本節では商店主の感じている「レトロ」意識について検討する．

レトロを活用した活性化に対して肯定的に認識している店舗は 6 店舗であり，1 店を除いてそのすべてが 1 丁目に集中している．レトロを活用した活性化に対して肯定的に捉えている店舗が比較的多い 1 丁目の理事長 A は「本通りではあまり見られないが，商店街全体で柳ケ瀬商店街のレトロな雰囲気に惹かれて古着店などを出店する人達が増えている」と語る．また，1 丁目には公的機関の事務所も入居しており，柳ケ瀬の活性化に対して積極的な意見を述べる．その一方で，柳ケ瀬商店街に対するイメージについて「レトロ」ではなく「古臭い」，「さびれている」と考えている店主が一定数存在する．これらの店舗は 00 年代以前から営業している店舗が中心であり，90 年代までの賑わいにあふれた時期の柳ケ瀬とくらべて衰退していく様を憂く声がみられた．しかしながら，1 丁目の店主は「再開発されても商店街を素通りされるという不安がある．柳ケ瀬商店街には早急な魅力づくりが求められている」，「柳ケ瀬ではイベントなどソフト面は充実してきたが，アーケードのメンテナンスなど，ハード面が課題」，「行政との連携を強めて，中心市街地の活性化を進めてほしい」など，柳ケ瀬商店街としての活性化に対して積極的なコメントが多い．これは，柳ケ瀬の活性化の活動に積極的な A 氏を中心とした連携がとられていたことに起因する．そのため，「レトロ」というイメージに対しては違和感をもつ店主もみられるものの，柳ケ瀬商店街としての活性化活動については肯定的な評価が目立つ（表 2）．

2 丁目では柳ケ瀬がレトロと認識されることに対して批判的に捉えている店舗が目立つ．No.10 は「レトロか新しいとかよりも，魅力ある店づくりが必要だ」と述べる．また，No.13 は「中途半端で，本当にレトロかどうか疑問」と考えており，No.15 では「柳ケ瀬の現状を負の遺産」と表現する．2 丁目でレトロさを前面に出した取り組みに対して否定的な意見が目立つ理由としては，高齢な店主が目立ち，自身の商いに対して「レトロ」と表現されることに対して違和感をもつ者も多い．また，彼ら彼女らは，柳ケ瀬のブランド力を高まることを必要としながらもそれぞれの店舗の魅力づくりが最優先されるべきで，「レトロ」というとう統一的なテーマに合わせた活動に対して疑念的である者も目立つ．

これを反映して，2 丁目には各イベントの実施に関して，地区内の店舗をまとめる役割をもつ者がみられず，活性化にむけた取り組みに対して消極的な傾向にある．また，2 丁目の店主は「柳ケ瀬商店街に住んでいる人が減少しているので，居住を推進し，人口を増やすことが必要である」，「先のことは知らないし，自店には関係ない．リノベーションしてどうなるのか．商店街に何かしらのお店が入店すればよい」と話している．このように，高齢者の多い 2 丁目の店主は柳ケ瀬商店街全体としての取り組みに対して疑問をもつ．商店街という個人商店の集まりである以上，各店舗の経営努力が地域の活性化につながるという考え方に基づいて，「レトロ」イメージを活用した活性化活動を含む，様々な活動に対する評価は否定的である．

3 丁目では「レトロ」に対して様々な意見が表出した．No.16 は「レトロだと感じており，全てを新しくする必要はない」と肯定的な意見を有している．一方で，No.17 は「レトロだとは思わない」ときっぱりと断言をしている．また，No.18 は「レトロさを売りにするにはもっと強調する必要がある」と指摘しており，No.19 では「レトロというよりかは代わり映えがしない」と感じている．3 丁目には賃貸の店舗が多く，90 年代後半以降の店舗の入れ替えも激しく，接待を伴う飲食店を含めて多様な業種の店舗が立地している．各店がターゲットとする客層は店ごとに異なっており，他の地域とくらべてその差は顕著である．そのため，活性化を目指した取り組みに対する意見もさまざまである．営業時間なども店舗によって異なるため，店舗間のつながりは最も薄いことが分かった．

活性化に対して積極的な者は 1 丁目のなかでも比較的若い店主に多く，彼らはレトロを強く意識して活性化に向けた取り組みに積極的である．他方で，高齢かつ，古くから柳ケ瀬で事業を継続してきた店主はこうした活動に消極的である．古くから事業を継続してきた彼らにとって，「レトロ」という評価は「古臭い」といった評価と大きな差はない．また，彼らは，柳ケ瀬の面的な取り組みよりも各店舗の経営努力によって柳ケ瀬が活性化すると考えている．さらに，事業継承を念頭においている店主はほぼ見られず，店舗上のフロアに居住している者が多く，建築からも 30 年以上が経過しているため，地代負担はほぼない．それゆえ，「レトロ」イメージを活用した活動に限らず，商店街活性化に向けた取り組みに対して消極的である．

つまり，こうした「レトロ」をイメージした活動は，今後，経営を軌道に乗せる必要のある新しい店舗の店主らが，老舗店舗の醸し出す「レトロ」な雰囲気を活用して柳ケ瀬を面的に活性化させようとしている事例であるといえる．

しかしながら，90 年以前から柳ケ瀬で事業を継続してきた店主らにとって，「昭和の雰囲気」は歴史的ノスタルジー感情を抱かせる特殊なものではない．さらに，この取り組みの準備段階での彼らの役割はほぼなく，自店舗が醸し出す雰囲気を，一部の関係者や来場者が「レトロ」と評価しているに過ぎないため，彼らの個人的ノスタルジー感情を掻き立てているとは考えにくい．

豊後高田の事例をみると，商店街として「レトロ」イメージを打ち出すためには，商店街全体で統一感を持つことが必要である．そこで，「柳ケ瀬夏まつり」を実施した事務局は老舗店舗と新規店舗との間の合意形成が重要であるとしたうえで，彼らの個人的ノスタルジー感情を刺激するために「レトロ」に加えて，「映画」というキーワードを掲げてイベントを実施した．つまり，このイベントはイベントに積極的な店のターゲット層である若者にとって新奇性と歴史的ノスタルジーを抱かせ，柳ケ瀬に対して新たなイメージを醸成しつつ，こうした動きに対して古くから商店街にいる商店主に「映画」をとおして個人的ノスタルジー感情を抱かせることで合意形成を得ることを目指した取り組みであった．

ところが，レトロな雰囲気を醸成している店舗集団とそれを利用する店舗集団は異なっており，レトロな雰囲気を醸成している店舗集団の「映画」祭への参加状況は限定的であり，このイベントへの認知度も限定的であった．つまり，彼らに対してこのイベントを通して，個人的ノスタルジー感情を抱かせるには至らず，合意形成を前提に商店街に全体的な統一感をもたらすことはできなかった．オルデンバーグ（2013）は店主も含めて居心地の良さを感じる場所であることをサードプレイスを特徴づける要素として掲げている．これを踏まえると，来訪者の視点からみればイベントの日はまち全体がサードプレイス的であったとみなせる（福富 2022）．しかし，「映画」祭が既存店舗の店主に対して個人的ノスタルジー感情を抱かせ，居心地の良さを体感させることに成功していない以上，これが行われたイベントの場をサードプレイスとして一方的に肯定することはできない．

(5) おわりに

それに対して 2022 年に秋冬に開催された「柳ケ瀬日常ニナーレ」ではレトロをとりあげた企画が多数，開催された（写真 1，2）．なかでも，岐阜大学の学生によって企画された「大学生 4 人組とめぐるレトロ柳ヶ瀬！今昔まちあるき」は大盛況なプログラムとなった．このプログラムは，柳ケ瀬の店主や住民から提供された過去の写真をみながら街歩きをするという企画であった．この企画を実施するにあたり，本研究で聞き取り調査に協力いただいたた店舗をはじめ，柳ケ瀬商店街で古くから営業されている店主の方々からの協力を得た．このプログラムは「レトロ」を前面に出したプログラムであったにもかかわらず，前節の取り組みに対して否定的だった店主の方々も含めて取材や写真の提供等に協力的であった．さらに，写真を参考にしながら過去の様子についてのヒアリングを実施した際には，店主らは昔を懐かしむ様子で，楽しみながら過去の柳ケ瀬を語った．このことから，柳ケ瀬で新たに店を構えた商店主や，彼らが関わる組織が「レトロな街」を評して活動することには批判的であった店主も，彼ら自身が個人的ノスタルジー感情に浸る場をつくることで，「レトロな街」への取り組みに対して理解を示しつつある．

「レトロ」をウリにした地域活性化は若者にとって新奇性と歴史的ノスタルジーを抱かせ，柳ケ瀬に対して新たなイメージを醸成させる効果をもつ．しかしながら，こうした活性化策は一部の制度的ソーシャルキャピタルを有する組織や人が主たる担い手となっている．そのため，今回の取り組みでは「映画」を媒介に，認知的ソーシャルキャピタルを有する店主たちに個人的ノスタルジー感情を抱かせることが試みられものの，彼ら自身がその取り組みに関与していない以上，実質的には個人的ノスタルジー感情を抱き，「レトロ」を用いた地域活性化には批判的なままであった．他方で，学生が実施した形態のイベントは店主自身にノスタルジー感情を抱かせ，自身も街をつくる一員であることを再認識させる効果を持つ．つまり，映画や美川憲一，建造物などレトロを彷彿させる事物と合わせて，古くからの商店街主の個人的ノスタルジー感情を刺激する物語を「レトロ」な取り組みに組み合わせることで，分断されたソーシャルキャピタルの連携が可能となるだろう．

写真 1　肩と肩が触れ合うようなかつての賑わい（竹市さんより）

写真 2　柳ヶ瀬日常ニナーレ（2022 年 12 月 4 日）

謝辞

本研究にご協力を頂きました商店街関係者の皆様に感謝申し上げます.

また，本研究は本学の地域学実習履修者による調査なしでは成立しえなかった．以下の履修者にも心より感謝申し上げます.

伊藤綾那，木村胡乃美，葛谷明日香，河村莉沙，小久保美紅，坂口綾香，鈴木愛衣里，高須啓太，辻竣太，中務ゆき奈，濱島佑真，前尾紀代子，安田伊織，山口眞京，山田梨乃，鈴木保乃花，武富萌，松本彩那

注

1）岐阜周辺ではモレラやカラフルタウンが開業した .

2）商店街組合は駐車場経営等も行っている .

3）柳ケ瀬商店街では，有志により同時多発的に様々な取り組みがゆるく展開されてきた . こうした取り組みは , 商店街が一体となって実施してきたものではないが , 様々な取り組みをゆるく展開する場合にも , 各活動が相互に阻害されないよう , 取り組みに対する相互理解が求められる .

4）柳ケ瀬通商店街（本通り 1 丁目～ 3 丁目）を対象とした . 柳ケ瀬商店街のなかでも日ノ出町，レンガ通りなど他の実態は , 本通りとは異なる可能性があることには留意が必要である .

5）柳ケ瀬通商店街（本通り 1 丁目～ 3 丁目）のすべての店舗に協力を依頼し , 協力の得られた店舗を対象とした .

6）柳ケ瀬商店街振興組合連合会は柳ヶ瀬商店街の各ブロックに作られる組合（単組と呼ばれる）の連合体であり , 単組によってはまとまりが失われていたり , 組織の私物化が生じている . そのため , 現在は , 必ずしも制度的ソーシャルキャピタルを有している組織とは言い切れない側面もある .

7）商店主はアーケードの維持に関わる費用を負担しているため , 出展者からの挨拶等を求めているが , 関係者のなかには「地元商店主が自らから声掛けすればいい . 主催者側は声をかけられたら，応えてくれるような店を選別して出展させている」と話している .

文献

浅野純一郎（2002）地方都市中心市街地における大規模商業施設の閉店や郊外移転の実態とその後利用・跡地利用の方向性―北陸甲信越地方の地方自治体担当部局への調査から，日本建築学会計画系論文集，552，257-264

天野景太（2017）レトロツーリズムの文化論―昭和の表象が織りなす観光のアクチュアリティ，日本観光学会誌，58，23-38

伊佐由記子（2013）地域コミュニティとしての商店街―ソーシャルキャピタルの視点から，東北大学機関リポジトリ 24 号

オルデンバーグ , レイ（2013）『サードプレイス ―コミュニティの核になる「とびきり居心地よい場所」』忠平美幸訳，みすず書房

岐阜大学地域科学部（2005）「科学部地域学実習報告パートⅤ」

岐阜大学地域科学部（2006）「科学部地域学実習報告パートⅥ」
下中雄一・下川勇（2021）商店街の衰退現象と衰退期の活性化の関係について―福井市新栄商店街を事例として，日本建築学会技術報告，27，1476-1481
土屋純（2022）『地理学で読み解く流通と消費：コンビニはなぜ集中出店するのか』ベレ出版
土屋純・兼子純編著（2013）『小商圏時代の流通システム』古今書院
箸本健二（2016）地方都市における中心市街地空洞化と低利用不動産問題，経済地理学年報 62（2），121-129
古谷奈菜，・田村高志・増田光一郎・田中咲・水師裕（2019）若者のレトロ商品における利用動機に関する研究，プロモーショナル・マーケティング研究，12，7-21
福井一喜・金延景・上野李佳子・兼子純（2015）長野県佐久市岩村田地区における商業空間の変容，地域研究年報，37，231-254
福富梢（2022）岐阜市柳ケ瀬商店街に見られるサード プレイスのまちづくりへの影響，静岡文化芸術大学文化政策学部芸術文化学科・卒業論文
堀口拓治・出村嘉史（2020）商店街活動の連鎖的展開をもたらす人と組織のネットワークの構造的特徴―岐阜市柳ケ瀬及び美殿商店街を対象として，都市計画論文集 55（3），1386-1393
渡辺達朗（2011）『流通政策入門（第３版）』中央経済社

（甲斐智大）

3.2 若者によるまちづくり

(1) はじめに：柳ケ瀬商店街でのまちづくりについて

柳ケ瀬商店街では，再開発ビルであるグラッスル 35 のオープンや金公園のリニューアルオープンなど，大きな転換期を迎えようとしている. 柳ケ瀬商店街で「まちづくり」を目的に開催される事業の多くはまちの活性化を狙いとし，人々が多く集まる場を生み出そうとしている．柳ヶ瀬を楽しいまちにする株式会社[1]をはじめ, 柳ヶ瀬まちづくり会社，ひとひとの会，柳商連など，複数の団体によってなされてきた．近年では，岐阜大学の都市・景観研究室である「美殿町ラボ」など，学生たちによる活動も増加傾向にある．

本稿では，柳ヶ瀬におけるまちづくりのうち，近年大きく動きがあったものについて，レイ・オルデンバーグが提唱したサードプレイス[2]の観点に基づき，その特徴について明らかにする．

(2) 柳ケ瀬商店街のまちづくりの要素

本節では柳ケ瀬商店街のまちづくりに関わる要素を 3 つに分け，明らかにする．1 つ目は新規店舗の出店にあたるハード面である．雑貨店や古着屋など, 若者が利用するような店舗の出店が近年目まぐるしい．これらの新規店舗は，長年商店街を利用してきた中年層や高齢層以外の層の獲得に貢献している．その新規店舗の中でも特に若手店主が立ち上げた事例について述べる．本章第 2 節で明らかにする .

2 つ目はイベント開催にあたるソフト面である． SUNDAY BUILDING MARKET（以下，サンビル）はその最たる例である．本イベントによって柳ケ瀬商店街の認知度は全国的にも飛躍的に上がり，県内外から人々を呼び込むことに成功した．9 年目に入るサンビルは 2022 年 12 月には 100 回目を迎えた．柳ヶ瀬を楽しいまちにする株式会社は．2020 年 5 月も「第 9 回まちづくり法人国土交通大臣賞」を受賞，2022 年のグッドデザイン賞のエリア再生でても受賞している．

サンビル運営主体であるこのまち会社は，2022 年に新たな取り組みを始めた．岐阜市の主催で，岐阜市にぎわいまち公社とこの会社の運営で開催された「柳ケ瀬日常ニナーレ」である．本節ではその「柳ケ瀬日常ニナーレ」について述べる．

3 つ目は人々が集う拠点となりうる喫茶・カフェである．これらの店は，ハード面とソフト面を兼ね備えた存在とすることができる．喫茶・カフェがハード面とソフト面の両方で機能する背景には，この岐阜県地域に根ざしているカフェ文化がある．この喫茶・カフェ文化については次節で述べる．

2-1 喫茶・カフェ文化

この節では，ハード面とソフト面の両方の機能を持つ喫茶店・カフェについて述べる．愛知県や岐阜県は，人口あたりの喫茶店・カフェの数が非常に多い．また「 モーニング 」と呼ばれる，朝に珈琲などのドリンクを頼むと，無料でゆで卵やパン，サラダといった特典がついてくる独自のサービス文化が存在する．この地域の人々にとって，喫茶店やカフェは身近な存在なのである．

2021 年 3 月時点で柳ケ瀬商店街とその周辺エリアには，27 店舗以上の喫茶店・カフェが存在する．そのうち，2011 年～ 2021 年の 10 年以内に開店したのは 7 店舗である．新規出店する店舗のうち，喫茶店・カフェの他に別の要素を合わせた事業を行う店舗もいくつかあり，様々な店が建ち並ぶ．しかし，柳ケ瀬商店街ではチェーン型の飲食店の多くが閉店してきた．かつてはドトールコーヒーやマクドナルド，喫茶以外では吉野家や CoCo 壱番屋があったものの，現在まで残るのはモスバーガーの 1 店のみである．サードプレイスの分類で捉えると，柳ケ瀬商店街ではマイプレイス型[3]の店舗が残りづらいという実態がある．その理由として，商店街を利用する人々にとって，代替

1　地元有志が出資して中心市街地活性化の取り組みを進めている，柳ヶ瀬エリアをフィールドにした民間まちづくり会社．2016 年に設立し，2017 年には都市再生推進法人に認定されている．

2　サード・プレイスとは，コミュニティにおいて，自宅を第 1 の居場所とし，職場や学校を第 2 の居場所とした時の，その 2 つから隔離された，心地のよい第 3 の居場所を指す．

3　サードプレイスに特徴が日本においてはが必ずしも一致しない形式で展開されており，片岡亜紀子氏の研究に

可能な空間やコミュニティがあまり必要とされていないということが挙げられる．人々はチェーン店で享受するサービス以外のものを求めているのではないだろうか．その 1 つが店主や常連客とのコミュニケーションであり，そこで生まれるコミュニティである．

近年，柳ケ瀬商店街には喫茶以外の要素を併せ持った喫茶・カフェが出現している．飲食を提供するといった喫茶機能の他に，ギャラリースペースを構えていたり，ライブ開催を行う店舗が現れてきたのだ．その事例を 2 つほど挙げる．

喫茶星時（所在地：岐阜県岐阜市神田町 3 丁目 3 加藤石原ビル 2 階）

喫茶星時は，柳ケ瀬商店街と面した大通りに位置する喫茶店である．空きビル再生プロジェクトでシェアアトリエとしてリノベーションされたビルの 2 階で店を構える．喫茶星時では喫茶利用だけでなく，イベントスペースとして利用することができる．これまでに，演劇の公演，ボードゲーム，落語，美術教室 ，手芸カフェといった様々なイベントが行われてきた．喫茶星時で開催されるイベントの特徴は主に 2 点である．

1 点目は，イベントごとに参加する客層が大きく異なるということである．高校生から 60 代までの客がイベントを企画し，それに伴ってイベントの客が店を訪れる．イベントで来場した客が，通常営業の店に足を運ぶようになり，結果的に様々な年齢の人々が集う場所となっている．また，通常営業で訪れていた客が店主を交えることで，新たにイベントを生み出すという大きなサイクルが存在する．

2 点目は，定期開催のイベントが多いということである．開催が一度にとどまらず，継続して行われるようになったイベントもある．定期開催になることで，自然とコミュニティが生まれるようになっている．この 2 点だけでなく店主の人柄も要因となり，喫茶星時は人々の交流の場となっている．

ビッカフェ（所在地：岐阜県岐阜市弥生町 10）

ビッカフェは柳ケ瀬商店街の中に位置するカフェである．カフェ営業の他に古本屋事業も行い，カフェ内にギャラリースペースを設けている．ギャラリースペースは定期的に使用され，様々な作家が展示会を行っている．デッサン教室やワークショップ，読書カフェ，俳句イベントなどビッカフェが主催となった催しが定期的に開催されている．イベントごとにコミュニティができ始め，カフェそのものが憩いの場となっている .

事例として取り上げた喫茶星時やビッカフェのような店舗が，イベントなどを通して新たなコミュニティを作り，繋げる場として機能することによって，サードプレイスとして成り立っているのである．

2-2 若者向け店舗の増加

次に，ハード面として存在する新規店舗について述べる．柳ケ瀬商店街エリアでは新規店舗の増加が目覚ましい．その中でも，この節では特に最近開店した，「ニュー銀座堂」について述べる．

ニュー銀座堂（所在地：岐阜県岐阜市柳ケ瀬通 2 丁目 15 － 1 ）

ニュー銀座堂は，「次世代アーティストが輝ける場所」をスローガンに 2022 年にオープンしたギャラリーである．もともと靴屋だったこの場所に，店主である 20 代の渡邉百恵さんがシェアハウスとして移り住んだことがきっかけとなり，開業した．

オープンしてから毎月，新たな若手アーティストの展示が行われている．またその幅も広く，経験者から未経験までの作家たちが展示する．

銀座堂の大きな特徴としては，建物入り口に設置されたこたつである．店主である渡邉さんが絶えずこたつに座り，道ゆく人や来客と挨拶を交わす．こたつは扉に遮られておらず，道の延長線にあり，外と中の境界が曖昧になっている．在廊している作家や作家の友人等がこたつに入り，団欒する様子もよく見られ，ニュー銀座堂を拠点として多く

よって分けられた，サードプレイスの３つの分類のうちの１つ．

スターバックスやドトールのような，カフェを主に指しており，個人が時間を気にせずゆったり過ごすことができる空間．個人の憩いの場としての機能を持つ．

の人々がゆるくつながっている．目的もなく長い時間滞在することが難しい柳ケ瀬商店街において，このゆるやかさは，特異な点である．サードプレイスにも通じる空間づくりであり，片岡氏が定義するサードプレイスの３分類のうち，社交交流型[4]と目的交流型[5]が入り混じった構造になっているのではないだろうか．

またニュー銀座堂では，まちの演劇スクールと題した「ひとあそびスクール」も定期的に実施している．演劇について学ぶ場としてだけでなく，自己表現の手法を知る場としても続けられている．生徒は現役高校生から社会人まで幅広く，経験者から未経験の人まで集まる．

ニュー銀座堂正面から見た写真

2-3　柳ケ瀬日常ニナーレ

この節では，ソフト面として，新たな役割を果たしていると思われるイベントについて取り上げる．

柳ケ瀬日常ニナーレ（以下，ニナーレ）とは，「新旧が入り混じる柳ヶ瀬エリアに生きる人，そんなまちに魅せられた人たちによる多様な体験プログラムが開催される長期間のイベント」である．ニナーレでは地域資源の発掘を目的とする，おんぱく手法[6]が用いられた．

初年度となった今年は，49 プログラムが集まり，プログラムを企画するパートナーが総勢 50 名弱集まった．

市や公社，柳ヶ瀬を楽しいまちにする株式会社が進めるリノベーションまちづくりや，サンビルにおけるまちづくりの課題感として，地元店主とのつながりや，商店街既存店自体の魅力発信，まちの関わりしろ不足があった．その課題に対応すべく，動き出したのがこの事業である．

プログラム立案には既存店店主だけでなく，柳ヶ瀬と関わりの強い周辺大学の学生たちも関わった．20 代のパートナー参加も多く，プログラム参加者も 20 代女性が一番多いという結果となった．まちあるきをテーマにしたものや，その時にしか聞くことができない特別な話をするもの，クラフト作りに特化したものなど，さまざまなプログラムが企画され，開催に至った．

本イベントは参加者とパートナーでそれぞれ大きな特徴がある．

参加者的視点の特徴は「知らなかった魅力に触れ合える」という点である．気になっていたけど入ったことがなかったお店，通ってはいたのに，知らなかった裏側など，ニナーレを通すことでしか得られなかった体験を特別に楽しむことができる．プログラムを開催することで，実施後に参加者がお店を訪れるという場面もあったそうである．

パートナー視点での特徴は「関わりしろの増加」にある．まちあるきを取り入れたプログラムを例にあげる．実施にあたり，まず訪れる店舗等にあいさつに行く必要がある．訪れる店舗にどれくらいプログラムに関わってもらうかにもよるものの，交流が必須である．ニナーレをきっかけに，商店主や商店街との接点が生まれるのだ．商店街という非常に入り組んだネットワークは入り口がわかりづらい．だからこそ，店舗や普段柳ヶ瀬で事業を行う運営と交流することで，アクセスがしやすくなるのである．

4　地元の居酒屋が例として挙げられ，レイ・オルデンバーグ氏の述べるサード プレイスのこと．なじみの常連が社交の場として楽しむ場としての機能を持つ．

5　NPO やこども食堂，コミュニティカフェのように，何らかの地域活動としての目的が存在し 人々が自発的に集まる場．目的も楽しさも あり，出入りの自由さもある．石山恒貴氏は自身の研究の中で，この目的交流型が地域のサードプレイスにあたると主張する．そして自分の社会的立場を気にせず交流できるからこそ，サードプレイスは地域の中でゆるくつながる場として適していると述べる（石山恒貴「 地域とゆるくつながろう！サードプレイスと関係人口の時代 」静岡新聞社，2019 年）．

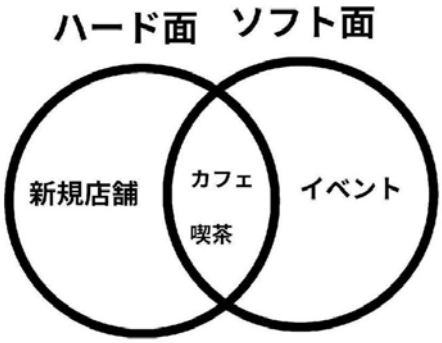
6　温泉博覧会の略称．別府を発祥とし，地域に眠っている資源を活かした「プログラム」と呼ばれる小規模の体験交流型イベントを沢山集めて特定の期間に開催する．

柳ケ瀬日常ニナーレにおいて開催されたプログラム

第 1 回目の 2022 年を踏まえ，次年度に向けてどのように
その繋がりが変化していくか期待したい．

(3) 柳ケ瀬商店街のまちづくりの交わる要素

柳ケ瀬商店街のまちづくりにおける要素として，ハード面にあたるのが物理的空間を所有する新規店舗である．雑貨屋や古着屋など，若者向けの店がここに該当する．これらの店が，若者を商店街に日常的に呼び込むことに成功している．そして，空間を所有しないイベントはソフト面にあたる．イベント開催が，柳ケ瀬商店街に訪れるきっかけとなっている． そして，このイベントが定期開催になることで，イベント自体も大きなサードプレイスとなりうる．そして，物理的空間を持つ新規店舗やイベントの両方の要素を持ったのが，喫茶店・カフェである．そこに滞在することができる空間を持ちながら，イベントを開催し，随時新たな客を取り込んでいる．これらのような，店舗やイベントといった要素たちを支える機関として，柳ヶ瀬を楽しいまちにする株式会社やミユキデザイン，岐阜市にぎわいまち公社といった組織が存在する．



柳ケ瀬商店街のまちづくりの要素を図式化したもの（作成：筆者）

商店街の様々な要素がサードプレイスという場として機能することで，人々は商店街を日常の中に少しずつ取り入れていったのではないだろうか．

まとめ

柳ヶ瀬商店街は衰退を経てから大きな変化を遂げた．本稿では，柳ヶ瀬で行われてきたまちづくりの要素について，サードプレイスの視点も交え，述べてきた．ハード，ソフト，またその両方の 3 要素に分け，概観した．ハード面を担うのは，新規店舗の増加である．飲食店に限らず，雑貨店や古着屋などが開店した．これらのことにより，多くの若者たちが柳ヶ瀬商店街に訪れるきっかけが生まれた．ソフト面においては，サンビルをはじめとした，ニナーレといったイベント等の開催である．サンビルは，人のにぎわいを創出してきただけでなく，創業者予備軍の発掘や育成にも繋がってきた．この複数の要素によって古くから柳ケ瀬を利用してきたわけではない層の人々を多く呼び込むことに成功した．

新たに始まったニナーレは，サンビルでは達成することができなかった，既存店とのつながりや魅力発信，関わりしろを増やすといった新たな課題解決に向けて動き始めた．

そして喫茶・カフェとは異なる要素を併せ持った喫茶店・カフェが，ハード面とソフト面の側面を持ち，交流の拠点としての役割を果たす中で，まちづくりに大きな影響を与えている．こうしたサードプレイスを含めた様々な集積が 2010 年頃からの柳ケ瀬商店街のまちづくりを支えてきたのである．若手世代の関わりしろが増えつつあるこの場所で，まち中のサードプレイスがどのように機能していくのか，今後のまちづくりにも注目したい．

福富梢

（柳ヶ瀬を楽しいまちにする株式会社）

4. 金華のまちづくり

(1) 金華・岐阜町の歴史

岐阜城の始まりは鎌倉時代初めの二階堂行政（ゆきまさ）といわれている．土岐氏（当時は大桑（おおが）の城下町，現・山県市高富）から，斎藤道三（長井氏，親子二代）の時代に金華山の北東麓に拠点をおいた．井の口村（七曲り道，本町）に加えて，百曲り道に大久和（おおくわ）（大桑）住民を移した．伊奈波神社も，今の岐阜公園の北側にある丸山から，稲荷山と権現山の間に移している．道三の孫の斎藤龍興を織田信長が破って，井の口から岐阜に呼び名を変える．信長は，七曲り道と百曲り道の間に新町を，七曲り道から南南西に靱屋町を発展させたといわれる．

関ヶ原の合戦で岐阜城が落城した後，幕府領から尾張藩領の岐阜町となり，代官所が今の末広町に置かれた．その向かいの米屋町には本陣がおかれて，尾張（岐阜）街道が靱屋町の延長に伸びる．長良川で漁れた鮎を，岐阜大仏前のお鮨所でなれ鮨として江戸まで献上したことから，お鮨街道ともよばれるようになる．

明治に入って，明治 5 年の大区小区制（第一大区三小区）から，1989 年に岐阜町（54 町）と富茂登村（川原町と山口町）に，上加納村のお鮨街道沿いの市街を加えて岐阜市となる．空き地となっていた信長時代の古屋敷はその後，岐阜公園となり，代官所跡は当初は金華小学校の場所，後に住宅地になっている．当時は岐阜市の中心だったが，柳ケ瀬や駅前の発展にともなって市街地は南下した．

川原町や今町は長良川流域から集荷された美濃和紙の流通拠点となり，加工品の提灯や，副蚕糸の問屋も建ち並んで大きく発展していた．1891 年の濃尾震災では，川原町と上茶屋町・山口町を除いて倒壊・全焼する．1945 年の岐阜空襲では，南の総構（忠節用水）の北は被害を受けなかったので，江戸末期から戦前までの町家が多く残っていた．伊勢湾台風（1959）から 3 年連続の水害では，川原町などが床上浸水の被害を受けている．和紙業の衰退や，材木問屋の岐阜駅や南部への移転に伴って，金華地区には料亭・旅館などが残ってきたものの，多くは静かな住宅地へと変貌してきた．

図 1　金華地区の概要

出典：金華一二三会「わたしたちの子供の頃の金華の町」2010

第二次大戦前の金華校区の様子は，昭和 12 年 3 月に金華尋常小学校を卒業した同級会の皆さんの金華一二三会により，『わたしたちの子供の頃の金華の町』で地図とともに描かれている．この編集をサポートした富樫も，文化的景観報告書の中で，和紙・故紙の流通業，提灯，木材，副蚕糸の店の集積と，本町・伊奈波界隈の店舗・住宅の特徴として記述している．この地図を持ってのまちあるきも，しばしば行っている．ともに，岐阜市教育委員会（2015）『長良川中流域における岐阜の文化的景観保存調査報告書』にも収録されている．

『金華史誌』（金華史誌編集委員会，1993）には各町内の記述があり，NPO 法人わいわいハウス金華・岐阜市歴史博物館『岐阜町金華の誇り』（2009）は各地区の歴史と現在の写真を対比しながら説明している．1980 年には岐阜市教育委員会が「旧中河原町並調査：湊町・玉井町・元浜町」（図 2：左）を行なって，数軒の町家の見取り図を作成しているが，文化財保護法の重要伝統的建造物群保存地区の指定は考慮に入れていないことも書かれている．なお同じ時期（1984 年）に，高山の一之町～三之町は伝建地区の指定を受けている．

(2) 景観問題とまちづくり

町家が建ち並んでいたこの歴史的な地区において，平成に入った頃に，まず靱屋町でマンション建設問題が起こる．忠節用水（尾張藩奉行所の堀）を挟んで，西側が商業地域，東側が住宅地域であったため，前者では高層マンションの建設が可能であった．後者でも，伊奈波神社前のアパート建設をめぐっては，6 階建ての計画に対して地元の反対があり，3 階に抑えられたことがあった．岐阜市では都市景観条例を策定して，高さや色彩について地元からの意見を聞く方式が取り入れられた．

これをきっかけとして，「金華のまちづくり協議会」と建築士などの専門家による「金華まちづくり研究会」が活動を始める．直前に，「大仏フェスティバル」の開催で集まった市民と行政の顔ぶれが，そのままこの協議会のメンバーとなっている．岐阜市の都市景観条例（1995 年）による「景観形成重要建築物」の指定を受けた町家の建物では，修景の際に助成が行われている．

岐阜祭（伊奈波神社，岐阜市としては道三祭）に，山車とともに神輿を復活させて，地域の人のつながりを活性化させた．元岐阜 JC が人の繋がりを復活させてようと神輿の繰り出しを始める（伊藤泰雄『「神輿大好き」岐阜のまちに神輿が復活するまで』2015）．

並行して，HOPE 計画により歴史的な町並みに合った住宅モデルが提案されている（図 2：中）．しかし，外部のコンサルタントの指導によるワークショップは，必ずしも住民の意向とは合っていなかったようである．金華地区全体でのまとまりの難しさもあったと聞いている．しかし，建替えや改修の際でも，歴史的な町並みに合わせていこうという意識が住民，参加者の間には浸透していたようである．

図 2　金華地区における調査・計画

表 1　岐阜市のさまざまな計画の推移と，金華地区に関連した事業・法律，活動（2015 年まで）

1999年	長良川プロムナード計画	県道の付け替え			
2003年	金華山・長良川まるごと博物館構想	岐阜市・ぎふまちづくりセンター	岐阜三十六景	ぎふまちづくりセンター	
2004年～	岐阜市都心北部　まちづくり交付金事業	岐阜市	川原町まちづくり協定	川原町まちづくり会	
2007年			古今金華	ぎふまちづくりセンター	
2008年	岐阜躍動プラン21・2008	岐阜市企画部・岐阜大			
2009年	岐阜市景観計画	岐阜市まちづくり推進部 まちづくり景観課	川原町無電柱化・道路修景などの完成		景観法（2004年）
2011年～			長良川おんぱく	同実行委員会	
2013年	岐阜躍動プラン21・2013	岐阜市企画部・岐阜大			
	長良川中流域の文化的景観	岐阜市教育委員会			文化財保護法改正（2004年）
	岐阜市歴史的風致維持向上計画	岐阜市都市建設部 歴史まちづくり課			歴史まちづくり法（2008年）
2015年	信長公のおもてなし	岐阜市教育委員会			日本遺産
	清流長良川の鮎	岐阜県			世界食料農業機関申請

この協議会と研究会は，岐阜市役所と共にワークショップやシンポジウムなどを重ねて，その成果が「華の基準」（1996 年，図 2 右）としてまとめられる．神奈川県真鶴市で行われたまちづくりと景観保全のための「美の基準」（『美の条例 : いきづく町をつくる 真鶴町・一万人の選択』，五十嵐敬喜・池上修一・野口和雄，学芸出版社，1996）の池上氏を招いて，クリストファー・アレグザンダーのパターン・ランゲージの手法に基づいて，『華の基準』（1996）が作成された（図 2：右，岐阜大学教育学部，渡辺光雄教授の指導による）．

同様の手法を用いて，岐阜県から学生提案によるまちづくり事業を受けて，地域科学部では町並みの変化（空き地，駐車場など）を調査し，さらに町家の見学と聞き取りや（図 3），残っている町家の分布（図 4）と，町並みに合わせた建物の修景の調査を行っている．

金華地区全域としてはまとまりが難しく，こうした活動も一時は下火となっていた．そこで，伊奈波周辺のいくつかの町内では「まちづくり協定」が策定される．木造町ではお寺のお堂の高さで建物を制限するなど，ユニークなものだった．

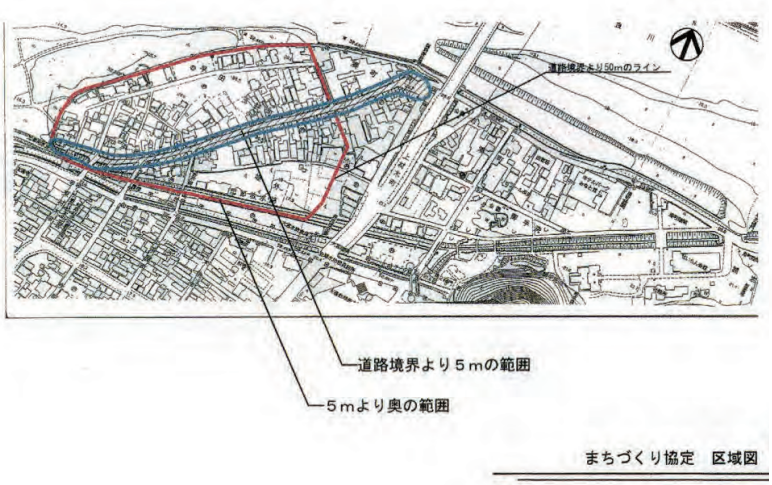
2000 年前後に再び，米屋町・中竹屋町と，上材木町でそれぞれマンション問題が起こる．そして，今度は地域的なまとまりに合わせて，自治会とともに「川原町まちづくり会」，「伊奈波界隈まちつくり会」，さらに「井ノ口まちづくり会」がそれぞれ発足して，新たな活動が広がってくる．

川原町では，自治会としては鏡岩・御手洗・上材木町・湊町，玉井町，元浜町（自治会としては川畔町を含む））の 3 町内で，2001 年に川原町まちづくり会が設立され，各戸の門灯の設置や，エアコンの格子覆い，丸い郵便ポストの設置などから始めて，2004 年には高さ規制や白（素）木の格子などのルールを含んだ「川原町まちづくり協定」（図 5）が合意される．鵜飼乗船待合所や十八楼など，岐阜市の観光の拠点ではあるものの，観光による活性化よりも住民が暮らしやすい，治水の上でも安全なまちづくりを方針に掲げている．この経緯は，川原町まちづくり会『ぎふ川原町』（2015）でまとめている．

引き続いて，無電住化事業がスタートして，協議会とワークショップが続けられて，この町に相応しい町並みの保全と，道路修景が取り組まれる．この事業は，全国で岐阜市と寝屋川市の 2 市で取り組まれた事業であったが，住民合意によってコストも抑制しながら行われた計画で，協定で合意形成が進んだことを背景として進められた．無電柱化事業の取組みが岐阜市や中部電力などの協力で始められて，軒下配線・裏配線など，狭い川原町通りで共同溝や

図３　学生の町家の聞き取り調査（2003）

図４　金華地区に残る町家の分布，下妻由佳（2005）「岐阜市金華地区の現状と変容―修景と保全」（岐阜大卒業論文）



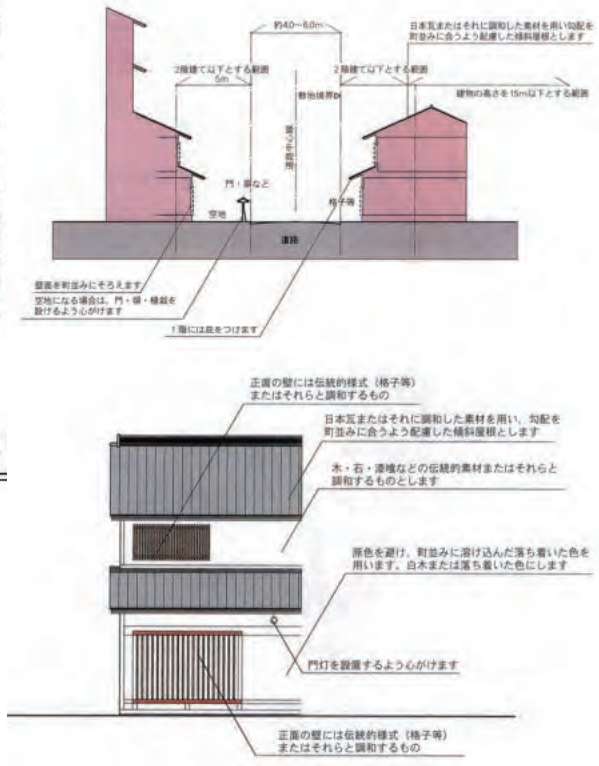


図５　川原町まちづくり協定（2004）

地上器を置かないかたちでの景観整備と道路集計が 2009 年に完成する．

景観法（2004）にもとづく岐阜市景観計画（2012）では，金華地区が景観計画重要区域に指定されて（図 6），先行して高度地区の指定を受けていた川原町（A 地区）と，それ以外の金華地区（B 地区）でも 20m の高さ規制が行われた．なお，伊奈波地区の米屋町・中竹屋町などでは地区計画による規制も専攻していた．これに合わせたマンションも建設されているが，後述の買物問題などもあり，売れ行きは難しいようである．

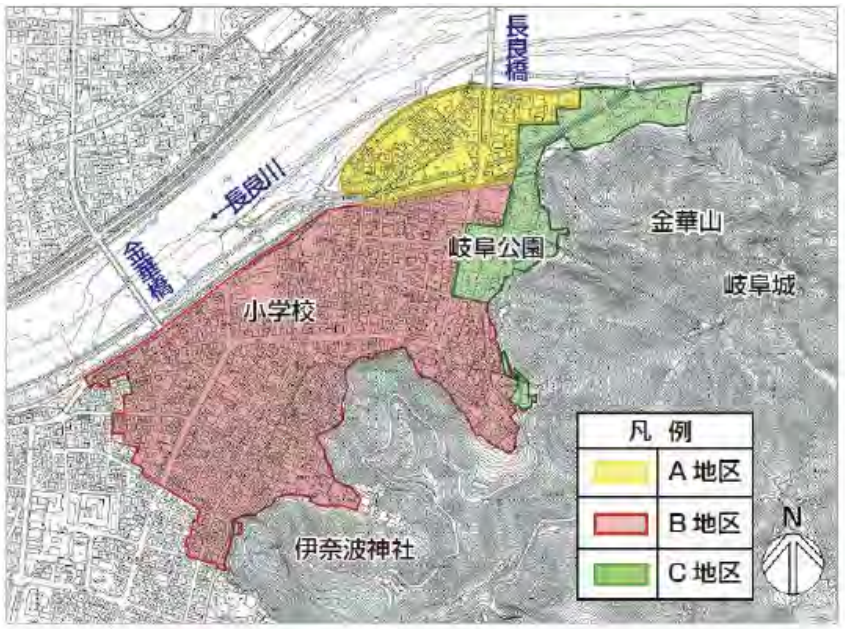


図 6　岐阜市景観計画（2012）における景観計画重要区域・金華

A 地区で国道 156 号線の両側 50m は 34m，その西の川原町は 15 m，その他の B 地区は 20 mの高さ規制

表 2　岐阜大学地域科学部の金華地区における調査

2001	岐阜市中心市街地調査Ⅱ－金華
2002	金華地区しにせ店舗調査（白樫）
2003	川原町聞き取り調査（山崎，富樫） 岐阜県学生提案事業
2004	金華地区で新たに開業した商店の実態調査 金華地区の高齢者調査（わいわいハウス金華）
2008	伝統地区：金華（山崎・合掌・高木，町家に住む人たち）→金華一二三会誌への協力
2009	金華地区（山崎・合掌，空き家調査）（町家情報バンク）
2018	岐阜市中心市街地に暮らす高齢者の生活実態と買い物等日常生活維持のための課題（高木） 岐阜市の歴史的地区における町家の活用，創業，景観（富樫，合掌）

（3）空き家問題，町家の活用，「買物難民」

金華地区でも御多分にもれず，人口減少と高齢化が進んできた．人口ピラミッドをみても団塊ジュニア以下が極端に少ない．住民への調査でも，後継者が東京，さらには海外に転出しているという話も耳にした．岐阜大学では，この地域での実習で，さまざまな課題とともに調査を続けてきた（表 2）

歴史的な町並みでも，高山，古川，美濃などは町家の連続性が保たれている．空き家問題はやはりあるようで，美濃町家マーケットはその活用も視野に入れているそうである．川原町と美濃町は，和紙の流通で強い結びつきのあったところである．

ぎふまちづくりセンターの都市景観サロンを，徹明町から蒲勇介さんが入った靱屋町の町家に移したのが 2006 年からである．まず，町家の見学会をやろうということで，中を見せていただける場所を回り始めた．道路の外観からでは分からないが，内部には庭や蔵，茶室，奥座敷などがあり，有形登録文化財の指定を受けた町家もある．

さらに金華の自治会，ふれあいクラブ（老人会），NPO わいわいハウス金華，NPO トラスト岐阜，岐阜市まちづくり推進部とも連携して，「ぎふ町家情報バンク」の活動を始めた．地元の事情をよく知るふれあいクラブからは，

図 7　金華地区における近年の新規の出店舗など（2018 年 9 月時点，岐阜大学聞き取り調査）

図 8　左：カフェ＆ギャラリー　水の音　　右：ギャラリーの小さい家

空き家の情報，地図の提供を受けた．さらにトラスト岐阜と岐阜市，自治会の連携で，住民アンケートを行っている．まず，5 月から 6 月にかけて，金華地区の老人クラブである「金華ふれあいクラブ」の役員の方々にご案内いただいて，同地区の全体を歩いて見てまわり，外見から空き家と思われる物件をピックアップするとともに，近隣の住民の方々から情報を得ることで，家主の特定に努めた．そして聴き取り調査を行うとともに，遠方に住む家主に対しては，郵送による回答を求めた．空き家の大家さんや管理者への聞き取り調査も行ったが，なかなか貸すきっかけにはなりにくかった．しかし，情報バンクの事業（県建築士会の助成）で，他県の調査と「みんなの茶の間」の一時的な開催まではこぎ着けている．

図 9　左：ミライの参道マルケ（2022 年 5 月 15 日），右：伊奈波神社参道の岐阜麦酒醸造

その後，2015 年前後から，町家を利用したカフェやギャラリー，店舗が登場し始めた，2018 年の実習では，こうした店舗などへの調査を行って，借用のきっかけや運営の仕方，横でのつながりなどを聞き取っている（図 7，8）．

伊奈波の善光寺前では，毎月 15 日に「善光寺大門まるけ」というマルシェが開催されてきた．柳ケ瀬で行われていたリノベーションスクールを，岐阜市にぎわいまち公社と岐阜市まちづくり推進部にも働きかけて「リノベーションスクール in 伊奈波」が 2021 年に行われた．そこで提案された「伊奈波の裏参道」プロジェクトの提案を受けて，2021 年 12 月には「株式会社岐阜まち家守」が発足して，まず伊奈波通りの参道の空き家をリフォームして，クラウドファンディングも実施して資金を調達し「岐阜麦酒醸造」が 2022 年 3 月に開店した（図 10：右）．続いて 2023 年 1 月に「天むす」が，続いて「フォー」の店が開店する予定である．2022 年 5 月と 10 月，には伊奈波広場で「ミライの参道マルケ」（図 9：左）が開催されて，地元の金華だけでなく，周囲からも出店があり，来客者が大きなにぎわいを生んでいる．

もう一方で，以前からの食堂や八百屋などの閉店が続いた．高齢化や人口減少のためにやむを得なかったところもある．2018 年の実習の高木班は，岐阜市の福祉部と金華の社会福祉協議会との連携で，「買物難民調査」を行った．車があれば，柳ケ瀬や長良まで買物に行けるが，高齢者ではそれも難しい．コンビニも 2 店あったもののうち，1 店舗が閉店してしまって「コンビニ難民」になりかかった．4000 人台の人口では，3000 人の商圏が必要なコンビニの立地の閾値を満たしていない．辛うじてもう 1 店の出店があり，少し南にはドラッグストアも出て，なんとかなっているところである．夜市の後に，移動販売車も回るようになって助かっている．買物難民問題は，限界集落や高齢化が進む郊外団地だけではない．将来の人口も減少していき，地域での課題をあげる声も大きかった（図 13）

(4) まちあるきのプログラム

金華のまちづくり協議会でも，まち歩きや金華小学校の子供たちのまちあるきも行ってきていた．川原町の協定づくりでも，住民のまちあるきを通じたチェックは行っていた．また，伊奈波界隈まちつくり会の発足前にも，全ての町内会と学生によるまちあるきを実施していた（図 10）．

前記の町家の見学会もそうだが，一二三会のマップを持って町を歩いていると，昔のことをよく知るお年寄りとの話が盛り上がって，なかなか前に進まなくなる．そのうち，老舗のお店の後継者がいることも分かってきた．ぎふまちづくりセンターの資金で，ORGAN などの若手や教育委員会などの協力で，2008 年に「古今金華」という小冊子を作成する（図 11）．岐阜市中央青少年会館が，若者を集める企画としてこれに注目して，2009 年に「古今金華町人ゼミ」が始まる．着物を着た女性陣が「若旦那めぐり」を始めて，人のつながりが生まれ始める．ORGAN による「水うちわ」の復活と，まちあるきも行われた．

3 年目には当時の岐阜大の学生が自ら企画したいということで，「長良川みちくさゼミ」に名前が替えられる．参加者がまちあるきなどのプログラムを企画していく．対岸の長良会とも連携が生まれて，そちらは鵜飼屋の「猫道あるき」のプログラムになる．

さらに，熱海や別府といった温泉地で，団体型のマスツーリズムの衰退への対策として，ミニツーリズムの「温泉博覧会」が始まっており，この方式を岐阜でも，県の「川原町界隈ブラッシュアップ事業」として，岐阜長良川温泉旅館組合が受けて，オルガンがその実施を引き受ける「長良川おんぱく」が 2011 年にスタートする．開始直後から，100 以上のプログラムが創出されて，新しい岐阜のツーリズムとしての地位を獲得していく（図 12）．

図 10　伊奈波界隈まちつくり会設立前のまちあるき＋地域学実習（2003 年）

図 11　古今金華（ぎふまちづくりセンター，2008）

図 12　長良川おんぱく　川原町でのまちあるき (2018 年)

図 13 「金華今後」（都市景観サロン，2010 年）

(5) 金華まちづくり協議会

以前の金華「の」まちづくり協議会とは違うが，岐阜市が進めてきたほぼ小学校区単位の自治会連合会と併せて，新たに「金華まちづくり協議会」が平成 29（2017）年に発足して，ユニークな活動を続けてきている．自治会の役員がそれぞれ，会長，副会長などを兼ねている．ホームページも充実したものになっている．

令和 2（2020）年には住民へのアンケート調査をふまえて，ワークショップが行われ，役員会や常任理事会での検討，パブリックコメントの実施を踏まえて，今後の 10 年後を見据えた「金華地域まちづくりビジョン」（2021 年 3 月，図 14）が策定されている．

具体的な活動としては，「防災対策安心安全会議」では，前は避難訓練だけだったが，「金華見守りネット」として，要支援者に 2 人ずつついて，日ごろからの見守りを行っている．「今日は支援する方，明日は支援される側に」ということで，社会福祉協議会と民生委員，自治会が協力している．「小規模地域防災隊」の組織化を目指し，要支援者を対象とした安否確認防災訓練を実施している．

市の市民活動支援事業にも申請して，2022 年度は一つは「狂俳」を市内外に広めていく活動に取り組んでいる．もう一つは，岐阜市が日本でも最初の「日本遺産」に「『信長公のおもてなし』が息づく戦国城下町」として指定を受けたが，住民の参画が望まれるということで，再審査を受けて継続となっている．そこで，まち協として，「岐阜公園信長公のおもてなし歌舞音曲隊」が総合案内所前でイベントを継続して行っている．また「信長公のおもてなし茶会」も 12 月に公園内の華松軒で開催された．「助け合い隊」としても，岐阜公園周辺の道路の清掃や緑化のボランディア活動を続けている．

まちづくりを進めていくために，以前は元細江市長を招いた寺子屋の他，金華村塾（まちゼミ）の学習会が続けられており，富樫（2019 年 3 月）「金華の魅力」について（今回の報告はその一部を用いている），2022 年 3 月には岡田知弘氏（京都橘大学，元岐阜経済大）を招いた講演会も行われている．

通常の自治会の活動ではできない分野を，「まち協のおかげで，やらないといけないことができるようになった」「ワンチーム金華，動かしやすくなった」という声が聞かれた．

（富樫幸一）

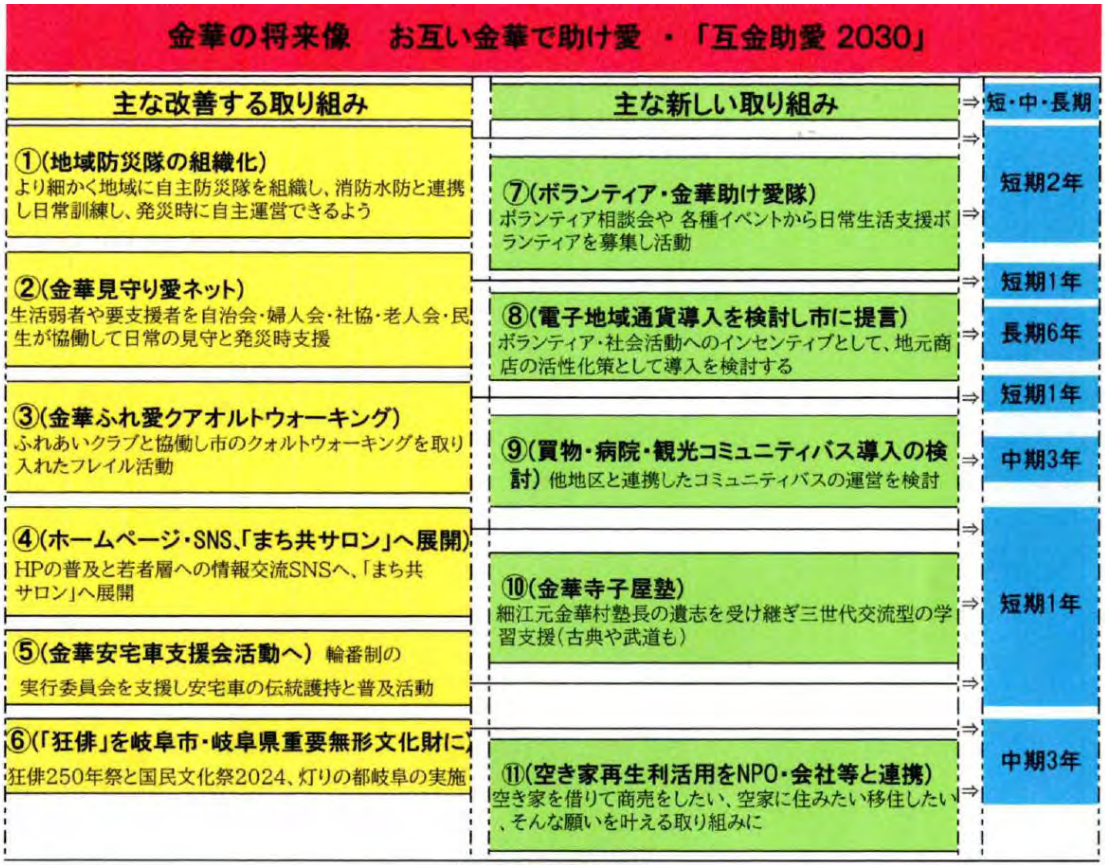


図 14　金華地域まちづくりビジョン

5. 加納地域のまちづくり

(1) 加納の歴史

「加納」の地名は，茜部にあった東大寺の荘園が北に広がって付け加わったことによる．東・北・西の平田荘との境界争いもあり，西の境は現在の岐阜西通り（旧西陸橋通り）となっている．条里制も敷かれており，西にある「六条」の地名はそれに因っている．

関ヶ原の合戦で岐阜城が落城し，徳川家康は長女の亀姫と，長篠の合戦で長篠城を守った奥平信正の夫婦を加納藩として置いた．また，鷺山～長良を抜けていた東山道に代わって，中山道でも有数の規模の加納宿が置かれた．加納藩は当初の 10 万石から江戸時代末期には 3.2 万石となって，藩財政が困窮したことから，美濃和紙を用いた和傘の大量生産を始めて，日本一の産地となる．

明治に入って，岐阜市が市制をしく時に（1891 年），人口規模の 2.5 万人を満たすために上加納村（美園町，後の柳ケ瀬も）の岐阜（お鮨）街道沿いを編入した．東海道線を挟んで東加納村，西加納村となって，明治 39 年に稲葉郡加納町となる．加納城と城下町は廃藩によって空き地となったことによって，北の岐阜町よりも師範学校などの学校群が置かれて「教育の町」となる．江戸時代末期以来の全国一の和傘を大量生産する地区になった．また．岐阜駅が大正 2（1913）年に南側に現在の位置に移転し，その南北には繊維工場が建ち並んだ．こうした産業を基盤として加納町は経済的に発展し，大正 15（1926）年には鉄筋鉄骨コンクリートの加納町役場が建設される．さらに市街地が連担してきた岐阜市とは，昭和 15（1940）年に合併する．昭和 20（1945）年 7 月 9 日の岐阜空襲では，中山道沿いの新町，柳町を除いてほぼ焼尽した．戦前から進められていた区画整理とともに，戦災復興事業でほぼ現在の市街地が形成される．和傘は昭和 25（1950）年をピークとして，洋傘への転換で衰退の道をたどる．加納城が 1983 年に自衛隊の移転後に国史跡として指定されるとともに，「中山道加納宿文化保存会」が発足して会報の発行を始める．

加納の人口は 1960 年には 32, 311 人のピークを迎えたが，その後，半減した．しかし，2015 年から 20 年にかけて，駅に近く，スーパーや病院，学校などの施設の利便性も高いため，加納東は横ばい，西は 80 人の増加に転じており，マンションや戸建て住宅の建設もみられる．

図 1　加納マップ　『加納のまち』より　左下はイメージキャラクター「加納のかめ姫」

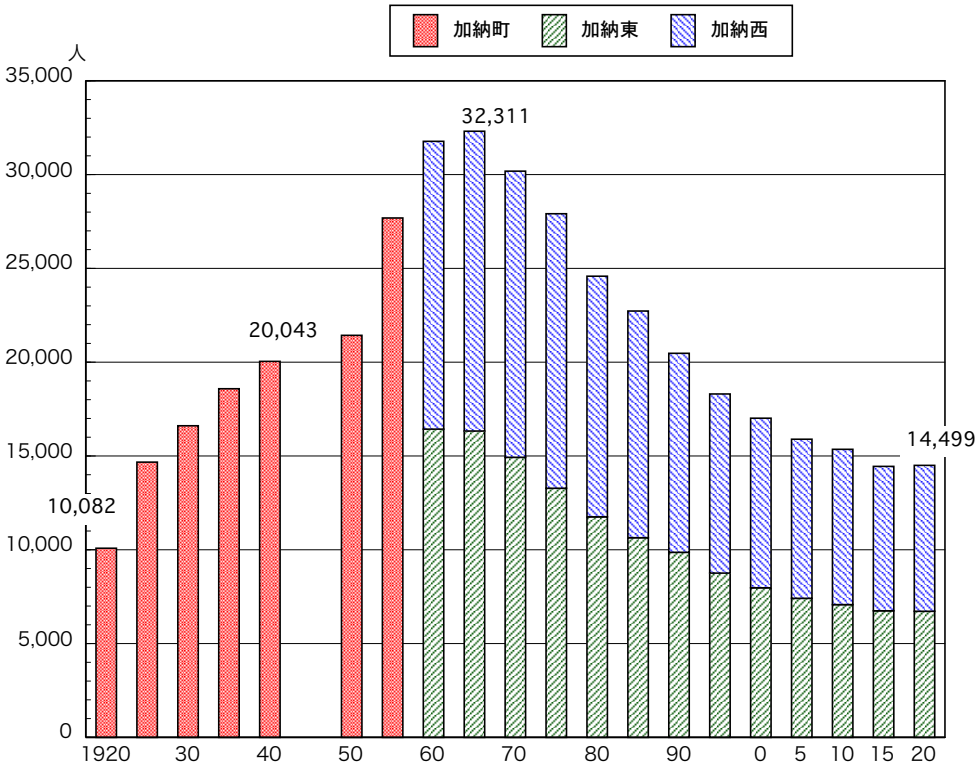


図 2　加納の人口の推移
資料：国勢調査

(2) 加納まちづくり会の活動

金華地区のまちづくりと並行して,岐阜市の歴史的な地区として「岐阜の歴史的なまちづくりを支援するネットワーク」を 2002 年に始めて，続いてぎふまちづくりセンターの「都市景観サロン」を毎月，開始する．この年に，岐阜市景観整備課から「都市景観タウンウォッチング」をまちづくりセンターで請け負って，加納東自治会連合会などと実施している．さらに翌 2003 年に岐阜大学地域科学部の富樫班が，加納の東西の自治会，文化保存会，和傘振興会などの調査を行なったことで，関係者とのつながりが生まれる．

加納東では「加納地区まちづくり意見交換会」を 2002 年も行っていたが,翌 2003 年は上記の諸団体が一致してテーマとしていた「旧加納町役場」の保存活用に向けた意見交換を行った．2004 年 3 月のこの委員会の終了後，ただちに準備会に移行して，2004 年 11 月には「加納まちづくり会」として活動を開始する．岐阜市都市景観条例にもとづく景観形成市民団体に指定を受け，当時の細江市長から「加納らしいまちづくりを」との言葉を頂いていた．景観形成市民団体の指定を受けると,年間 35 万円,5 回（連続でなくてもかまわない）までの助成を受けることができた．のちに（2009 年 2 月）岐阜市都市景観賞まちづくり部門奨励賞を受けている．また,県が主催する 2009 年度の「美しいひだ・みの景観づくり賞」の優秀賞を，2015 年には岐阜市の市民参画賞を受けている．

加納西校下では 1972 年に「加納西の街づくり」を発行しているが，交通安全への対策が掲げられていた．前記と同じちょうど同じ 2003 年には「加納みち再生事業」も岐阜県道路維持課の事業として始まっている．同年の東側の意見交換会とも栄町通りを挟んで，一部，重なっていたこともあって，コンサルタントからの要望で富樫は両方の委員を引き受けた．

岐阜駅南口や，アピタ岐阜（現･メガドンキ），加納高校などの自動車，自転車などの交通問題への取り組みとして，みち再生事業ではワークショップや現地のまちあるき，全国の他の事例の視察などを行った．そのうち，加納西小学校の南側道路の交通規制（一方通行化）をめぐっては，住民の意見が分かれたが，徹底的な話し合いの上で「ここまで議論したのだからやってみましょう」と合意できた．

加納まちづくり会の初代会長の村瀬さんは，加納東の連合会長で，ご自宅にも案内看板を掲げられていた．二代目は加納東公民館の森島館長である．現在は水野会長，松尾事務局長で続けられている．中心メンバーは PTA の役員経験者が残ってくれており,コンサルタントや元行政職員,大学や高専,加納高校の教員も周辺からサポートしている．

図３　細江市長（当時）より景観形成市民団体の認定証を受けとる村瀬まちづくり会会長
（旧加納町役場の２階，2005 年 5 月 10 日）

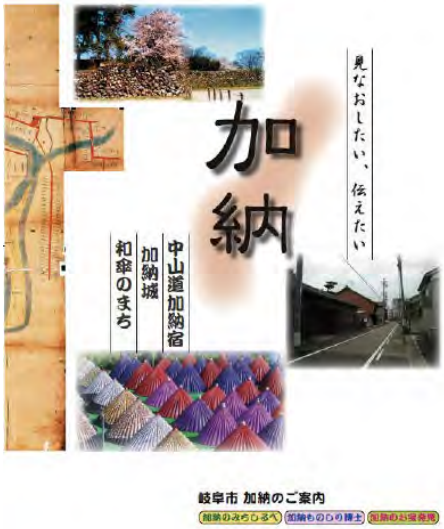


図４　見直したい，伝えたい加納
：中山道加納宿，加納城，和傘のまち（2006 年）

当時，岐阜県では県内の 5 つの圏域の地域振興局にテーマを与えており，岐阜地域振興局ではそれが「景観」であった．ぎふまちづくりセンターのメンバーでもある同振興局は，加納まちづくり会とも協議して，3/4 の助成と会の役員の負担金で「みなおしたい，伝えたい加納　中山道加納塾・加納城・和傘のまち」を作成した．岐阜市教育委員会社会教育課（当時），岐阜高専などの執筆協力も得ている．文化庁の助成金を申請して「加納草子」を 4 号，発行して，本丸南のボックスでも配布した．近所の方が，補充と配布数の確認を引き受けてくれている．

毎年，5 月の総会ではさまざまな講師を招いて記念講演が行われる．講師には記念に和傘を 1 本，贈呈するのか慣例となっている．加納西公民館での「加納学セミナー」も 2005 年と 2006 年に各 3 回，開催された．会報の「加納の風」の発行もしている．2005 年 11 月より，教育委員会，岐阜市にぎわいまち公社などとの「協働」で複数のプログラムを同一日に一斉開催する「加納の日！」を設けて続けられた．歴史的な町並みのまちづくりを学ぶ機会として日帰り圏内での「現地視察」もほぼ毎年（申し込みが少なかった時やコロナ禍を除いて）実施している．

図５　加納の日（2005 年 11 月 19 日）

図６　お花見ウォーク（2006 年 4 月 8 日）

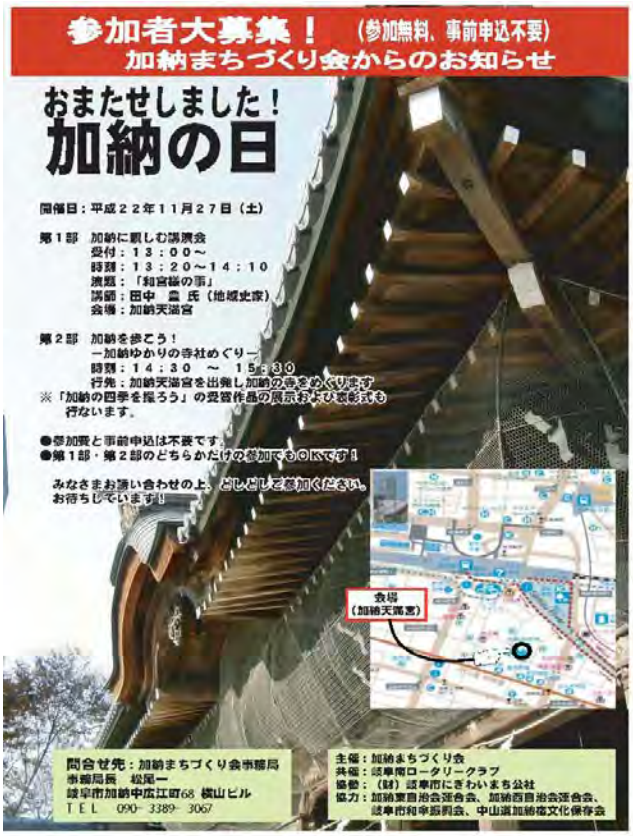


図７　加納の日（2010 年 11 月 17 日）

図８　加納の風 18 号（2014 年 3 月）

図９　加納の四季を撮ろう 写真展（2011 年 6 月）

図 10　中山道加納宿 燈火会（2011 年 8 月 13 日）

図 11　和傘教室（2010 年 7 月 3・4 日）

第４回　加納ものしり博士検定テスト

（下記の問題の正解と思われる記号に○を付けてください）

○応募方法：第４回加納ものしり博士検定テスト解答及び必要事項を本用紙に記入の上、下記宛で郵送・FAX でご応募いただくか、加納東・加納西の公民館にて回収いたします。
○応募先　：〒 500-8415　岐阜市加納中広江町 68 横山ビル　加納まちづくり会事務局　松尾　一宛
FAX　058-274-7197
○締め切り：平成 21 年 3 月 31 日
○結果発表：正解および成績優秀者は機関誌「加納の風」、まちづくり会HPに掲載します。公民館にも掲示いたします。

＜歩いてみよう加納の町－問題編＞

問１　加納城本丸跡の石垣内に設置されているベンチの数は全部でいくつ？
A:10脚　B:13脚　C:15脚　D:18脚

問２　加納幼稚園と加納小学校の間にある大イチョウの木がある小山は何と呼ばれているでしょう？
A:ひだまりの丘　B:聖なる森　C:思い出の森　D:加納冒険山

問３　加納を走るコミュニティバス「加納めぐりバス」のバス停ではないのはどれ(平成21年3月現在)？
A:旧加納町役場前　B:加納中通り　C:中山道・加納本町　D:穴釜墓地

問４　清水緑地公園の横を走る国道の東側植え込み内に据えられている碑は何の碑でしょう？
A:篝火の碑　B:聖火の碑　C:蛍火の碑　D:和傘の碑

問５　新荒田川にかかる加納大橋の欄干に飾られているレリーフは何をモチーフにしているでしょう？
A:鵜飼い　B:和傘　C:加納城　D:参勤交代

問６　加納桜道にある西川精肉店では揚げたての総菜が人気ですが、そのメニューにないものはどれ？
A:飛騨牛串カツ　B:ハムカツ　C:メンチカツ　D:コロッケ

問７　加納まちづくり会が今年度作成し大好評増刷中の加納の地図の名称はどれ？
A:加納ジョギングマップ　B:加納ウォーキングマップ　C:加納まちあるきマップ　D:加納城下町MAP

＜加納の名産－和傘問題編＞

問８　加納の名産品である和傘の轆轤（ロクロ）の部分に使われる木は何という木でしょう？
A:エゴの木　B:イチイの木　C:スギの木　D:ケヤキの木

問９　和傘の骨竹に用いられる竹は何月頃に伐採された物を使うとよいとされているでしょう？
A:１～２月頃　B:５～６月頃　C:８～９月頃　D:10～11月頃

問10　和傘は十数人の熟練職人の手を経て数ヶ月かけて作り上げられる物ですが、その工程を細かく分けると、いったいどれぐらいの工程に分けることが出来るでしょう？
A:約15工程　B:約50工程　C:約80工程　D:100工程以上

＜歴史問題編＞

問11　加納城城主の中で一番在任期間が長かった殿様は次のうち誰だったでしょう？
A:奥平信昌　B:松平光永　C:安藤信友　D:永井尚佐

問12　加納城の本丸と二の丸をつないでいた橋の名称は次のうちどれでしょう？
A:極楽橋　B:地獄橋　C:臆病橋　D:[illegible]

問13　加納宿が中山道の宿場に定められたのは何年だったでしょう？
A:慶長8年(1603)　B:元和元年(1615)　C:寛永11年(1634)　D:寛永14年(1637)

問14　初代加納藩主の奥平信昌が織田信長から「信」の一字を拝領したのは何の戦いの功績を認められたから？
A:長篠の戦い　B:桶狭間の戦い　C:関ヶ原の戦い　D:川中島の戦い

問15　加納出身の名士・平生釟三郎が日本経済使節団長として訪問したのはどこの国？
A:ドイツ　B:アメリカ合衆国　C:中国　D:ブラジル

＜寺社仏閣　＆　お祭り　－問題編＞

問16　加納天満宮・金刀比羅神社・猿田彦神社　この加納にある3つの神社の狛犬を全部合わせると何匹になる？
A:6匹　B:8匹　C:10匹　D:12匹

問17　加納天満宮拝殿の中に飾られている歌仙額は何枚ある？
A:36枚　B:40枚　C:42枚　D:44枚

問18　織田信長の朱印状や豊臣秀吉の朱印状など戦国時代の貴重な文書が残されているお寺は？
A:専福寺　B:善徳寺　C:光国寺　D:盛徳寺

問19　加納八幡神社の境内神社は全部で４社あります。秋葉神社・厚見稲荷神社・琴平神社ともう一つは？
A:津島神社　B:蚕神社　C:猿田彦神社　D:東照神社

問20　玉性院の節分つり込み祭りで投げられる福豆の一つの袋の中には何個の豆が入っている？
A:（ラッキー）７個　B:12（12ヶ月をまめに暮らせる）個　C:15（一期一会）個　D:29（フク）個

注：関係諸機関へ電話で回答を尋ねる等の行為はお控え下さいますようお願いいたします。

（ふりがな）氏　名		電　話	－　－
住　所	〒　－		

図 12　加納ものしり博士検定テスト（2009 年）

表 1　総会での記念講演，加納学セミナー，加納の日，景観まちづくり講演会など

2005	中井均（米原市教育委員会）「近世加納城とまちづくり」
	大野鵠士，山中マーガレット，高村義晴（加納学セミナー）
2006	瀬口哲夫（名古屋市立大学）「まちなみの上手な生かし方」
	西村學良「加納藩の下級武士の生き方」，高木智「指定管理」野村幸弘「加納の美をさぐる」（加納学セミナー）
2007	延藤安弘（愛知産業大学）「街の宝を活かすまちづくり～自然とこどもが育つまち　加納～」
2008	丸山幸太郎（岐阜女子大学）「加納の人物の生き方」
	林正子「岐阜文学散歩　川端康成の＜初恋＞を訪ねて」，筧真理子「信昌と亀姫」（加納の日）
2009	松田之利「加納宿と加納の商人」
2010	薮下浩「日本の和傘，そして加納の和傘」
	田中豊「和宮様の事」（加納の日）
2011	大野鵠士「『城と文学』～加納城を例にして～」
2012	柳田良造（岐阜市立女子短期大學）「まちなみや近代建築をいかしたまちづくり」
	恩田裕之「加納城跡の歴史に迫る～発掘 24 年の成果～」（加納の日）
2013	郷和彦・河口耕三（黒野城と加藤貞泰公研究会）「紙芝居『黒野のお殿さま」「黒野城の歴史」「研究会の活動」
	丸山幸太郎「徳川家康の長女亀姫と奥平信昌」（歴史講演会）
2014	望月良親（岐阜市歴史博物館）「江戸時代の加納城下町と岐阜町」
2015	高木洋（鏡島公民館長）「近世の町と村～加納と鏡島」
2016	久津輪雅（岐阜県立森林文化アカデミー）「日本の和傘を支えるエゴノキプロジェクト」
2017	出村嘉史（岐阜大学工学部）「景観とまち」
2018	富樫幸一（岐阜大学）「加納のまち」
2019	蒲勇介（NPO 法人 ORGAN）「和傘の魅力を伝える」
2021	望月良親，名畑恵「加納のかのうせい」（景観まちづくり講演会）
2022	加納高校地域研究部「岐阜大仏の謎に迫る」「近世岐阜町の材木商丹羽與三右衛門家の探究」
	石松丈佳「景観と人とデザインと」（景観まちづくり講演会）
	出村嘉史・吉成信夫（景観まちづくり講演会）

図 13　加納めぐりバス

図 14　中山道の歴史案内板，ワークショップやタウンウォッチング（2007 年）

図 15　加納町と岐阜市の合併 70 周年記念事業（2010 年 2 月 11 日）
加納東自治会連合会，加納西自治会連合会，加納まちづくり会，中山道加納宿文化保存会
南部コミュニティセンター

2004 年度の「金華山・長良川まるごと博物館構想」（国土交通省都市再生プロジェクト事業）に続いて，2005 年は「柳ケ瀬から加納まで」として，こちらに加納も参加している．

2005 年からは，岐阜市和傘振興会の協力による和傘教室，まちなかあるきのプログラムも主な事業である．2006 年 4 月には，和傘を差しながら，清水川や加納公園を歩く「お花見ウォーク」を行った．加納ものしり博士検定テスト（4 回）では，現地を訪問しないと回答が分からないユニークな問題集を作成している．

まちあるきでは「加納ジョッギング＆ウォーキング」（英訳も付けたマップ）を作成して，岐阜駅周辺のホテルに配布した．中山道をさらに彩ろうと，奈良公園の「 燈花会」にならって，「中山道加納宿 燈火会」（2011 年 8 月 13 日開催）で，ペットボトルを半分に切り，子供たちが描いた絵を巻いて，ロウソクを灯し，旧加納町役場前ではジャズコンサートを行った．なお，同様のライブは旧岐阜県庁舎前でも開催している（旧岐阜県庁舎をイカス会）．

「加納の四季を撮ろう！」は「秋・冬の部」と「春・夏の部」の２回，開催している．

徳川家康の長女で，初代城主の奥平信正の妻となる亀姫をモデルにして，イメージキャラクタを募集して，そのイラストをまちづくり会のシンボルにしている．加納の東西のまちづくり協議会の「中山道ふるさとまつり」（現在は中止）でも好評であった．

(3) 加納地域における自治会，まちづくり協議会などとの連携

岐阜市の景観整備事業の一環として，中山道各所への案内板の設置と，中山道の脱色アスファルト舗装としてほ世整備が実施された．東西自治会，保存会，まちづくり会と岐阜市景観まちづくり室の共催で説明会も開かれ，まちあるきや住民からの意見の募集に基づいて完成している（2008 年）．

加納西みち再生事業の結果，加納西小学校の南側道路では歩道の拡幅とハンプを設けて，小学生の交通安全を確保した．この取り組みは，京町や各所の「ゾーン 30」（自動車のスピードを 30km/h に制限）として広がっていく．

岐阜市では 2005 年に名鉄市内線と郊外線の廃止があったが，それに代わって市民の足として「コミュニティバス」の事業が市内各地に広がった．関係する連合自治会でコミバスの運営協議会を組織して，路線や運行を進めている．市内では，芥見東・南地区の「みどりっこバス」（芥見を参照）とともに，乗客数が多いのが「加納めぐりバス」である．岐阜駅南口から南下して，南部コミュニティセンター，メガドンキ，朝日大病院と巡回している．

なお，南部コミュニティセンターも，東西の加納と茜部，厚見が共同で指定管理を受けており，加納まちづくり会でも総会などのイベントで会場として使用している．

加納南ロータリークラブとの連携では，加納城の本丸南口への案内看板の設置と講演会の共同開催を行っている．2010 年は，岐阜市と加納町が合併して 70 周年記念にあたり，市歴史博物館に保存されていた直径 5m の「世界最大の和傘」を開いて，自治会，保存会，まちづくり会の全員の集合写真が撮られている．

旧加納町役場は日本の和洋建築をリードしていた武田吾一の設計で，1925 年に当時としては珍しい鉄筋鉄骨コンクリートの「イスパニア様式」のモダンな建物であった．1940 年に加納町は岐阜市と合併する．加納支所から，各種の団体が事務所を置いていたが，その立ち退き後，新たな活用を目指したところで，耐震性の調査を行ったところ，コンクリートが「ボロボロ」に傷んでいたことが判明した．調査結果について，セカンドオピニオンも専門家から求めたが，残念ながら無理ということになった．2015 年，ちょうど 90 年経ったところで，「さよなら旧加納町役場」のイベントを行って，解体，新築の作業に入っていた．2021 年に「中山道加納宿まちづくり交流センター」として再オープンする．

そこで岐阜加納ロータリークラブの強力な支援を受けて，東西のまちづくり協議会，中山道加納宿文化保存会，加納まちづくり会の 5 団体で「加納の歴史・文化継承プロジェクト」を立ち上げて，クラウドファンディングを行ない，加納ロータリー・国際ロータリーの資金的な支援を受けて，和傘の展示，鴬谷中学高校による加納城の模型づくり，動画作成，「加納まちづくり」の冊子，「加納の百年」（松尾一さん編集）による写真集の編集などを行っている．ロータリーや加納西公民館の人たちは，加納西みち再生事業を共にした人たちで，前向きで積極的は強力関係が元になっている．またクラウドファンディングでは，これも岐阜の特徴である蜂蜜会社などの地元企業からリターンで協力を得ることができた．

図 16　加納まちあるき（長良川おんぱく，2018 年 10 月 13 日）　　（同，2019 年 11 月 14 日）

図 17　旧加納町役場さよなら（2015 年 12 月 30 日）

図 18　中山道加納宿まちづくり交流センターの
クラウドファンディング（2020 年）

図 19　中山道加納宿まちづくり交流センター
鶯谷中学高校地域研究部による加納城の作成

図 20　加納の歴史景観講座（岐阜市福祉部）第 6 回
松尾さんと富樫「写真で見る加納の 100 年」
（2022 年 12 月 1 日，交流センターで）

(4) 加納の和傘

江戸時代後期に加納藩が藩政建て直しのために導入した和傘の生産は，一気に江戸などに出荷する大量生産体制へと移行した．問屋と分業体制下の職人，下級武士も兼業を担っていた．そのため，木地師（轆轤）の座も再編されたといわれる．全国各地に和傘の産地はあったが，美濃和紙の供給量を背景として，加納は全国一の産地となっていた．生産のピークは 1950 年頃で，その後は急速に洋傘に置き換えられて，日用品としての和傘の需要はなくなっていく．それでも残って，傘骨や轆轤を供給できたのは岐阜だけであった．

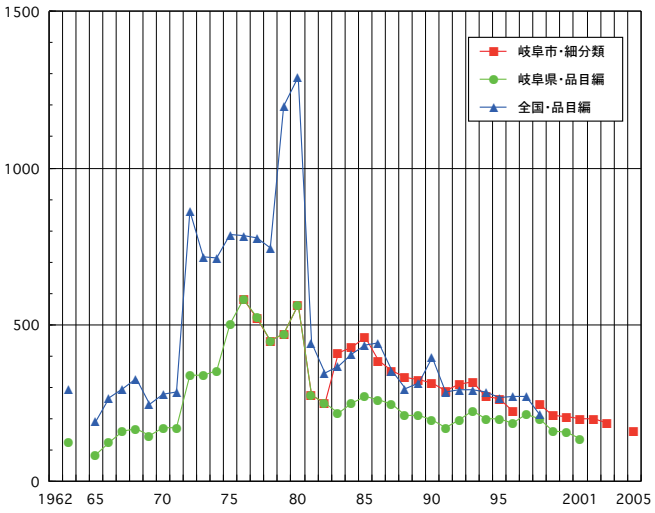


図 21　高度成長期以降の和傘生産の衰退
資料：工業統計調査

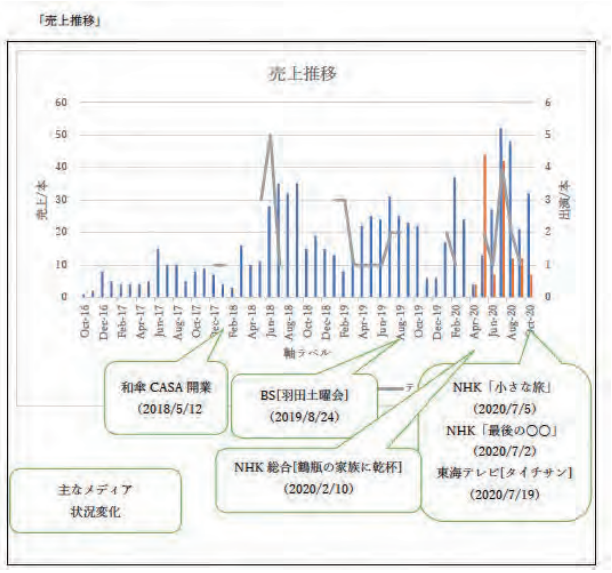


図 22　和傘 CASA の売上とメディアへの登場
資料：神野朱音（2021）岐阜和傘産業における新しい動き ―まちづくり，クラウドファンディング，SNS―

2003 年の岐阜大の加納地区での地域学実習の一つで，この和傘産業に注目した．その時点で，電話帳から確認できた事業所は 12 あったが，問い合わせた結果，岐阜和傘振興会として 5 軒，その他に 1 軒だけで，計 6 件の聞き取り調査を行なうことができた．需要の減少に対応して，1960 年代から飛騨や，さらに台湾，そして中国へと生産拠点を移していく．同時に，クリスマスツリーの代用品としてアメリカにも輸出されている．

しかし，1971 年のドル危機以降の円高のためにそれもできなくなって，残った和傘産業は歌舞伎や踊りなどの日本の伝統芸向けの生産と，各地の祭りなどの用途として残っただけであった．実は洋傘の生産も，今ではほとんど中国製となっている．

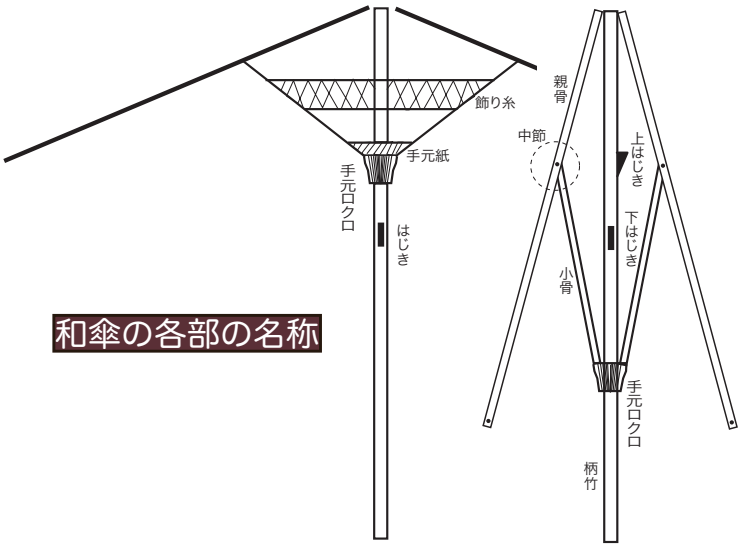


図 23　和傘の仕組み

図 24　輸出されていた和傘を使った商品
藤沢商店より

岐阜市歴史博物館でも毎年，市民向けの和傘教室が開かれており，またグラフィックデザイナーによる新たな作品作りもしばしば行われてきた．しかし，行政としての和傘の存続に向けた取り組みは行われていなかった．同時期に金沢市が職人産業の存続を図って，1 軒だけ残っていた和傘屋を継承するために，岐阜に技術を学ぶ取り組みを行なっていたのとは対照的である．岐阜市にはもう一つ，岐阜提灯があり，1951 年には日系二世のイサム・ノグチを川原町に招いて，世界的に知られるようになる「AKARI」が開発されている．

加納まちづくり会の立ち上げに当たって，岐阜和傘振興会も一緒に参加してもらって，毎年，こちらでも和傘教室を開催してきた．加納小学校の図工室や，歴史博物館を会場としている．いつも定員を上回る申し込みがあった．こちらには，金沢からいつも応援にきてもらっていたし，京都の小売店や伊那の喬木村の和傘伝承館・資料館から参加してもらっていて，全国的な交流の拠点の役割も果たしていた．毎年，職人さんたちとの交流の場となっていたのである．

実際に和傘の貼りに一度，挑戦してみたが，親骨に選んだ色の和紙をノリで貼っていって，余分なのり代を剃刀でカットするところなど，素人にはなかなかできない難しい作業で，職人さんたちから教えてもらうことがあった．また，傘を作成する台の作成にあたっては，明治安田生命から寄付を頂いている．

その後，女性の職人さんの参入があり，NPO 法人 ORGAN が川原町の町家のリノベーションで「和傘工房 CASA」をスタートしたことで，小売の拠点ができた．TV への出演や，ネット販売を通じて，新しい流通ルートが開拓される．さらに，一般社団法人岐阜和傘協会が発足して（2020 年）活動を拡げようとしている．

(5) 加納のまちづくりの特色

加納まちづくり会を中心として，20 年近くになる加納地域における多彩な活動を紹介してきた．その中からまちづくりのポイントとなっていることを考えてみる．

第一に，自治会とまちづくり協議会ではメンバーも重なっている．例えば，加納西みち再生事業で知りあった当時の PTA や公民館の人たちとは，加納まちづくり会で今でも一緒に活動している．T さんは交流センターの立ち上げの際の岐阜加納ロータリーと橋渡しをしてくれている．まちづくり会の役員の人たち自体が，加納の小学校や中学校，さらには加納高校の PTA や同窓会を経験した人たちであり，子育てが一段落した頃に，まちづくり会に参加してきてくれている．

第二に，かつては加納の人口が増えた時に，小学校は 2 つになったが，加納天満宮などの祭りでは一体になって執り行われてきた．中止されることになったが，岐阜駅南口の完成を祝って始められた「中山道ふるさとまつり」でも，東西のまちづくり協議会は一緒に取り組んでいた．コミュニティバスの運営も同様である．交流センターの運営協議会でも，東西のまちづくり協議会と中山道加納宿文化保存会，加納まちづくり会の 4 者は，いつも協力して関わっている．

第三に，まちづくりへの関わり方は，交通安全問題も早くからあったが，加納みち再生事業では，通常の「ロの字」の会議の方式ではなく，最初からワークショップを組み込んだ．支援してくれたコンサルタントも初めての経験のようであったが，岐阜県の担当部署と一緒になって柔軟に対応してくれた．意見の対立もあったが，説明にも住民自身によって提案されて，徹底的に話し合ったところで，小学校の校長先生が「これでやろう」といってまとめてくれた．

第 1 章の総合計画のワークショップの時でも，加納西の人たちはテーブルを囲んですぐに，自分たちで「地域の課題は高齢化」だとして，自発的に議論を始めてくれていた．みち再生事業での経験があったからこそだろう．

第四の加納らしさは，地元の学校とのつながりが強いことである．東西とも小学校と公民館は一緒の敷地，建物にあって，連携は取りやすい．岐阜大学教育学部附属小中学校（小中一貫の義務教育学校）でも，6 年生の地域学習から 7 年生（中学 1 年生）の柳ケ瀬や加納での地域課題探求型の学習に積極的である．加納高校も旧役場でのイベントでの協力や，高校の先生自身がまちづくり会のメンバー（顧問）に入ってくれていて，研修旅行やまちあるきにも生徒が参加してくれている．交流センターの加納城の模型は，元加納高校で鴬谷中学高校の K 先生が，地域研究部の生徒たちと作成してくれたものである．岐阜大学も地域学実習以来，和傘の調査やまちあるきでも加納との関わりを続けてきている．2023 年度からは，学校運営協議会の委員に富樫も参加する予定となっている．文教地区としての歴史を受け継いでいる加納ならではの特色と言えるだろう．マンションや戸建ての住宅が増えてきたことにも，教育環境の良さがあるからではないだろうか．

第五に，地元の住民としてだけではなく，岐阜南ロータリークラブ，岐阜加納ロータリークラブとの共同事業も続いてきた．交流センターの立ち上げの際のクラウドファンディングには，地元の蜂蜜やお菓子の会社がリターンで居力してくれている．まちあるきの時のお土産の定番は，サカエパンの「あんぱんちゃん」である．

第六に，まちあるきを通じて，周辺地域との連携も何度か行われている．長良川おんぱくでは，加納を中心としながら，南は土岐氏の革手居館跡，さらにはお鮨街道を通じて笠松まで，東は各務原市の中山道の間の宿である新・加納まちづくり会の坪内氏の居館跡での交流，西に向かっても中山道を三里，本荘と繋いで鏡島弘法まで歩いている．県も中山道 17 宿のスタンプラリーを実施していて，保存会が参加している．

加納でのまちづくりのやり方を，他の地域からも学ぶために，戦前の豊郷小学校の校舎の保存や，近江八幡，草津宿の見学，岩村，古川など，バスで日帰りができる範囲の視察旅行にも出かけている．

第七に，市や県との「協働」を通じて取り組んだ事業が多いことである．現在であれば岐阜市のまちづくり推進部の景観担当は，まちづくり会の役員会にいつも参加してくれている．交流センターの活用は，福祉部との連携による講座となっている．岐阜市にぎわいまち公社も，まちづくり推進部と一緒にサポートしてくれており，景観講座，まちづくりカレッジなどを加納で開催してくれてきた．旧教育委員会の社会教育課（現在のぎふ魅力づくり推進部）も，加納城の発掘現場の公開や，講演会にも登場してくれている．岐阜市歴史博物館は 2023 年 3 月に「加納城」をテーマとした企画展を開くが，同時開催予定のまちあるきのイベントもまちづくり会との共催の予定である．こうした多様な関係が，相互の理解と共同の取り組みとなっているところに，共催ではなく「協働」を用いている精神がくみ取れる．

（富樫幸一）

6. よみがえれ黒野城：ふるさとのまちづくり市民活動

(1) 黒野城について

岐阜市北西部の黒野は，伊自良川と板屋川に囲まれた輪中地帯．現在，岐阜大学，岐阜薬科大学や平成医療短期大学及び岐阜大学病院があり学術と医療の拠点になっており，2024 年度（令和 6 年）に，東海環状自動車道路のインターチェンジが開通予定の地域です．

ここには今から 413 年前に廃城になった 4 万石の黒野城跡があり，黒野のシンボルになっています．岐阜市内には，城とか城跡に関係する地名が約 88 ヶ所もあるそうです．城跡の遺構が残り史跡に指定されているのは，岐阜城，加納城，長山城と黒野城の 4 つです．

黒野城は岐阜城，加納城に次いで 3 番目の大きさの規模で，その遺構の本丸跡は，土塁と堀に囲まれ，黒野城跡公園として，子どもの遊具広場や少年野球やグランドゴルフのできる球技広場となっております．春には桜，菜の花，タンポポが咲く市民の憩いの場であります．

黒野城は，織豊時代末期の豊臣秀吉の時代，1594 年（文禄 3 年）～江戸時代初期の徳川家康の時代 1610 年（慶長 15 年）迄に存在していました．城下の家中屋敷は東西約 1000 m，南北約 600m で，南西側に町屋敷を設けていました．僅か 16 年間，城主加藤貞泰一代のお城でした．そのため城下町としての遺構や文献は殆ど残っていません．よって黒野城については地域の住民でも，いつ頃，誰のお城であったのか，城マニア以外は周知されていない状況でした．かつて，城藪，城跡と呼ばれて，第二次世界大戦の敗戦後，本丸跡は疎開者の畑に開墾され利用されていました．城や城主の歴史資料は 1987 年（昭和 62 年）自治会連合会発行の「岐阜市黒野史誌」記載事項が唯一のバイブルでありました．

他には専門家による黒野城跡の報告書などが見られる程度で，本格的に調査研究をした文献は見当たらない状況でありました．その後，伊予史談会双書「北藤録」,「大洲秘録」などに加藤氏一族について多くの記載がありました．

岐阜市黒野地域と黒野城下町エリア　Google Earth より

岐阜市史跡　黒野城跡　Goog Earth より

岐阜市史跡　黒野城跡

(2) 研究会発足

そのような状況の中，2010 年（平成 22 年），地域の歴史愛好者や市議会議員などが発起人となり，「知名度の低い黒野城及び城主加藤貞泰公にスポットライトをあて，郷土の誇りとして，保存とＰＲ活動を始めよう．」と，参加希望者の募集が開始されました．

そして、歴史好きの市民の他に、岐阜大学地域科学部の教授，市歴史博物館の学芸員の専門家にも指導をお願いし，16 名の会員で活動をスタートしました．会の名称は「黒野城と加藤貞泰公研究会」とし，研究会の目的，今後の活動について話し合いながら，ＰＲのため黒野公民館講座で「近世の黒野の歴史を知る」,「黒野城と加藤貞泰公を知ろうと！」と題した住民勉強会が 3 回開催されました．

同年 8 月に第 1 回の研究会が開催され，会員から積極的に資料提供や調査研究の情報が発表されました．

(3) 市民活動始める

第 6 回研究会の 2011 年（平成 23 年） 4 月，城跡で開催された岐阜大学留学生との交流会に協賛して、黒野城の概要について 5 カ国語に翻訳した資料を提供.

同年,「岐阜市市民活動支援事業」に初めて応募し，研究会の目的や会則など市民活動団体としての基盤を構築しました.

この年は 1 年間の調査研究活動成果を基に,「黒野城の歴史を発掘し、地域の未来へ繋げる事業」として以下の活動計画を発表しました.

1 黒野城の城郭推定図の作成
2 黒野城城下町のジオラマ作成
3 散策マップ「訪ねてみよう黒野城下町」の作成
4 黒野城跡に「黒野城」案内板の設置
5 公民館 歴史講座の開催
6 調査研究「大洲市立博物館」訪問
7 研究内容の広報

そして，市民活動支援事業に初挑戦で初採択されました.

第 7 回研究会では，黒野城の古図を元に本丸跡の簡易測量や城下町絵図などから城郭の推定復元図を発表.

第 8 回研究会では，会員の調査にて城主の父、加藤光泰一周忌の位牌発見の報告．黒野城下町ジオラマ製作公開.

第 10 回研究会では，黒野全域の歴史文化の遺構や神社，寺院，地蔵など調査.

2011 年 12 月に「広報ぎふ」に黒野城と加藤貞泰が紹介されました.

第 12 回研究会では、2012 年（平成 24 年）1 月,「訪ねてみよう黒野城下町」マップ 5000 部発行し，黒野自治会全戸 3500 戸に配布．黒野城跡に「黒野城」案内板設置.

このような市民活動を認められ，黒野自治会連合会から支援を頂くようになりました.

以後，2 年間継続して岐阜市市民活動支援事業に応募し採択され，市民活動の基盤もでき，成果も得るようになりました.

また，2013 年（平成 25 年）から岐阜市による城跡の発掘調査も行われるようになりました.

研究会は市民活動登録団体として発足 12 年になりました．この間の主な活動資金は，会費の他に「岐阜市市民活動支援事業」や地域の団体，企業約 20 社などの支援金，ご協力金で運営しています．また，ぎふ農業協同組合の地域活動支援基金などの援助も頂き運営してきました.

尚，研究会員はその後増加して，現在 35 名．黒野校区の会員はその内 2/3 となっています.

(4) 黒野まちづくり協議会誕生

2013 年（平成 25 年）に黒野自治会連合会に「黒野まちづくり協議会」準備会がスタートし, 2014 年（平成 26 年）発足しました.

「黒野まちづくり協議会」は，事業計画に 3 つの専門部会があります.

1.「安心・安全・防災部会」
2.「福祉・教育部会」
3.「文化・歴史・スポーツ部会」

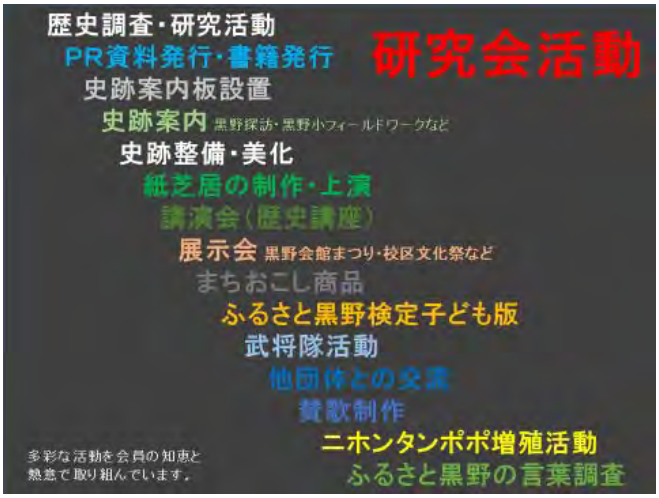
会長は黒野自治会連合会の会長が，各部会長は連合会の副会長が就任，所属団体（黒野白寿会連合会の会長・民生児童委員協議会の会長・黒野公民館の館長・黒野青少年育成市民会議の会長・黒野城と加藤貞泰公研究会の会長）が副会長に任命され，会計に黒野自治会連合会会計などで組織が作られました.

現在は，4 つ目の専門部会である「IC 周辺まちづくり整備部会」が発足しました．また所属団体に体育振興会の会長が加わりました.

この文化・歴史・スポーツ部会に黒野城と加藤貞泰公研究会が，まちづくり協議会の一員として主催行事に参加，協力しております．以後毎年,「黒野まちづくり協議会」主催の市民対象「黒野歴史探訪」を企画・運営し，黒野校

区を７つの歴史探訪コースに分けて，毎年１回，史跡めぐりを行い，郷土の歴史文化を伝承する担い手として案内役を務めています．但し，コロナ禍で令和２年，３年度の２年間は中止となりましたが４年度から復活しております．

（5）多彩な市民活動の実績



研究会活動の実施時期

No.	活動項目 ＼ 年度	2011 平成23	2012 平成24	2013 平成25	2014 平成26	2015 平成27	2016 平成28	2017 平成29	2018 平成30	2019 平成31/令和1	2020 令和2	2021 令和3	2022 令和4
1	歴史調査・研究活動	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2	ＰＲ資料発行・書籍発行	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
3	史跡案内板設置	○	○	○		○	○	○	○	○		○	○
4	史跡案内	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
5	史跡整備・美化	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
6	紙芝居の制作（上演除く）		○	○			○		○				○
7	講演会（歴史講座）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
8	展示会	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○
9	まちおこし商品（開発）		○										
10	ふるさと黒野検定子ども版			○	○	○	○	○	○	○			
11	武将隊活動		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
12	他団体との交流		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
13	賛歌制作							○	○	○			
14	ニホンタンポポ増殖活動											○	○
15	ふるさと黒野の言葉調査											○	○

以下に，12 年間に実施してきた地域のまちづくりに関係する活動を紹介します．

活動は，個人による調査研究とそれぞれのテーマに興味や関心のある会員を募り，小委員会の部会を作り，ここで練り上げていく方法で活動しています．部会などの主な活動拠点は，黒野会館と市民活動交流センターです．

調査研究，研究会会合，イベントなどで発行，配布する資料類の印刷は，「みんなの森　ぎふメディアコスモス」内の市民活動交流センター「つくるスタジオ」の施設を利用しています．ここでは，モノクロ印刷，カラー印刷及びパネル印刷の作業を行っています．私達研究会の市民活動に，大変重要で便利な施設エリアです．

1）歴史調査・研究活動

・黒野城本丸の地形，城下町の地形調査図面化．
・ジオラマ製作．
・城主や一族の系図など調査・研究．
・黒野城の歴史と城主の業績調査．
・郷土の歴史文化や偉人調査．
・旧家に残る古文書の調査．
・調査研究の成果や情報は，２か月毎に開催の研究会で発表．

2）PR 資料発行・書籍発行

・「黒野城」リーフレット初版，第２版，第３版発行．
・「訪ねてみよう黒野城下町」マップ初版，第２版発行．
・研究文献発表・書籍発行の実績

「黒野城本丸の研究」，「加藤光泰貞泰軍功記・曹渓院行状記の語釈付文献」，「小川市はどこのあったのか　小川市に関すること」，初版「黒野城主加藤左衛門尉貞泰 関ヶ原合戦の史料研究」，「加藤貞泰公の生誕地調査　生国は濃州岐阜橋詰」，「ふるさと黒野検定子ども版 100 問百答」，「正木坊から黒野別院へ」，「三ツ又を詠んだ俳句 芭蕉・神山寸木連句碑調査研究」，第２版「黒野城主加藤左衛門尉貞泰 関ヶ原合戦の史料研究」，「郷純造・誠之助父子資料集」，「ふるさと黒野の言葉 350 選」及び「紙芝居全６作の冊子」．

3）史跡案内板設置

・黒野城跡及び城下町を中心に 28 箇所に大小案内板・表示板設置．この中には「関ヶ原町古戦場跡の電柱看板」，

黒野城跡南側土塁に大型看板「黒・野・城・跡」も含みます.

また案内板の他に黒野城跡に「城主の家紋付のぼり旗」を設置.

4）史跡案内

来訪者を迎え，喜んでいただけるように，できる限りのもてなしで説明や案内に務め，交流を深めております．案内人の生きがいにもなっています.

・市内外の各種団体や個人からの要望や要請案内.

・長良川おんぱくの開催案内（有料案内で地域の梨や柿を提供）.

・定例行事，黒野小 6 年生土曜社会学習のフィールドワーク.

・定例行事，黒野まちづくり協議会主催「黒野歴史探訪」企画案内.

5）史跡整備・美化

・史跡など案内コースを定期的に草刈り，竹藪伐採，ゴミ拾い.

・黒野城跡に研究会活動の情報板を設置し，活動行事や情報を掲示.

・市公園整備課及び市文化財保護課と連携と情報交換.

6）紙芝居の制作・上演

・紙芝居は不特定多数の市民に郷土の歴史文化を分かりやすく伝え，伝承することを目的で制作.

・子供達との協同制作は，将来を担う子供達の思い出に繋がる活動.

・第 1 作「黒野のお殿さま」（絵は黒野小 6 年生・岐阜大学学生と協同制作），第 2 作「お堀から出てきた観音さま」，第 3 作「小川市　大女と小女の力競べ」，第 4 作「関ヶ原」，第 5 作「尉殿堤」，第 6 作「於母ヶ池物語」（岐北中学校美術部と協同制作）.

・紙芝居の上演は地域のコミュニティセンター，黒野会館，自治会公民館，メディアコスモスなどで実践．紙芝居上演の前後に補足説明のミニ講演実施.

7）講演会（歴史講座）

・講座の目的に応じて，西部コミュニティセンターや黒野会館などで，地域の歴史や黒野城や城主などの歴史講演．紙芝居上演と併せて実施のケースもあります.

8）展示会

・毎年開催の黒野会館利用者団体による「黒野会館まつり」に調査研究の成果物やパネルを出展・説明.

・2 年毎に開催の「黒野校区文化祭」に出展展示と説明．合間に紙芝居上演も行う.

・会員の自宅提供による私設「二ノ丸資料館」を開設し，ジオラマなど多数の資料を展示.

9）まちおこし商品

・「黒野城弁当」や「しろのあんパン（白あん入）・くろのあんパン（黒あん入）」を開発.

・地元料理店，パン屋で販売.

10）ふるさと黒野検定子ども版

・将来を担う子ども達に郷土の歴史を学んでもらう目的で 100 問の問題を作り，黒野小 4 年、5 年，6 年の児童対象に郷土の歴史検定（三択方式選び）を実施し，3 月に優秀者表彰.

11）武将隊活動

・鎧兜の手作りグループから始まり，鎧兜手作り教室も開催.

・来訪者への歓迎や案内に活用．２年毎開催の自治会連合会主催の校区大運動会に仮装行列で参加，地域の代表者なども参加し武将隊行列は目玉イベントに.

・イベントの盛り上げに会員手作りの陣羽織，装備や旗等で参加．最近，陣笠 20 個製作，「黒野城武将隊」の旗製作.

12）他団体との交流

・岐阜市北西部近郊の歴史愛好家のみなさんが西郷歴史研究会・常磐歴史研究会・網代歴史研究会を発足させました．お互いの情報交換やイベントへの参加などの交流を深めています.

・城主の国替え先である愛媛県大洲市の大洲史談会との交流，加藤貞泰公顕彰碑の交換設置.

・その他県内外の歴史・文化の団体などと交流.

13）賛歌制作

・賛歌「あゝ黒野城下町」の制作を企画．会員による制作部会が作詞，地域在住の音楽家が作曲，歌は黒野小校長先生などで CD を 500 枚制作，配布．
その後，会員による撮影・編集の映像入り DVD を 1000 枚制作し自治会や図書館などに配布．定例研究会の前に唱和，講演会などで映像紹介．

14）ニホンタンポポ増殖活動

・西日本タンポポ調査委員会の文献に鳥取県米子城や愛媛県大洲城に分布するタンポポ （ニホンタンポポの一種であるトウカイタンポポ）は城主の国替え先に分布しているという情報から黒野城跡にニホンタンポポを増殖する活動を開始．

15）ふるさと黒野の言葉調査

・黒野地域で使われている，ことばや方言を調査した初版「ふるさと黒野の言葉 350 選」発行．令和 5 年 3 月には改訂版を発行．広く図書館や公共施設に配布．

(6) 活動の紹介

前記の活動項目毎に，活動内容の一部を紹介します．

1) 歴史調査・研究活動

◇ 黒野城や城下町全体の城郭調査

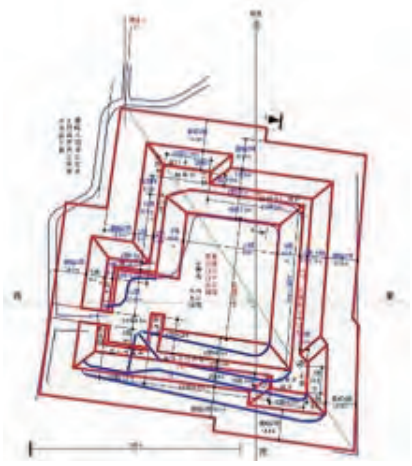
廃城 100 年後の 1710 年（宝永 7 年）に記録された「黒野古城本丸之図」や 1948 年（昭和 23 年）米軍撮影航空写真から簡易測量をして，本丸の推定復元図を作成．

また 1895 年(明治 28 年)作成の「黒野城下家中屋敷図」と 1890 年(明治 23 年)黒野村 8 ヵ村の内 5 ヵ村の村絵図を合成した地図を作成．この地図に 1609 年(慶長 14 年）の「加藤左衛門尉知行 黒野村家中屋敷」や「同じく町屋敷」の間口と奥行寸法から家臣団の屋敷を配置した推定図の作成により黒野城郭全体を推定した．新たに北東側に横矢の土塁と外堀跡の存在を発見し確認した．

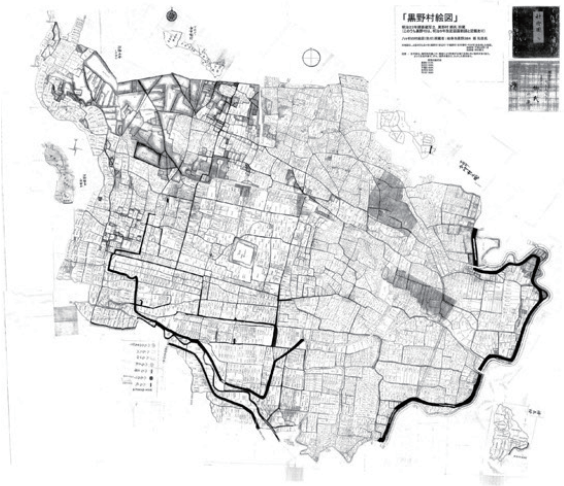
城郭は東西約 1000m，南北約 800m の大きさであり 4 万石の規模に感動を覚えました．

明治時代の地図に，東部は城郭の外土塁跡らしき痕跡も見られ，伊自良川の蛇行や低湿地の土地を堀り上げた堀田，交人輪中の地形も分かります．

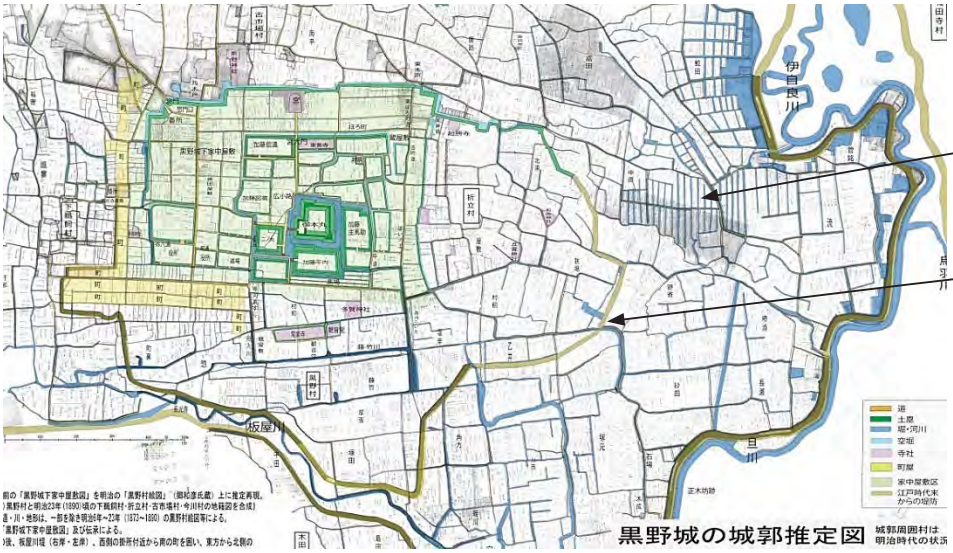
本丸推定復元図作成

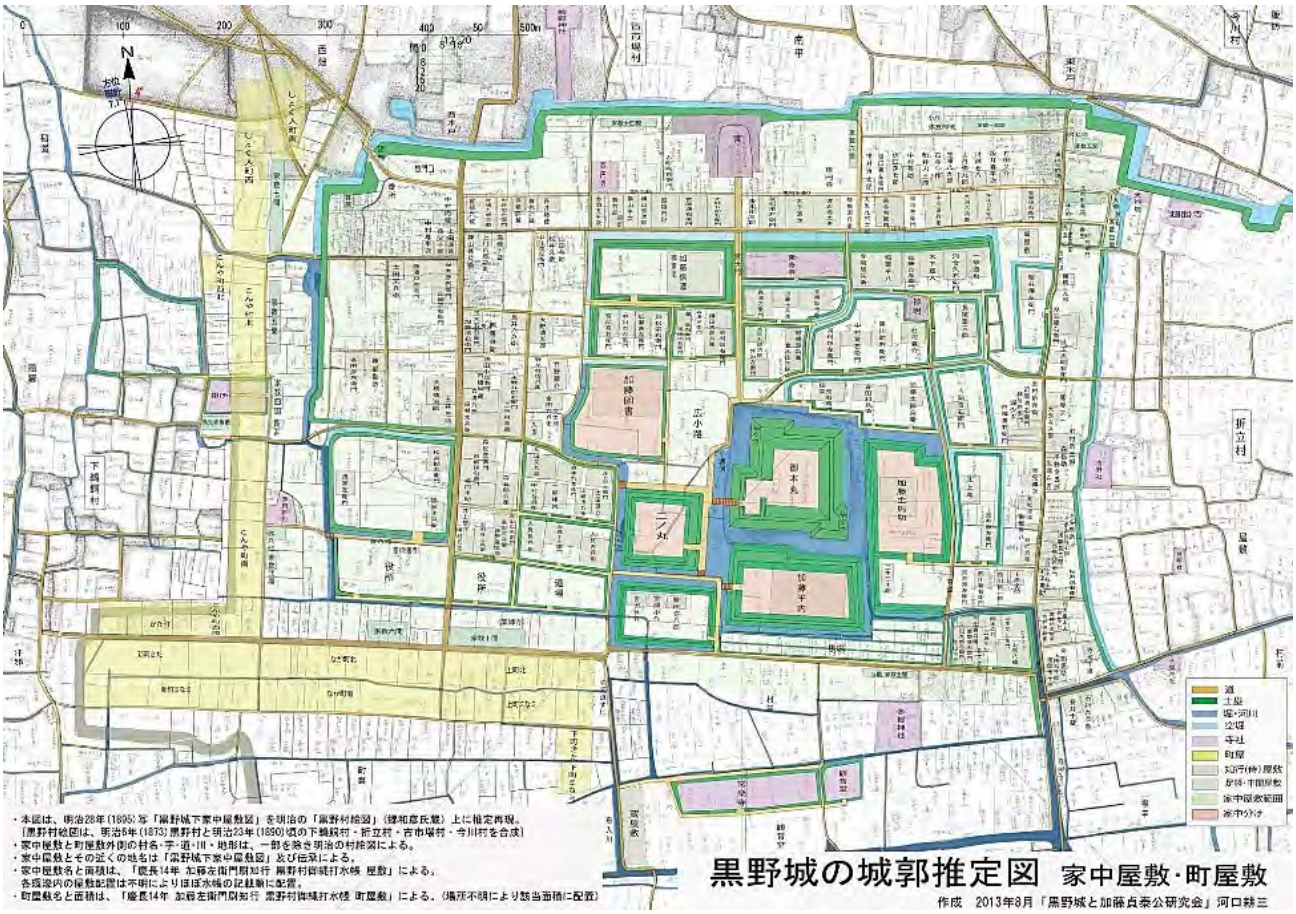


「黒野城下 家中屋敷図」
1895 年（明治 28 年）写し



明治時代初期の黒野村 5 ヵ村の村絵図を合成


堀田
東側に外郭と思われる
土塁遺構
伊自良川
板屋川
黒野城の城郭推定図
城郭周囲村は
明治時代の状況


黒野城の城郭推定図 家中屋敷・町屋敷
作成 2013年8月「黒野城と加藤貞泰公研究会」河口辰三

◇ 黒野城下町ジオラマ製作

「黒野史誌」に掲載されている「黒野城下 家中屋敷図」を参考にして，会員が製作 2011 年（平成 23 年）

大きさ　幅 3.1 m×奥行 1.8 m

◇ 古文書調査

地域の旧家に埋もれている古門書を調査．岐阜市歴史博物館の学芸員を講師に迎えて，目録作りを実施．史料は 1 史料毎に封筒保管・写真撮影してデータ保存．

調査文書

御望　　郷 光彦家
御望　　郷 隆雄（泰彦）家
御望　　郷 幸利家
古市場　宮部 幸一家
古市場　安田 芳樹家
黒野　　玉木 和廣家

目録・写真データ

古文書調査部会（黒野会館）2013 年

この中で玉木家には，黒野城主の「慶長検地帳」（加藤左衛門尉知行濃州方縣郡黒野村御縄打水帳，町屋敷）や「黒野城下 家中屋敷図」の原画など多数所蔵．新発見の古文書など城下町研究に最も貴重な史料であります．

又，御望の郷隆雄（泰彦）家には，幕末から明治にかけて，当家の郷余齊が写し残した日本の主な出来事の史料所蔵．ペリーが浦賀に上陸した「嘉永 6 年（1853）6 月 9 日，アメリカ国之書瀚御請取之節御固御人数並陣立之図」や日本領土であった「1864 年（弘化 3 年）5 月 2 日，松前領エトロフ漂着 7 人の件」，「桜田実録」，「北阿亜墨利加　合衆国伯理璽・天徳書翰和解」など，地域の歴史ではなく，日本史に関する貴重な史料の写しが多数所蔵されていたことが判明しました．

◇加藤貞泰生誕地調査

今まで，貞泰の出生地は近江国磯野村（現長浜市高月町）が定説でした．研究会員が高野山で嫡男泰興造立の判読困難な墓碑を指でなぞって「岐阜橋詰」の文字に触れたという報告から，後日，他の会員 4 名で現地入りし墓標を水洗いしたところ「生国濃州岐阜橋詰」と刻まれていて驚きました．江州説が覆る瞬間でした．

岐阜橋詰は，岐阜市役所の南東あたりで光泰の屋敷がありました．

高野山　加藤家墓所

2）ＰＲ資料発行・書籍発行

◇「黒野城」リーフレット発行（B4 版・両面）

初版（8000 部），改訂第 2 版（8000 部），改訂第 3 版（5000 部）を発行，訪問者や図書館，講演会などで配布して黒野城の歴史を伝える資料.

初版～第 3 版

◇「訪ねてよう黒野城下町」発行（A2 版）

史跡を地図上に表示したマップで，城主ゆかりの名所や現在の遺構が分かりやすく表示．来訪者，図書館などに配布．初版（5000 部），改訂第 2 版（7000 部）発行.

初版　　第 2 版

◇研究文献発表・書籍発行の実績

・それぞれの発行部数は少ないが調査研究の成果物として後世に残すことができました．書籍は図書館や黒野会館などに寄贈.

・紙芝居６作の絵とシナリオの冊子（B5 版）

3）史跡案内板設置

［2021 年（令和３年），2022 年（令和４年）度の案内板実績］

㉗「郷純造・誠之助父子」案内板除幕式

㉘大型看板設置除幕式

㉙「黒野城に咲くたんぽぽの物語」案内板

㉘大型看板設置

4）史跡案内

・多くの活動の中でも，史跡の案内は，史跡の知識と説明力が求められる．初めての人との接触や会話も多く，やりがいのある活動でもあります．

・小学生の案内は，将来を担う子供たちに郷土ふるさとの歴史を少しでも知ってもらうことを念頭において案内．

・校区住民対象の「黒野歴史探訪」，黒野まちづくり協議会が主催．研究会は企画と案内役，定員 50 名，校区自治会回覧で募集案内し，年 1 回開催．約 4 時間で黒野校区（一部西郷校区小野を含む）を巡る 7 コースに分けて順次探訪．

1 黒野城下町 1 コース
2 黒野城下町 2 コース，
3 折立・三又コース
4 古市場・今川・交人コース
5 洞コース
6 下鵜飼・小野コース
7 御望コース

［2022 年（令和 4 年）度の案内実績］

◇黒野歴史探訪

NEXCO 中日本から東海環状自動車道御望トンネル工事状況を説明

◇黒野小学校６年生　土曜学習　フィールドワーク

◇長良川文化フォーラム一行来訪案内

◇2013 年（平成 25 年）～ 2019 年（令和元年）の間に「長良川おんぱく」を 7 回企画運営

岐阜大学地域科学部の女子大生とコラボして地産の梨や柿を振る舞い，有料案内を実施.

5）史跡整備・美化

［2021 年（令和 3 年）、2022 年（令和 4 年）度の史跡整備実績］

◇黒野城跡復元土塁に大型看板設置工事　（JA ぎふ地域活動基金）　2021 年（令和 3 年）

◇城主家紋入りのぼり旗設置（JA ぎふ地域活動基金　旗製作：吉田旗店）

◇城下町北東側土塁跡の草刈り

◇美化活動

6）紙芝居の制作・上演

黒野地域の歴史文化を対象に約 1300 年前の逸話～約 200 年前のため池造りまで，歴史上の出来事を創作して全 6 作の紙芝居を制作・上演.

［2022 年（令和 4 年）度の上演実績］

◇ぎふメディアコスモス　みんなの森に大集合！「尉殿堤」上演

◇**黒野公民館講座**　初の紙芝居 2 本立て上演「尉殿堤」と「お堀から出てきた観音さま」

◇**「於母ヶ池物語」発表会**　西部コミュニティセンター

感謝状贈呈　　協同制作の岐北中学校美術部３年生と先生

◇ **常磐公民館講座**「於母ヶ池物語」（常磐小学校３年生，続けて一般に上演）

◇ その他 2022 年（令和 4 年）度 上演

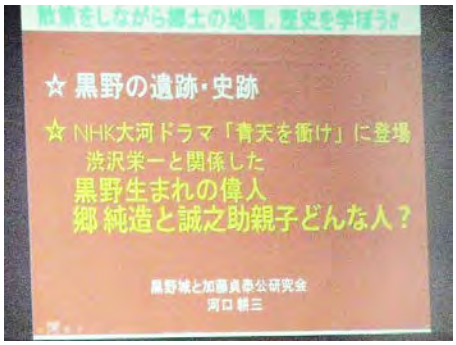
・今川公民館　今川自治会主催「敬老のつどい」の余興に「尉殿堤」上演

・もんじゅ CHIE くらぶ主催 本巣市樽見鉄道北方真桑駅構内「駅舎で音楽会」会場にて「お堀から出てきた観音さま」上演

・洞公民館　洞自治会主催「於母ヶ池物語」上演

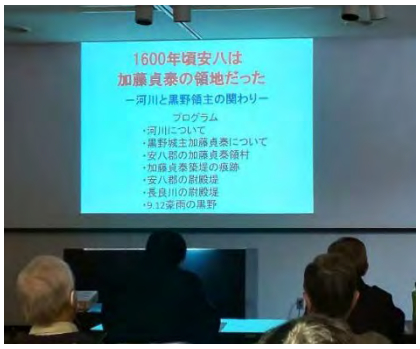
7）講演会（歴史講座）

◇**黒野白寿会連合会の福祉大会で講演**「郷土の地理，歴史を学ぼう」2021 年（令和３年）



◇**長良川文化フォーラム主催**　安八町「安八は加藤貞泰の領地だった」

河川と黒野領主の関わり講演　2020 年（令和２年）



◇**岐阜市まちづくりサポートセンター主催**

まちサポート 2021（メディアコスモス）「城跡を活かしたまちづくり活動」「黒野城と加藤貞泰公みんなで盛り上げる」

8）**展示会**

［2022 年（令和 4 年）度の展示会］

◇**「黒野会館まつり」「紙芝居の世界」**展示

◇**「校区文化祭」**出展（会場：黒野小学校体育館）「紙芝居の世界」と「活動状況」展示

・紙芝居「お堀から出てきた観音さま」を 4 回上演

◇**私設「二ノ丸資料館」**（無料）

会員が開設する資料館，ジオラマなど加藤貞泰や黒野城，大洲城などの資料を展示．来訪者や城下町案内コースの一つであります．

9）まちおこし商品

製造販売中

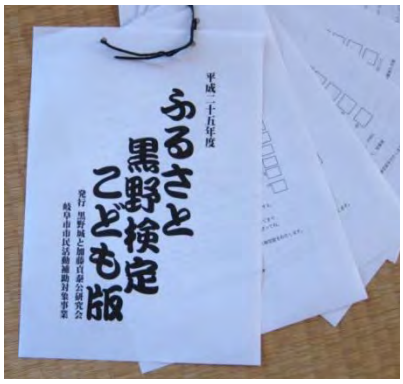
10）ふるさと黒野検定子ども版

校区の子供達にふるさとの歴史を知ってもらい，すばらしい郷土の文化や歴史を通して，郷土を愛する心と誇りを抱いてもらうことを目的に活動.

・実施対象は黒野小学校 4 年生，5 年生，6 年生全員.

Q&A 方式の設問用紙を先生から配布して頂き，子供達は家に持ち帰り回答し，回収箱に入れる.

当初は 1 回 10 問，10 回 100 問実施.



第１回 「ふるさと黒野検定子ども版」

次の問1～問１０について､正しいと思う番号（１～３）を□に書いてください。

問１ 黒野にやってきたお殿さまは、次のどの人ですか？
1. 豊臣秀吉　2. 斎藤道三　3. 加藤貞泰　1 □

問２ 黒野のお殿様の家紋は、次のどれですか？
1. ○（丸紋）　2. △（三角紋）　3. ◎（蛇の目紋）　2 □

問３ お殿様が黒野に、来られたのは、次のどれですか？
1. ９歳　2. １５歳　3. ２５歳　3 □

問４ お殿さまのお父さんの名前は、次のどの人ですか？
1. 加藤清正　2. 加藤嘉明　3. 加藤光泰　4 □

問５ お殿さまが黒野に居られたのは、次のどれですか？
1. ６年間　2. １６年間　3. ２６年間　5 □

問６ 黒野城にあった櫓（やぐら）の数は、次のどれですか？
1. 一つ　2. 二つ　3. 三つ　6 □

問７ 昔あった黒野城本丸の入り口は、次のどれですか？
1. 一つ　2. 二つ　3. 三つ　7 □

問８ 黒野城主 加藤貞泰公の石高は､次のどれですか？
1. 4万石　2. 6万石　3. 10万石　8 □

問９ お堀から出てきた網掛観音は、次のどこに安置されていますか？
1. 観音堂（下之町）　2. 七面堂（今川）　3. 釈迦堂（古町）　9 □

問１０ 貞泰公が黒野に来られたのは、次のどの国からですか？
1. 三河国（愛知）　2. 大和国（奈良）　3. 甲斐国（山梨）　10 □

・実施時期は 6月～ 12 月
・年度末に成績表彰
・検定は 2013 年（平成 25 年）～ 2019 年（令和元年）に 7 回実施.
・事業成果　子供達が地域の歴史文化を学び，郷土知識の向上と郷土愛が向上したものと思われます.
　将来のこども達に向けて，郷土歴史文化を未来に繋がることが出来ました.

11）武将隊活動

　城下町案内，来訪者対応，自治会主催校区運動会の仮装行列などに市民とともに参加.
鎧兜は黒野会館で手作り教室を一時開催．旗なども製作.

校区運動会の仮装行列に参加した市民と武将隊
2019 年（令和元年）黒野小グラウンド

2017 年（平成 29 年）黒野城跡
イルミネーション実行委員会主催

12）他団体との交流

◇ 大洲史談会

・城主の国替え先である愛媛県大洲市の「大洲史談会」と交流し，来訪や訪問で双方に城主加藤貞泰公の顕彰碑を建立.
・黒野城に来訪（顕彰碑除幕）
・大洲市大洲城を訪問し交流

初の来訪 2012 年（平成 24 年）黒野城跡にて歓迎会

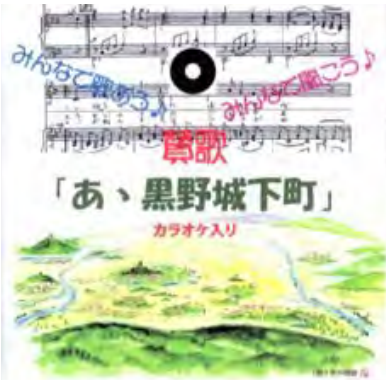
2013 年（平成 25 年）大洲城にて歓迎セレモニー

2017 年（平成 29 年）
「大洲城加藤貞泰入部 400 年記念行事」
に研究会から貞泰公顕彰碑寄贈除幕式

◇「みんなの森 ぎふメディアコスモス」市民活動交流センター
　活動成果のパネル展示や紙芝居などで参加活動
◇ 県庁の関ケ原古戦場整備推進課．関ケ原町役場
◇ 竹中半兵衛重治顕彰会・岩手の歴史を守る会
◇ 揖斐郡「池田町郷土史の会」
◇東海古城研究会
◇ 近隣の歴史文化を研究する市民団体
「西郷歴史研究会」,「常磐歴史研究会」,「綱代歴史研究会」が最近発足し，交流活動．
◇「文殊山の会」 地域の山散策や史跡散策案内活動．

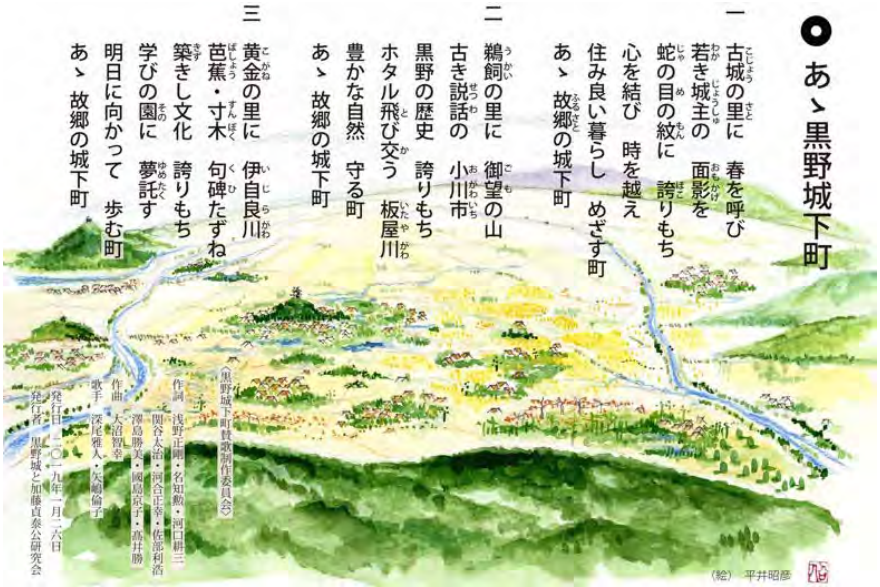
13）賛歌制作

・定例の研究会において，会の初めに会の歌として替え歌で唱和していましたが，オリジナルの曲の歌があるとよいとなり，有志で作詞部会ができました．賛歌「あゝ黒野城下町」の歌詞が完成，曲は地元の音楽家にお願いし完成，歌は地元の男性で相応しい人を探していると，歌が得意な黒野小学校の校長先生の名が上がりお願いしました．女性は市内在住のソプラノ歌手に決まり，歌の吹き込みを西部コミュニティセンターで録音．賛歌ができあがりました．歌入りとカラオケのＣＤ版を 500 枚制作．黒野会館で 2019 年（平成 31 年）1 月に発表会を開催．ふるさとの歌に大変感動したと好評でありました．当時の自治会長などに配布しました．
・その曲で岐阜大学医学部看護学科の学生が健康体操を工夫しました．黒野会館の体操クラブでも曲を利用しプログラムに利用されるようになりました．
・その後，映像入りのＤＶＤが望まれ，歌詞に出てくる郷土の風景などを会員の手で撮影・編集．空撮のみドローンの専門家で撮影し，ＤＶＤを 1000 枚制作．研究会創立 10 周年記念として 2020 年（令和２年）９月発行，関係団体や希望者に配布しています．



賛歌「あゝ黒野城下町」
ＣＤケース

賛歌「あゝ黒野城下町」DVD ケース



14) ニホンタンポポ増殖活動

黒野城に咲くタンポポが遠く離れた，黒野城主の国替え先である，米子城や大洲城周辺で今も咲いていることから，黒野城を「タンポポ城」とする運動を展開中です．

タンポポ説明板（黒野城跡）

会員の手作りタンポポ花粉入り土団子（種団子）

南側土塁に種団子まき
来年，咲くのが楽しみです

黒野小学校６年生児童にタンポポの説明会と種団子まき大会

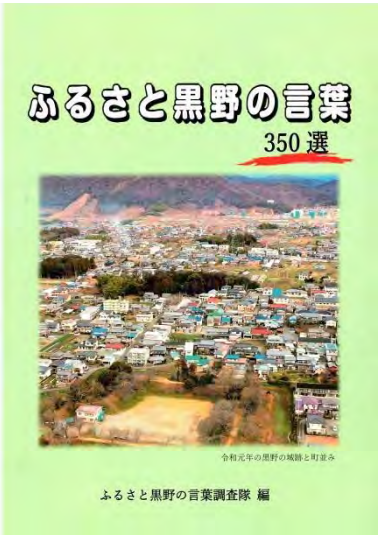
15) ふるさと黒野の言葉調査

◇会員有志が立ち上げた「ふるさと黒野の言葉調査隊」が地域で使われる方言や言葉を調査して 350 種の言葉にまとめた冊子を発行

［2022 年（令和 4 年）3 月］

◇引き続き，小中学生，親世代，祖父母の 3 世代の認知と使用状況調査や，むかしの遊びや道具や黒野の歴史・地理を解説した改訂版発行

［2023 年（令和 5 年）3 月予定］



(7) 研究会の会則と組織役員

黒野城と加藤貞泰公研究会会則

（名　称）
第１条　本会は、「黒野城と加藤貞泰公研究会」と称する。
（事務局）
第２条　本会は、事務局を事務局長の居宅に置く。
（目　的）
第３条　本会は会員相互の親睦を図り、黒野城及び城下町の歴史と、城主加藤貞泰公の功績を研究し、その成果を地域住民に広報し、郷土への誇りを高め、地域の未来づくりに寄与することを目的とする。
（事　業）
第４条　本会は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。
① 郷土の歴史を発掘し、地域の未来への発展を図る。
② 会員の互助親睦を図る。
③ その他、本会の目的達成に必要なこと。
（役　員）
第５条　本会は、次の役員を置く。

① 会　長	１名	本会を代表し、会務を総括する。
② 副会長	１～２名	会長を補佐し、本会の運営を司り、会長に事故あ時は、その職務を代行する。
③ 幹　事	若干名	本会の運営に関与し、推進的役割を行う。
④ 顧　問	若干名	会務の円滑な運営を図る。
⑤ 事務局長・会計	２名	会務の執行を補佐し、会計を行う。兼務を妨げない。必要に応じ補助を置くことができる。
⑥ 監　査	１名	会計を監査する。
⑦ 相談役	若干名	

（役員の選出）
第６条　役員は、会員の互選により選出する。
（役員の任期）
第７条　役員の任期は、２年とし、再任を妨げない。
（会　議）
第８条　定期会議は、原則として２か月に１回開催することとし、研究会の運営、役員の決定等を行う。
（会　計）
第９条　本会の経費は、会費及びその他の収入をもって充てる。
（会　費）
第10条 本会の会費は、年会費３，０００円及び資料代３，０００円（一回の資料代５００円）とする。また、臨時に会費を徴収する必要がある場合は、定期会議の決定を経て徴収することができる。
ただし、新入会員については、加入年度に限り年会費を免除する。
（会計年度）
第11条 本会の会計年度は、４月１日に始まり３月３１日に終わる。
（決算報告）
第12条 決算は、会計年度終了後２か月以内に監査を経て会員に報告する。
（入　会）
第13条　本会に入会しようとする者は、会長に届け出なければならない。
（退　会）
第14条　本会を退会しようとする者は、会長に届け出なければならない。

（委　任）
第15条　本会則に定めるもののほか、必要な事項は細則で定める。
（付　則）
第16条　本会則は、平成２４年４月１日から施行する。

改訂　平成２８年４月１０日
改訂　平成２９年１月２３日
改訂　平成３０年１月２０日
改訂　令和　２年１月１８日

令和4年・5年度　黒野城と加藤貞泰公研究会　役員

会　長	河口 耕三
副会長	関谷 太治、 髙井 勝
幹事長	信田 朝次
幹　事	名知勲、浅野 正剛、松井 直樹、河島 勝 中村 芳樹、玉木和廣
事務局長	戸川 文男
事務局	篠田 哲郎(会報)
会　計	戸川 文男
監　査	澤島 勝美
顧　問	郷 孝夫、富樫 幸一、平野 恭子、黒田 育宏
アドバイザー	高橋 方紀
相談役	筧 真理子、内堀 信雄

(8) まとめ

地域の歴史文化のシンボルである黒野城と城主を調べようとスタートした研究会は，調査研究の成果物を基に，地域の市民に周知して頂くことを目的に活動して 12 年になりました．郷土愛に溢れる会員の熱意と努力で一つの市民活動が二つ，三つと波紋のように拡大して，多くの事業を手掛けることができました．

特に将来を担う子供達との紙芝居協同制作，ふるさと黒野子供検定や郷土の社会学習フィールドワーク史跡案内は，担当した研究会員には忘れることのできない活動として残ることでしょう．これらを体験した子供達には，ふるさと愛が育まれることを期待しています．

遠く離れた県内外の方々から，先祖の系図に黒野城主の加藤貞泰に仕えていました．調べて欲しいと来訪され案内し，大変感動されました．400 年以上前に国替えでやって来て，16 年間過ごし，また国替えで移動した人たちが住んで居たことを想うと研究活動の冥利に尽きます．

市民活動が認められて，2014 年（平成 26 年）1 月，平成 25 年度の岐阜市景観賞「まちづくり活動部門で景観賞」を受賞しました．2018 年（平成 30 年）10 月に平成 30 年度市民参画賞（団体の部）を受賞，また，2020 年（令和 2 年）2 月，ぎふまちづくり「改善」大賞実行委員会から大賞を受賞しました．

12 年間の活動において，新聞掲載 152 件，市広報掲載 8 件，ホームニュース 55 件，地域ニュース 32 件，情報誌 19 件，TV 放送 8 件，ラジオ放送 2 件が広報され，黒野城と城主や研究会の認知度が高くなりました．

研究会の 12 年の活動の歩みと市民活動を紹介してきましたが，最近の動きと今後の計画について紹介します．

2 ヶ月に 1 回の定例研究会には，他所で活躍中の歴史研究団体の方や，これから地元で同様の研究会を立ち上げようという方も見学参加されています．自分の住む町を良く知ろうというシビックプライド活動の拡がりを喜んでいます．

今年 1 月，2 月の岐阜新聞県内版のコラム「素描」記事に研究会は 9 回の執筆を担当しました．

今年 3 月までに，城跡の公園内に地元中学美術部の生徒が描いたイラストの「顔はめパネル」を設置予定．また，今年 3 月末に「ふるさと黒野の言葉」第 2 弾を発行するなど，地域のシビックプライドの醸成に会員が手分けして当たっています．

2024 年度は，黒野城跡の近くに東海環状自動車道のインターチェンジが完成予定．より多くの方がお城の見学に来られます．そのため県道からも見える「黒・野・城・跡」の大型看板取付の効果がでることでしょう．また，黒野城に咲くタンポポが遠く離れた，貞泰の国替え先である，米子城や大洲城周辺で今も咲いていることから，黒野城を「タンポポ城」とする運動も展開中です．

また，地元出身者で，一昨年前のＮＨＫ大河ドラマの主役渋沢栄一（2024 年に新 1 万円札の顔）を明治新政府の大蔵省に推薦した郷純造と渋沢栄一を継ぎ財界の世話役となった誠之助父子．その生誕地には，案内板を設置しています．

黒野城主 加藤貞泰公没 400 年記念行事

今年 5 月 7 日に，岐阜市のメディアコスモスのホールで，加藤貞泰公の「貞泰公没後 400 年」［1623 年（元和 9 年）5 月 22 日，行年 44 才で江戸屋敷にて没］記念講演と，5 月 10 日～ 12 日には貞泰公のパネル展を実施します．ご興味のある方は是非ご来場下さい．

研究会員は現在 35 名ですが，高齢化で今後の活動の停滞が懸念されます．新しい取り組みを始めるためにも，新人会員を募集中であります．

岐阜市外の方も大歓迎です．ご検討いただける方がありましたら，河口☎ 090-1786-6564 又は kouzo301@yahoo.co.jp のメールまで，ご一報をよろしくお願いします．

河口 耕三
（黒野城と加藤貞泰公研究会 会長）

7. 絆を結ぶまちづくり 芥見東まちづくり協議会

1. 芥見東地域の概要
2. 芥見東地域の現状
3. 平成16年　ふるさと良くし隊結成
4. 平成18年　自治会だより月刊化
5. 平成19年　芥見東まちづくり協議会発足
6. 平成19年　芥見東防犯パトロール隊結成
7. 平成20年　みどりっこバスの取り組みについて
8. 平成21年　大洞の里山つくろう会立ち上げ
9. 平成23年　防災（見守り愛チーム編成）
10. 平成24年　小さな手助け開始
11. 平成25年　みどりっこちゃん誕生
12. 平成25年　ワンコインコンサート開始
13. 平成25年　みどりっこマーケット開始
14. 平成25年　健康落語会開始
15. 平成26年　映画開始
16. 平成27年　山田川ほたる祭り開始
17. 平成27年　カラオケ機器導入
18. 平成28年　みどりっこハウスオープン
19. 平成30年　婚活
20. これからの活動（ヤングサポーターズクラブ、空き家の維持管理）
21. まとめ（きずなづくり、まちづくり協議会の充実、故郷づくり）

2. 芥見東地区の現状

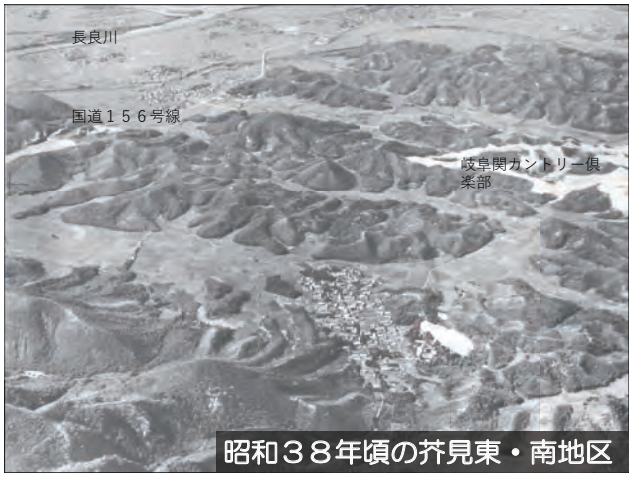
・昭和40年代にできた、県下最大のマンモス団地（大洞緑団地）で急速に進む少子高齢化

・高齢化率は43．5％（令和4年4月1日現在）

・単身高齢者の一人暮らしが多い

・空き家の増加

・令和3年度小学校新入生32人
　〃 4　　〃　　33人



昭和３８年頃の芥見東・南地区

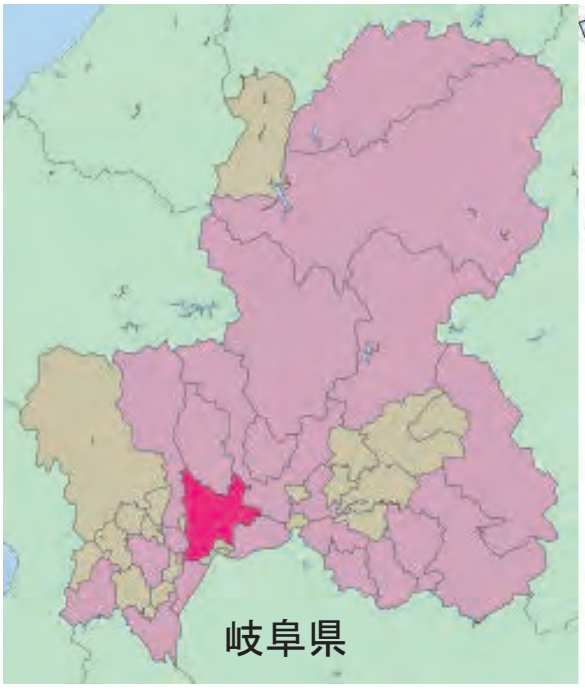
願成寺

天然記念物中将姫誓願桜

平成24年の芥見東・南地区

宇宙帰りの中将姫誓願桜二世

1. 芥見東地域の概要

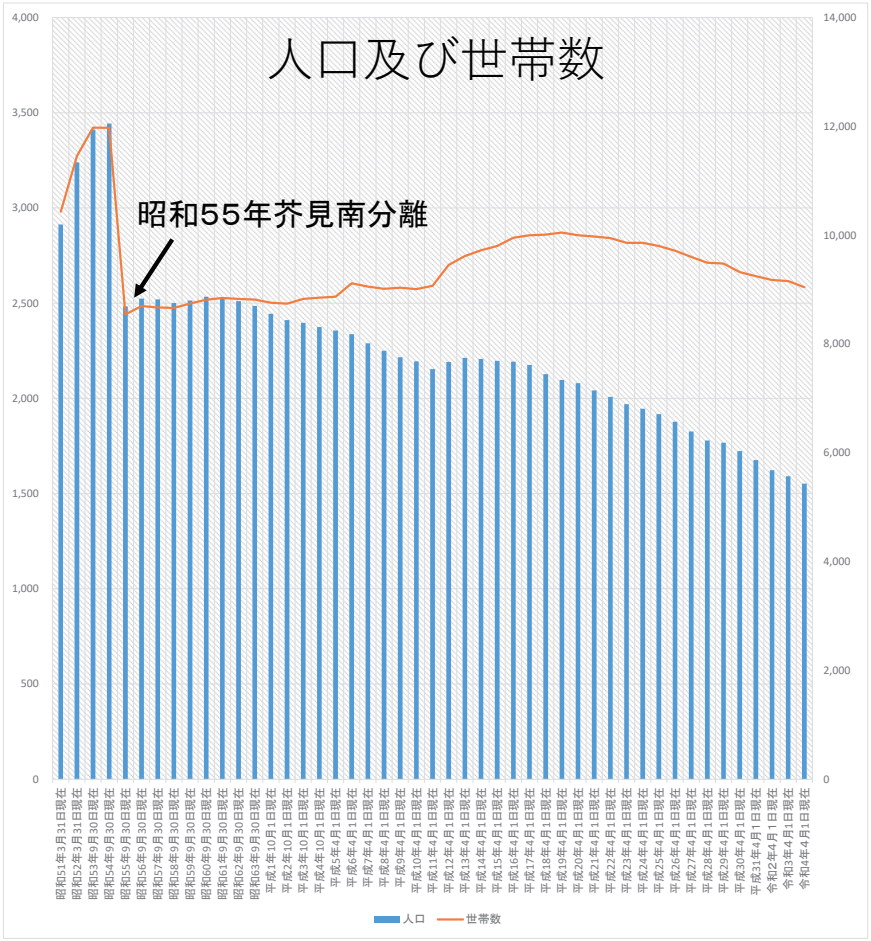


令和4年4月1日現在

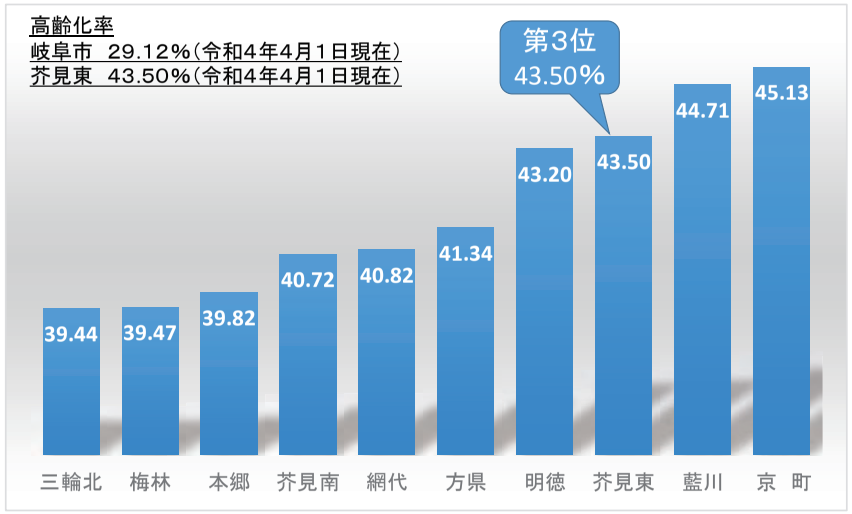
	人口	世帯数
芥見東	5，434	2，584
芥見南	2，866	1，351

世帯数及び人口

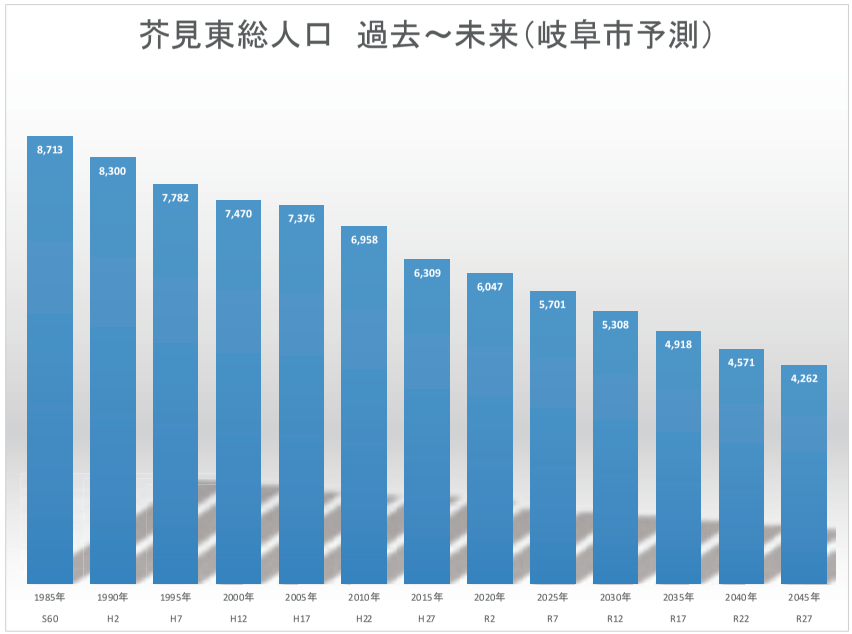
	人口	世帯数	人口減
昭和51年3月31日現在	10,197	2,980	
昭和52年3月31日現在	11,336	3,272	△ 1139
昭和53年9月30日現在	11,941	3,422	△ 605
昭和54年9月30日現在	12,050	3,421	△ 109
昭和55年9月30日現在	8,690	2,441	3360
昭和56年9月30日現在	8,835	2,485	△ 145
昭和57年9月30日現在	8,820	2,477	15
昭和58年9月30日現在	8,751	2,475	69
昭和59年9月30日現在	8,800	2,498	△ 49
昭和60年9月30日現在	8,869	2,518	△ 69
昭和61年9月30日現在	8,862	2,527	7
昭和62年9月30日現在	8,788	2,522	74
昭和63年9月30日現在	8,701	2,519	87
平成1年10月1日現在	8,554	2,502	147
平成2年10月1日現在	8,440	2,497	114
平成3年10月1日現在	8,389	2,522	51
平成4年10月1日現在	8,310	2,529	79
平成5年4月1日現在	8,246	2,534	64
平成6年4月1日現在	8,179	2,604	67
平成7年4月1日現在	8,013	2,587	166
平成8年4月1日現在	7,876	2,575	137
平成9年4月1日現在	7,757	2,581	119
平成10年4月1日現在	7,680	2,574	77
平成11年4月1日現在	7,537	2,591	143
平成12年4月1日現在	7,669	2,701	△ 132
平成13年4月1日現在	7,745	2,747	△ 76
平成14年4月1日現在	7,724	2,778	21
平成15年4月1日現在	7,689	2,800	35
平成16年4月1日現在	7,676	2,843	13
平成17年4月1日現在	7,614	2,857	62
平成18年4月1日現在	7,444	2,860	170
平成19年4月1日現在	7,338	2,871	106
平成20年4月1日現在	7,279	2,857	59
平成21年4月1日現在	7,145	2,850	134
平成22年4月1日現在	7,027	2,842	118
平成23年4月1日現在	6,893	2,817	134
平成24年4月1日現在	6,809	2,817	84
平成25年4月1日現在	6,711	2,800	98
平成26年4月1日現在	6,571	2,775	140
平成27年4月1日現在	6,392	2,743	179
平成28年4月1日現在	6,225	2,712	167
平成29年4月1日現在	6,186	2,708	39
平成30年4月1日現在	6,030	2,663	156
平成31年4月1日現在	5,866	2,642	164
令和2年4月1日現在	5,680	2,622	186
令和3年4月1日現在	5,570	2,616	110
令和4年4月1日現在	5,434	2,584	136



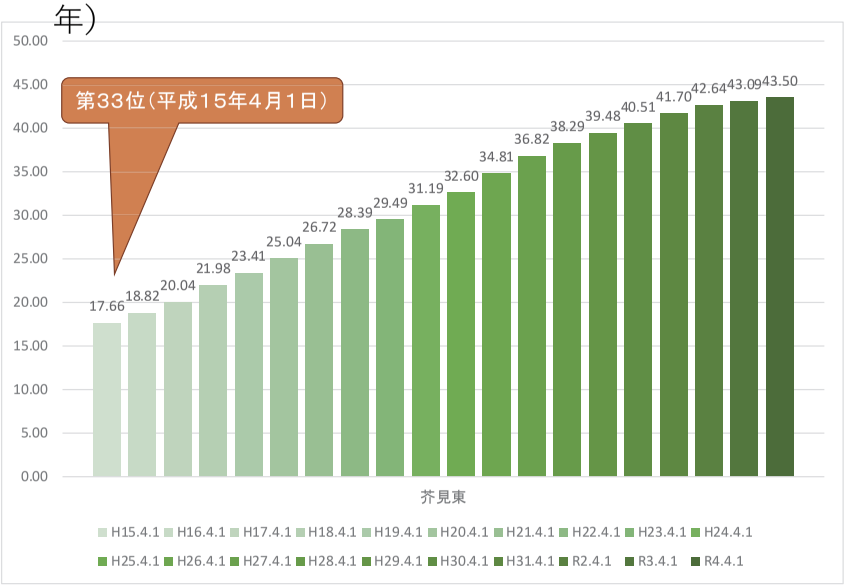
高齢化率ベストテン（岐阜市５０地区）



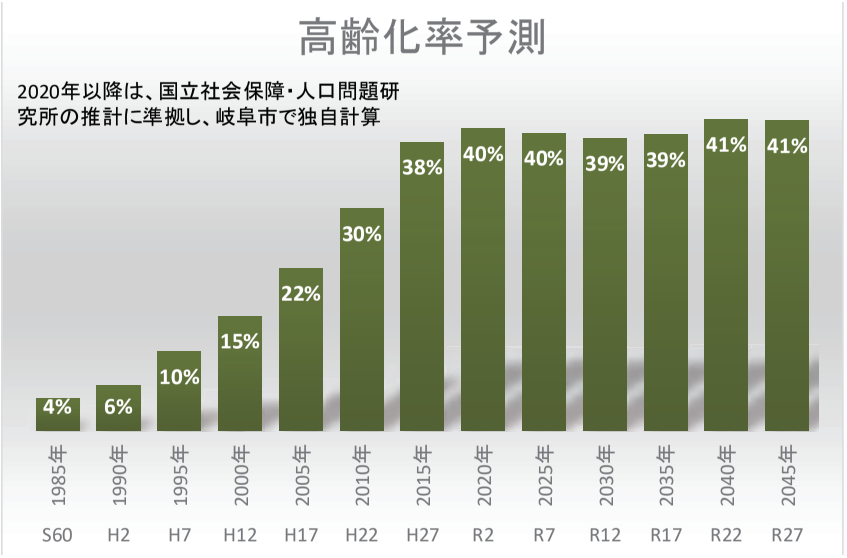
芥見東総人口　過去～未来（岐阜市予測）



芥見東地区の高齢化率の推移（平成１５年～令和４年）



高齢化率予測



地域で各種団体等により行われている様々な活動一覧

・開催月：事業名等（主催団体名）

- 4月：お花見カラオケ春祭り（音楽同好会・岐協苑）
- 4月：中将姫誓願桜「観桜会」（中将姫保存会）
- 4月：里山てんぷらパーティ（大洞の里山つくろう会）
- 5月11月：芥見東・南ゴルフコンペ（東・南同好会）
- 5月：子どもフェスティバル（青少年・体振）
- 5月：ゴミ0啓発運動（自治会連合会）
- 5月：山田川をおよぐこいのぼり（青少年育成市民会議）
- 6月：ほたる祭り（まちづくり協議会）
- 6月：スポーツフェスティバル（体育振興会他）
- 6月：防災訓練（自治会連合会）
- 6月：山田川清掃（藍川東中学校・芥見東小学校）
- 6月：中学生と語る会（青少年育成市民会議）
- 7月：水ロケットを飛ばそう（青少年育成市民会議）
- 7月：げんきまつり（東児童センター）
- 8月：夏まつり・盆おどり大会（まちづくり協議会）
- 8月：里山流しそーめん（大洞の里山つくろう会）
- 9月：婚活（きずなの会）
- 9月：敬老会（自治会連合会）
- 10月：市民うんどうかい（まちづくり協議会）
- 10月：福祉・健康まつり（社会福祉協議会）
- 10月：みどり病院健康まつり（みどり病院）
- 11月：ウオーキング大会（青少年育成市民会議他）
- 11月：グラウンドゴルフ大会（老人クラブ連合会）
- 11月：クリーンシティぎふ（自治会連合会）
- 11月：里山まつり（大洞の里山つくろう会）
- 12月：ふれあいカラオケ祭り（音楽同好会）
- 12月：バドミントン大会（青少年・体振）
- 1月：新成人を祝い励ます会（自治会連合会）
- 2月：フェスティバル（東児童センター）
- 毎日：地域の見守り（見守り愛チーム）
- 毎日：子どもの見守り（ふるさと良くし隊）
- 毎日：みどりっこバスヘルパー（バスヘルパー会）
- 週2回：防犯パトロール（防犯パトロール隊）
- 毎月：自治会だより（自治会連合会・まちづくり協議会）
- 毎月：ワンコインコンサート（音楽同好会）
- 毎月：シネマ（音楽同好会）
- 毎月：ふれあいいきいきサロン（各種団体）
- 偶数月：みどりっこマーケット（きずなの会）
- 四半期毎：みどりっこバスの運営（コミバス運営協議会）
- 年1回：健康落語会（音楽同好会）
- 依頼時：小さな手助け（社会福祉協議会）
- 適時：草刈り（各地区アダプトプログラム会）
- 適時：みどりっこハウスでの催し（社会福祉協議会）
- 適時：交通安全街頭指導（交通安全協会）

※ 団体名は省略してある団体名もあります

問い合わせ先　芥見東まちづくり協議会（芥見東公民館内）９：００～１２：００（日曜・祝日除く）
☎ ０５８－２４１－１０６２　　ホームページは「芥見東まちづくり」で検索してご覧ください。
http://akutamidorittko.web.fc2.com/

芥見東まちづくりビジョン

～10 年後のわがまちを見据えて～

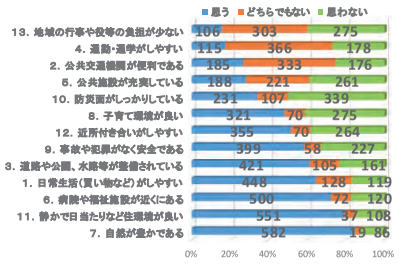
令和２年２月

わがまち芥見東

- つながりづくり
- 空き家・空き地・空き室
- 公共交通の利便性
- 防災・防犯・交通安全
- 健康増進
- 高齢者への支援
- ヤングサポーターズクラブ

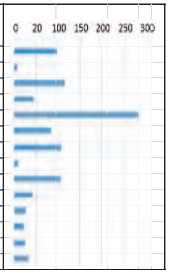
みなさんのお手を煩わせたアンケートを基に、ワークショップとパブリックコメントを経て作成しました。

■芥見東地区の現状



■芥見東地区の課題

問7. 生活している中で、現在特に困っていること、又は不自由に感じることはありますか。<2つまで○印>	回答数
人とのつながりが希薄	98
行事、イベントが少ない	6
行事、イベントが多い	116
買い物をする場所が無い	44
公共交通が不便	284
災害時の安否確認体制	84
高齢者の見守り体制	108
子どもの見守り体制	9
地域の人材不足	106
子どもの遊び場が少ない	42
医療施設が少ない	26
子どもの教育環境	22
健康体操やサロンなどの集いの場がない	25
その他	32



芥見東まちづくり協議会は防災・防犯の強化と近所付き合いの地域浸透を重点に置き次のビジョンを実行します

つながりづくり

2020 2025 2030

- ✪ みんなが気軽に好きな時に立ち寄れる居場所づくり（憩の場づくり） 新規
- ✪ 多世代のつながりづくり：各種イベントに多世代が参加したい魅力を設ける 継続
- ✪ まちづくりを語る会を開催する こまめに声を掛けあう、近所づきあいを良くする具体論なども話し合う 新規
- ✪ ふれあいいきいきサロンへの注力 本部役員が参加し、助言・提案をする 新規

防災・防犯・交通安全

2020 2025 2030

- ✪ 防災訓練 小地域（支部等）での防災訓練及び避難経路確認、同日防災フェアの実施 見直し
- ✪ 自主防災隊 役割と内容を明確にします 見直し
- ✪ 消防団員・水防団員の確保 各種フェア実施時に勧誘実施 新規
- ✪ 地域全体の避難経路マップの作成 新規
- ✪ ふるさと良くし隊 継続
- ✪ 青色回転パトロール隊 継続

高齢者への支援

2020 2025 2030

- ✪ 最後まで自宅で安心して暮らせる地域 「まちづくりを語る会」での意見を基に検討の上、実行します 新規
- ✪ 見守り愛チーム 「まちづくりを語る会」での意見を基に検討の上、実行します 見直し
- ✪ 高齢者の活動の場の提示（生きがいづくり） 空き家・空き地の管理など日々活動できる場の情報提供と希望者募集
- ✪ 支部の老人クラブ会への注力 本部役員が参加し、助言・提案をする 新規

空き家・空き地・空き室

2020 2025 2030

- ✪ 空き家・空き地の管理 地域住民がコミュニティビジネスとして管理に係わる 新規
- ✪ 市営住宅の空き室増加 利用方法を岐阜市などと検討する 新規

健康増進

2020 2025 2030

- ✪ 芥見東ウオーキング大会 継続
- ✪ 小地域（支部等）ウオーキング大会開催促進 新規
- ✪ 健康促進 イベント開催時等に健康コーナーを設け健康促進をする 継続

ヤングサポーターズクラブ

2020 2025 2030

- ✪ 地域に根差した若者の団体 若者が目的を持って集まり実現する団体の創設 新規
- ✪ 地域の後継者選出と育成 自治会組織の強化を図るため、地域を支える新たな組織づくりを行う 新規

公共交通の利便性

2020 2025 2030

- ✪ 公共交通の改善：バスの路線がJR駅方面のみで不便、バスの料金が570円と高い。地域で改善案を取りまとめ要望を提出する。 新規

この地域は８月に実施したアンケート結果にもありますように「自然が豊か、静かで日当たりなどが良い」「病院や福祉施設が近くにあり道路や公園、水路などが整備されている」こんな住むのに良い町を後世に残すには？　課題を精査し７つのビジョンを実行します。

権現山からの芥見東・芥見南地域全景

まちづくりTIME SUGOROKU by 芥見東

小さな手助け

平成24年5月29日設立総会
同年6月1日より活動開始
高齢になって「以前出来たことが出来なくなった」人たちの簡単な困りごとを代行するボランティア。
（社協芥見東支部の事業）

平成24年芥見東アダプトプログラム会発足。
草刈り作業、花木の剪定、植木の伐採、遊歩道や階段の清掃活動を実施

平成25年6月みどりっこバス5周年記念式典にて「みどりっこちゃん」お披露目。
今日は大洞幼稚園の運動会に参加。

平成25年8月音楽同好会立ち上げ
9月よりコンサート開催

平成25年8月きずなの会発足
平成25年10月みどりっこマーケット開催
（ハンドメイドマーケット）

平成25年11月より開催
芥見東音楽同好会主催

平成26年9月より開催
芥見東音楽同好会主催

見守り愛チーム

命のバトン　見回り時の腕章
平成23年12月見守りチーム発会式
平成25年4月見守り愛チームに名称変更
向こう三軒両隣がチームになって見守りあう仕組み

自治会連合会主催から平成31年度にまちづくり協議会主催に変更

平成23年4月から毎月第3土曜日開催
芥見東音楽同好会主催
平成27年12月終了

平成23年度から芥見東自治会連合会とまちづくり協議会が共催

平成21年「大洞の里山つくろう会」を立ち上げ里山を整備しています。
その里山の広場でお祭りをしました。

地域の活性化 芥見東づくり・つながりづくり 絆

- 芥 つながりづくり
- 見 空き家・空き地・空き室
- 東 公共交通の利便性
- ビ 防災・防犯・交通安全
- ジ 健康増進
- ヨ 高齢者への支援
- ン ヤングサポーターズクラブ

平成27年6月第1回開催
主催　岐協苑・芥見東まちづくり協議会

平成27年12月第1回開催
芥見東音楽同好会主催

平成28年4月第1回開催
芥見東音楽同好会主催

今後の活動

スタート

平成19年1月
芥見東まちづくり
協議会発足

自治会だより
自治会活動は
「風通し良く、ガラス張りで行うべき」
との考えのもと
平成18年5月より月刊化しました

令和2年8月22日NPO法人まちつくろう会GIFU設立総会。10月22日設立

（みどりっこハウス）
平成28年12月18日オープン式

芥見東のまちづくり　検索　詳しくはホームページをご覧ください

中心の「絆」の文字は芥見東のシンボルマークです（願成寺孝僧、堀田正明氏の揮毫）

3. 平成16年　ふるさと良くし隊結成

- 平成16年地区内の安心安全を守るために「ふるさと良くし隊」を結成。
- 隊員の皆さんで時間のある時。散歩などにお出かけの時はオレンジジャパーとオレンジ帽子を着用→防犯抑止につながる。
- 登下校時にオレンジジャンパー・帽子を着用し、子どもたちの安全を守ってる。
- 毎年芥見東小学校の児童が感謝会開催し「ふるさと良くし隊のみなさんへいつも見守ってくれてありがとう」と児童たちが書いた感謝の言葉とメダルをくれる。
- 平成26年2月9日、芥見東と芥見南の2つのふるさと良くし隊を「芥見東・南ふるさと良くし隊」として統合。

4. 平成18年　自治会だより月刊化

- 平成18年に、ほとんどの連合会役員が替わった。それを機に、それまで年1～2回発行の自治会だよりを月刊化。
- 自治会だよりは情報の共有化。風通し良く、ガラス張りで自治会活動は行うべきとの考えの下、楽しいまちづくりを目指して作成。
- 内容は連合会からの一方的でなく、会員の皆さんからの情報・意見の発信、その他芥見東を視察、あるいはこちらから訪問した方々にも投稿いただき作成している。

ガラス張りの自治会⇒情報の共有⇒元気な町！

自然も安全も　喜びも苦しみも　便利も難題も共有しよう

5. 平成19年　芥見東まちづくり協議会発足

- 平成19年1月に設立
- 自治会連合会及び各種機関・団体の代表者・役員及び企業からの参加者による地域全体の横断的組織
- 新しい事業はこの町づくり協議会で提案・議論して実行に移す
- 従来から行っている「夏祭り盆おどり大会」は平成23年度から自治会連合会と共同開催、30年度から主催。「市民運動会」は「市民うんどうかい」とし令和元年度から主催

＜主な事業＞

1　自治会だより
2　夏祭り・盆おどり大会
3　市民うんどうかい
4　ほたる祭り
5　ふれあいカラオケ祭り（後援）
6　芥見東・南地区コミュニティバス等運営協議会（支援）
7　大洞の里山つくろう会（支援）
8　芥見東アダプト・プログラム会（支援）
9　カラオケクラブ（支援）

各種団体
- 芥見東自治会連合会（12支部　54自治会）
- 社会福祉協議会芥見東支部
- 芥見東民生児童委員協議会
- 中地区交通安全協会芥見東支部
- 岐阜市交通安全女性
- 芥見東小学校PTA
- 藍川東中学校PTA
- 芥見東青少年育成市民会議
- 芥見東・南ふるさと良くし隊
- 芥見東子ども会育成者協議会
- 芥見東体育振興会
- 芥見東老人クラブ連合会
- 身体障害者福祉協会芥見東分会
- 赤十字奉仕団芥見東分団
- スポーツ少年団
- 中消防団芥見分団
- 芥見水防団
- 芥見東女性防火クラブ

各種機関
- 芥見東小学校
- 藍川東中学校
- 芥見東公民館
- 地域包括支援センター
- 東部ふれあい保険センター
- 東児童センター

企業
- 大洞岐協苑
- 十六銀行芥見支店
- みどり病院
- しいのみ薬局

6. 平成19年　芥見東防犯パトロール隊結成

- 平成19年から、まちづくり協議会が所有している軽自動車を使用して、毎週2回を目途に青色回転灯防犯パトロールを実施。スピーカらの放送は平成25年度からみどりっこちゃんの歌のBGMに載せて、小学生の声で安全の呼びかけを実施。子どもたちは手を振って応えてくれます。
- 毎月6月に岐阜中警察署生活安全課、岐阜市芥見交番の参加を得て、防犯講習会を開催し、3年更新のパトロール実施者証の更新を行っています。
- パトロール参加団体は小学校PTA・中学校PTA・体育振興会・スポーツ少年団・地域安全指導員・交通安全協会・自治会連合会・民生委員児童委員協議会・子ども会育成者協議会・青少年育成者市民会議・赤十字奉仕団・芥見南地区などで月別にパトロールを行っています。

（2）「みどりっこバス」運行の経緯

・芥見東地域において急速に進む高齢化に対して、特に通院・買い物などの足の確保が困難となる住民が多くなり平成16年頃から社会福祉協議会芥見東支部の福祉合同連絡会議にて議論されていた

・平成18年度になって自治会連合会も新しい体制となり地域全体の問題として社会福祉協議会に協力してコミュニティバスの導入について合同で検討した

・岐阜市では平成18年10月から、加納地区など4地区でコミュニティバスの試行運行が開始された

・芥見東地区は、芥見東まちづくり協議会のテーマとし岐阜市のコミュニティバスを導入する方向で、先行地区の視察、運行コース・バス停の検討などについて芥見南地区にも呼びかけて準備を進めた。最初の段階から地域内の有志ボランティアによる協力な応援・推進力があった

（3）「みどりっこバス」運行の経過

・平成19年8月29日に「芥見東・南地区コミュニティバス等運営協議会準備会」を発足した
（岐阜市、運行会社、地元選出議員、公民館、自治会連合会、各種団体、住民ボランティアなど）

・「みどりっこバス通信」を年2～3回発行

・平成20年度の試行運行に向けて、次の10項目について検討ししかるべき方針を決定した

1. アンケート調査の実施
2. 地域・各種会合への出前講座の開催
3. ヘルパーの活動
4. 割安回数券の発行
5. サポーター制度の導入
6. バスの愛称・シンボルマークの募集
7. キャラクターグッズの製作
8. 運行コースの道路関連施設整備の要望
9. イベント時の臨時便の運行
10. 発車式の開催

芥見東・南コミバス運営協議会準備会での意見交換

・平成20年4月28日に「芥見東・南地区コミュニティバス等運営協議会」の設立総会を開催

・平成20年6月1日、バロー芥見店にてみどりっこバス試行運行出発式を挙行。細江岐阜市長出席。当初からボランティアによるヘルパー（車掌）が車内の忙しい時間帯に交代で乗車するヘルパー制度を実施。ヘルパーは、チケットの受け渡し、回数券・アユカ・お出かけバスカードの購入、乗り降りの手伝い、手荷物の手伝い、疑問点に答えるなどについてお客様を援助する。平成22年度からは、藍川東中学校の有志生徒による夏休みのボランティア活動の一環として中学生ヘルパーが活躍している

・試行運行期間中に車内アンケートなどによるお客様の意見・ 提案や運転手の指摘などを勘案して、岐阜市及び日本タク シーと運営協議会において協議して数回の運行ルート・バス停・時間の見直しを実施した

・「みどりっこバス」、「みわっこバス」、「あいあいバス」、及び 「芥見岩っこバス」の4運営協議会で情報交換を目的に連携会議を開催しています

芥見東交通アンケート*の結果から

項目	分析データ（全地区の総計⇒地区差考慮せず）	コメント
家族構成	・60代以上の世帯：60% ・60代以上の1人暮らしと夫婦だけ：48%	・高齢化と独居化は急速に進行中
移動手段	・徒歩：23%（60代以上中心）・自転車：17% ・自動車：82%（60代以上41%）・バス：20%	・クルマ依存強く脱クルマ策急ぐ
困窮度	・困っている：6%・困らず：31%（60代以上15%） ・5年先までに困る：29%・10年先〃：50%	・高齢でも意外に気力・体力は若いと思っている？
解決のより所	・自己責任で解決：37%（周りに迷惑かけず） ・地域全体で解決：56%・深刻でない：3%	・物心両面から地域で支える要あり
欲しい仕組み	・タクシー共同利用：11%・路線バスの改善：52%（運賃値下げなど）・コミバスの導入：70%	・コミバス要望大・路線バスと抱き合わせて改革を

＊平成19年2～3月自治会加入全世帯に実施、1250世帯から回答得た（50%）

芥見東自治会連合会・社会福祉協議会芥見東支部

みどりっこヘルパーが活躍
① 行き先などを案内
② 困っている人をサポート
③ 運行状況をモニター
④ 乗客の声を記録
運転手さんも親切
藍川東中生も志願
（夏休み）
乗客の声・気づいたこと
⇒ヘルパー・ノートへ
⇒運営協議会へ提起⇒反映

お客様の要望で作った名刺サイズのミニ時刻表

マイバス停は自分の利用するバス停の時刻を記入して使用

みどりっこバスミニ時刻表《南回り》 2014.11.1

バス停（抜粋）	1便	3	5	7	9	11	13	15
バロー	810	932	1102	1232	1357	1517	1637	1757
生　協	812	934	1104	1234	1359	1519	1639	1759
緑山東	816	938	1108	1238	1403	1523	1643	1803
大洞保育	819	941	1111	1241	1406	1526	1646	1806
東　小	822	944	1114	1244	1409	1529	1649	1809
生　協	824	946	1116	1246	1411	1531	1651	1811
東山三心	829	951	1121	1251	1416	1536	1656	1816
芥見診療	834	956	1126	1256	1421	1541	〃	〃
渡辺整形	839	1001	1131	1301	1426	1546	〃	〃
バロー	842	1006	1136	1305	1429	1549	1701	1821
マイバス停								

日・祝日は赤塗部

みどりっこバスミニ時刻表《北回り》 2014.11.1

バス停（抜粋）	2便	4	6	8	10	12	14	16
バロー	844	1008	1138	1307	1431	1551	1711	1821
生　協	846	1010	1140	1309	1433	1553	1713	1823
桐が丘北	849	1013	1143	1312	1436	1556	1716	1826
紅葉公園	851	1017	1147	1315	1438	1558	1718	1828
柏台北	854	1021	1151	1319	1441	1601	1721	1831
大洞接骨	858	1027	1157	1324	1445	1605	1725	1835
東山三心	903	1033	1203	1329	1450	1610	1730	1840
芥見診療	908	1039	1209	1334	1455	1615	〃	〃
渡辺整形	913	1044	1214	1339	1500	1620	〃	〃
バロー	918	1050	1220	1345	1505	1625	1735	1845
マイバス停								

日・祝日は青塗部

ヘルパーノート

一般

9月1日（月）天候	ヘルパー名前	瀧口 4 代
運転手さん 市橋薫	活動時間	8：50分～11：38分

【気付いた事・感想・伝言等】
朝2便から大変混んできて立ってる方が10人以上でした。その中でいつも乗られるお二人が2便ほど乗ったままで席についてるのが気になりました。

9月2日（水）天候 雨晴	ヘルパー氏名	高間 肇
運転手さん 葉部昭人さん	活動時間	8：15分～11：07分

【気付いた事・感想・伝言等】 ここしばらく天候不順である。それでも乗車してくれるお客さんは多い。今日も、2便は立っている人が多い。高齢の方や体の不自由な人には、気をつけて席をゆずる人が多い。みどりっこバスに乗っていると、自分の運転の参考になることも多い。特に交差点では運転手さんはとても慎重である。還元金がみどりっこバスでは無効なこと。乗り方の時のカードの利用。中学生の充電マナーについて運転手さんから話をきいた。

中学生

7月31日（日）天候	ヘルパー氏名	堤
運転手さん 森下さん	活動時間	9：32分～　：　分

【気付いた事・感想・伝言等】
お年寄りの方の荷物を、自分から持つお手伝いができたので良かったです。お客さんが席をゆずり合っているすてきな様子が見られてすごく良かったです。お客さんが降りられる時「おっかれさん。ありがとうね。頑張ってね。」と言っていただいて、参加して良かったと思いました。次回は、もっと、その感謝の気持ちに応えられるように頑張ります。

7月31日（日）天候	ヘルパー氏名	西口
運転手さん 森下さん	活動時間	9：32分～　：　分

【気付いた事・感想・伝言等】
私は初めてこのボランティアをやってみたお客さんの荷物を持ってあげたり、あいさつをすることができました。思った以上にお客さんが明かったです。次回は積極的に接触でお客さんと話したいです。

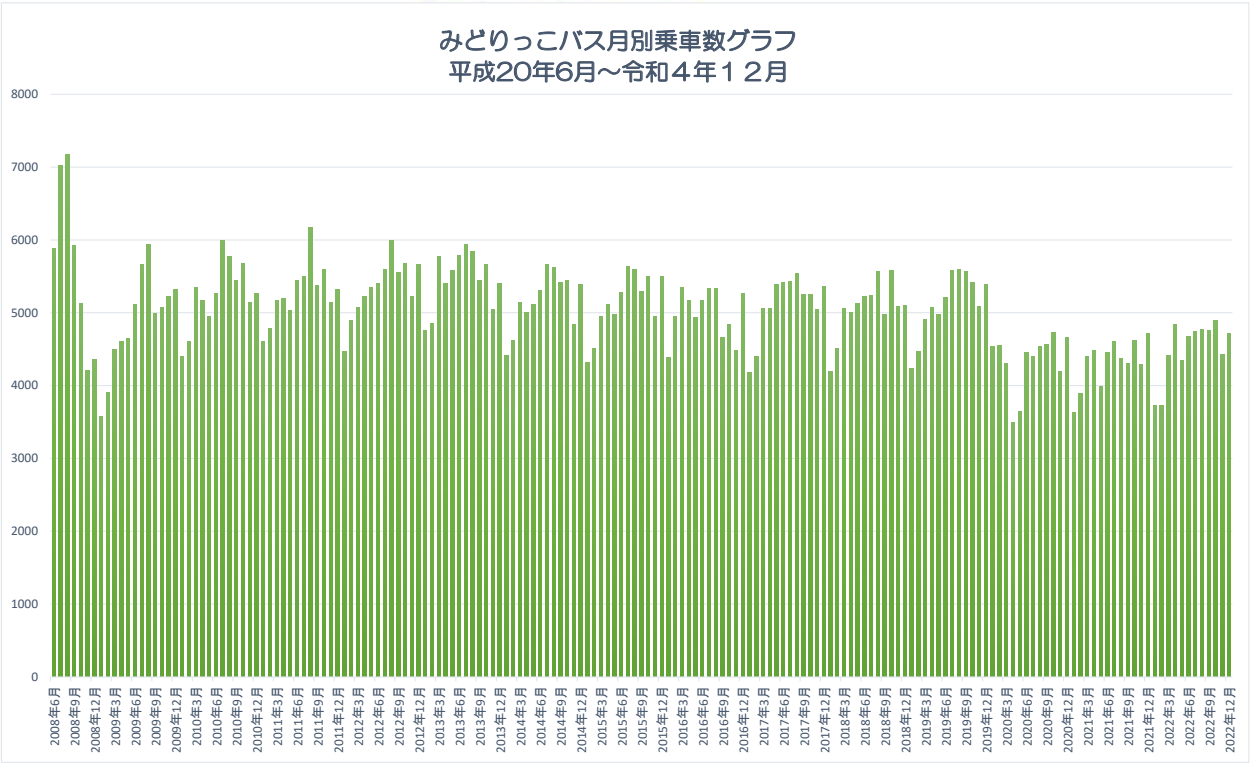
月別利用者数推移

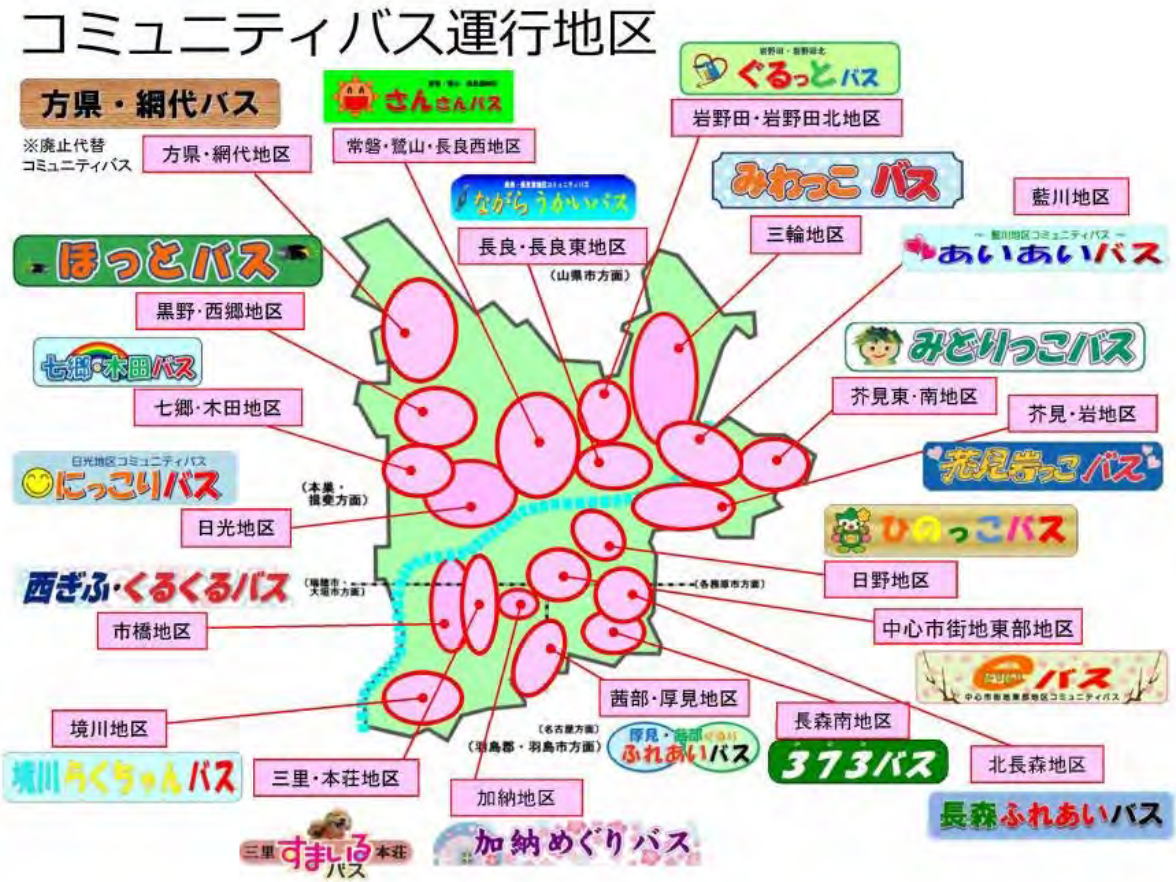
2008年6月～2022年12月

（平成20年6月～令和4年12月）

	月	利用者数（月）	利用者数（日）
平成20年度	4月		
	5月		
	6月	5,886	196
	7月	7,020	226
	8月	7,173	231
	9月	5,921	197
	10月	5,129	165
	11月	4,213	140
	12月	4,360	141
	1月	3,581	128
	2月	3,908	140
	3月	4,491	145
	合計 平均	**51,682**	**171**
平成21年度	4月	4,600	153
	5月	4,650	150
	6月	5,109	170
	7月	5,661	183
	8月	5,941	192
	9月	4,989	166
	10月	5,075	169
	11月	5,218	174
	12月	5,320	172
	1月	4,405	157
	2月	4,604	164
	3月	5,343	172
	合計 平均	**60,915**	**169**
平成22年度	4月	5,164	172
	5月	4,942	159
	6月	5,270	176
	7月	5,994	193
	8月	5,780	186
	9月	5,437	181
	10月	5,678	183
	11月	5,143	171
	12月	5,263	170
	1月	4,612	165
	2月	4,778	171
	3月	5,162	167
	合計 平均	**63,223**	**175**
平成23年度	4月	5,202	173
	5月	5,025	162
	6月	5,445	182
	7月	5,501	177
	8月	6,167	199
	9月	5,376	179
	10月	5,594	180
	11月	5,136	171
	12月	5,314	171
	1月	4,471	160
	2月	4,896	169
	3月	5,066	163
	合計 平均	**63,193**	**174**
平成24年度	4月	5,221	174
	5月	5,349	173
	6月	5,400	180
	7月	5,597	181
	8月	6,000	194
	9月	5,549	185
	10月	5,675	183
	11月	5,226	174
	12月	5,660	183
	1月	4,763	170
	2月	4,855	173
	3月	5,769	186
	合計 平均	**65,064**	**180**
平成25年度	4月	5,402	180
	5月	5,582	180
	6月	5,785	193
	7月	5,944	192
	8月	5,840	188
	9月	5,437	181
	10月	5,662	183
	11月	5,045	168
	12月	5,403	174
	1月	4,415	158
	2月	4,624	165
	3月	5,136	166
	合計 平均	**64,275**	**177**
平成26年度	4月	5,004	167
	5月	5,115	165
	6月	5,306	177
	7月	5,668	183
	8月	5,622	181
	9月	5,422	181
	10月	5,448	176
	11月	4,842	161
	12月	5,383	174
	1月	4,321	154
	2月	4,506	161
	3月	4,948	160
	合計 平均	**61,585**	**170**
平成27年度	4月	5,116	171
	5月	4,982	161
	6月	5,282	176
	7月	5,638	182
	8月	5,590	180
	9月	5,292	176
	10月	5,494	177
	11月	4,953	174
	12月	5,495	177
	1月	4,385	157
	2月	4,950	171
	3月	5,344	172
	合計 平均	**62,521**	**173**
平成28年度	4月	5,173	172
	5月	4,931	159
	6月	5,172	172
	7月	5,335	172
	8月	5,337	172
	9月	4,656	155
	10月	4,841	156
	11月	4,481	149
	12月	5,261	170
	1月	4,177	149
	2月	4,406	157
	3月	5,061	163
	合計 平均	**58,831**	**162**
平成29年度	4月	5,053	168
	5月	5,382	174
	6月	5,420	181
	7月	5,424	175
	8月	5,534	178
	9月	5,245	175
	10月	5,250	169
	11月	5,051	168
	12月	5,365	173
	1月	4,197	150
	2月	4,503	161
	3月	5,054	163
	合計 平均	**61,478**	**170**
平成30年度	4月	5,007	167
	5月	5,122	165
	6月	5,226	174
	7月	5,237	175
	8月	5,560	179
	9月	4,978	172
	10月	5,577	180
	11月	5,084	169
	12月	5,106	165
	1月	4,239	151
	2月	4,469	160
	3月	4,909	158
	合計 平均	**60,514**	**168**
令和1年度	4月	5,080	169
	5月	4,975	160
	6月	5,203	173
	7月	5,586	180
	8月	5,593	180
	9月	5,574	186
	10月	5,410	180
	11月	5,092	170
	12月	5,383	174
	1月	4,533	162
	2月	4,549	157
	3月	4,309	139
	合計 平均	**61,287**	**169**
令和2年度	4月	3,489	116
	5月	3,641	117
	6月	4,456	149
	7月	4,395	142
	8月	4,542	147
	9月	4,561	152
	10月	4,730	153
	11月	4,198	140
	12月	4,660	150
	1月	3,631	130
	2月	3,898	139
	3月	4,397	142
	合計 平均	**50,598**	**140**
令和3年度	4月	4,485	145
	5月	3,984	129
	6月	4,448	148
	7月	4,599	148
	8月	4,373	141
	9月	4,300	143
	10月	4,619	149
	11月	4,288	143
	12月	4,715	152
	1月	3,721	133
	2月	3,733	133
	3月	4,408	142
	合計 平均	**51,673**	**142**
令和4年度	4月	4,841	155
	5月	4,342	140
	6月	4,674	156
	7月	4,738	153
	8月	4,768	154
	9月	4,756	159
	10月	4,894	158
	11月	4,429	148
	12月	4,712	152
	1月		
	2月		
	3月		
	合計 平均	**42,154**	**153**
総合計 総平均		**878,993**	**166**

乗車人数平均
166人／1日





記念式典＆表彰

式典会場：バロー芥見店バス停

年　月　日	式　典　＆　表　彰
平成20年　6月　1日（日）	出発式
平成22年　1月23日（土）	ご乗客10万人達成記念式典
平成22年　4月　4日（日）	本格運行出発式
平成23年　8月20日（土）	ご乗車20万人達成記念式典
平成24年10月22日（月）	中部運輸局長表彰を受賞
平成25年　3月16日（土）	ご乗車30万人達成記念式典（缶バッチ製作）
平成25年　6月　1日（土）	運行5周年記念式典（ゆるキャラ「みどりっこちゃん」誕生）
平成25年10月　1日（火）	岐阜市民参画賞受賞
平成26年10月11日（土）	ご乗車40万人達成記念式典
平成28年　5月21日（土）	ご乗車50万人達成記念式典
平成30年　1月13日（土）	ご乗車60万人達成記念式典
平成30年　6月　9日（土）	運行10周年記念式典
令和　1年　9月22日（日）	ご乗車70万人達成記念式典
令和　3年11月　8日（月）	ご乗車80万人達成記念式典

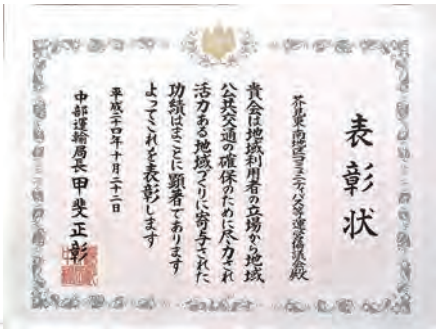
本格運行出発式
平成２２年４月４日

みどりっこバス出発式　平成２０年６月１日

５周年を祝うゆるキャラ「みどりっこちゃん」と来賓
平成２５年６月１日

１０周年記念式典　平成３０年６月９日（土）

ご乗車80万人達成記念式典
令和3年11月8日（月）



（4）他都市からの視察（主なもの）
- 平成24年　3月―知多市生活環境部防災安全課
- 平成24年　7月―桑名市自治会連合会
- 平成24年11月―福井市　誇りと夢・まちづくり日新実行委員会
- 平成25年　2月―長崎県東彼杵町長
- 平成25年　2月―犬山市コミュニティ推進協議会連合会
- 平成25年　5月―桑名市大山田東小校区防犯ﾊﾟﾄﾛｰﾙﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ
- 平成26年　2月―静岡県都市計画協会
- 平成26年　4月―ドイツハンブルグ市のBerndt Wagnerさん
- 平成26年　5月―奈良県王寺町自治会連合会
- 平成26年　7月―奈良県橿原市新沢地区自治会
- 平成26年11月―焼津市都市計画審議会
- 平成26年12月―仙台市市会議員
- 平成27年　6月―岸和田市市会議員井舎様
- 平成27年　7月―千葉県浦安市、兵庫県川西市、岡山県岡山市、京都府八幡市
- 平成28年　4月―金沢市革新懇
- 平成28年10月―徳島市議会議員
- 平成28年12月―仙台市総合交通政策部交通政策課計画係職員
- 平成29年　9月―松阪市市会議員
- 平成29年12月―弘前大学教授・大学院客員研究員博士
- 平成30年　2月―愛知県江南市議会議員ほか7名
- 平成30年　7月―豊田市自治会
- 平成30年　7月―京都府長岡京市市議会議員6名
- 平成30年10月―岸和田市議会議員2名
- 令和　1年　7月―山梨県富士川町区長会 副町長以下18名
- 令和　1年11月―徳島市議会議員5名
- 令和　1年11月―滋賀県野洲市自治会連合会視察研修40名
- 令和　1年11月―奈良県北葛城郡広陵町視察研修31名
- 令和　1年12月―可児市愛岐ケ丘及び周辺自治会のみなさん8名
- 令和　2年　9月―豊田市職員とたすけあいプロジェクト及び名古屋大学モビリティ研究所。合計4名

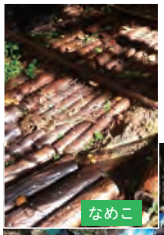
（5）マスコミ取材（主なもの）
- 平成22年　8月―岐阜新聞一中学生ヘルパー
- 平成23年　9月―NHK・TY―「地域の絆をつくるｺﾐｭﾆﾃｨﾊﾞｽ」
- 平成24年　4月―読売新聞宇都宮支局―「みどりっこバス」
- 平成24年11月―中日新聞、岐阜ラジオ―「コミュニティバス」
- 平成27年12月―ぎふチャン―「地域を走る絆　コミバスで人もまちも元気に！」
- 平成30年　7月―作家／エッセイスト 茶木環さん
- 令和　2年　9月―中日新聞・岐阜新聞一猛暑の登校「快適に」対策あれこれ

（6）表彰
- 平成23年　2月―あしたのまち・くらしづくり活動賞　振興奨励賞
- 平成24年10月―国土交通省　中部運輸局長賞
- 平成25年10月―岐阜市民参画賞
- 平成28年10月―みどりっこバスヘルパー岐阜市民参画賞

8. 平成21年　大洞の里山つくろう会立ち上げ

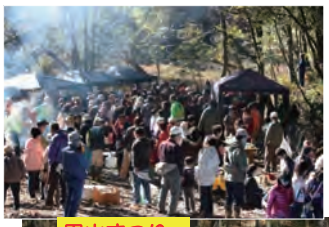
- 芥見東地区には、古来より脈々と受け継がれてきた豊かな自然がタイムカプセルのように残されていましたが、近年荒廃が進んでいました
- 平成21年に「大洞の里山つくろう会」を立ち上げました
- 大洞の里山の自然環境保全
  放置された雑木林の整備、枯死木の処理などして、多様な動植物の生息環境の確保
- 里山整備活動を通してまちを元気に！
  みんなで協力して作業する、整備された里山でのイベントなどに参加し、里山を散策。地域の絆が深まってきました
- 毎月第4土曜日を里山の日と定め、主に下草刈り、倒木の整備、間伐、さらに里山遊歩道の整備、外来植物除去などを実施

山の恵みも頂いて



大洞の里山は生き物たちの宝庫

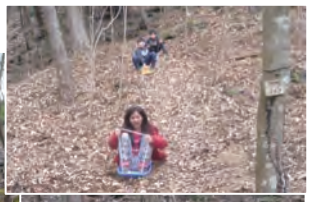
地域の人々が里山に集い・・・



里山を次世代に引き継ぐために

里山案内のパンフレット・案内板

里山で遊ぶ子どもたち



9. 防災

（平成23年　見守り愛チーム編成）

防災訓練で見守り愛チームの話し合い

チーム内を見回る時用の腕章

- 平成23年12月「見守り愛チーム」発会式
- 住民の皆さんはお互いに「向こう三軒両隣」の精神で日頃からご近所の見守り、助け合いをする。それには相談のできる仲間として、常日頃からお互いに顔を見たら気軽に挨拶を交わすことが大切。
- そんな住民の隣近所の４～８軒の皆さんでチームを作る（それが「見守り愛チーム」）。チームを作れば当然チームリーダーが必要になるのでリーダーを決める。
- チームリーダーの役割は、チーム内の人たちの異常時に通報するなどの対応。災害時もチーム内の人たちの安否確認・救出救護をする。
- チーム内では高齢化対策として日頃の助け合いも行う
- 命のバトン（個人情報を記入して冷蔵庫に保管）、防災カード（個人情報カード携帯タイプ）のメンテナンス
- 令和3年度から地域の自主防災隊を解散し見守り愛チームが自主防災隊の役を担う

「命のバトン」令和3年度よりNEWタイプに変更

○ 「命のバトン情報用紙」記入の仕方

＜ご本人情報について＞
生年月日：該当する年号を○で囲み、ご記入ください。
血液型　：お調べになったことがない等、わからない場合は「不明」とご記入ください。
＜医療情報について＞
かかりつけ医療機関の連絡先は、正確に間違いのないよう記入してください。
医療機関は２ヵ所記入できますが、身体状況をよく把握している医療機関を優先してご記入ください。
○ 治療中の病気・今飲んでいるお薬
薬剤情報提供書の写し・くすり手帳の写し・薬袋などを添付していただいても結構です。
＜緊急連絡先について＞
３人以上いる場合は、ご自身の状況を把握している方を優先してご記入ください。
緊急連絡先氏名：ご家族以外の方でも構いません。
連絡先　　：自宅と携帯の電話番号を記入ください。
＜その他伝えたい事＞
その他伝えたい事があれば、別紙に詳細を記入の上一緒に「命のバトン」に保管しておいてください。

○ 注意事項

- 玄関ドアの内側にマグネットシートが付けられている場合は、本人及びご親族等の同意を得ることなく、救急隊が冷蔵庫を開けて「命のバトン」を取り出すことがあります。
- 「命のバトン」は、救急隊が救急活動に必要と判断した場合に活用します。そのため「命のバトン」の保持者であることが分かっている場合でも、その救急活動によって活用されない場合もあります。
- 救急活動において、搬送先の医療機関を決める場合、症状等の状況では救急情報用紙に記載された「かかりつけ医療機関」に搬送されない場合があります。
- 救急情報用紙の記載内容は、定期的に見直し情報に変更がありましたら内容を書き換えてください。
- 緊急情報用紙には１枚に一人分の情報を記入してください。「命のバトン」の容器に入れる時は取り出しやすいように輪ゴムをかけてから入れてください。

○ お問い合わせ

芥見東自治会連合会・芥見東自主防災隊
住所：岐阜市大洞桜台１丁目２６-２（芥見東公民館内）　☎ ０５８-２４１-１０６２

安心・安全

命のバトン

芥見東自治会連合会・芥見東自主防災隊は、地域のみなさんが安全・安心に暮らしていただくために、ニューバージョンの「命のバトン」を自治会加入の全世帯に配布いたします。「命のバトン」の中に入れる「命のバトン情報用紙」にかかりつけ医療機関や、かかっている病気などの緊急時に必要な情報を記入していただきますことにより、救急隊の迅速な救急活動に活かすことができます。また緊急連絡先を記入いただくことにより親族等への連絡を早くつけることができます。

芥見東自治会連合会・芥見東自主防災隊

１１９番通報

この位置にマグネットシートを貼り付けます

玄関ドア内側のマグネットシートで「命のバトン」を備えてあることを確認します。

マグネットシートは救急隊員が発見しやすいように右図の定められた場所に貼ってください。

緊急医療の現場では秒単位の差が生死を分けることも少なくありません。生存率を高めるには、既往症や服用薬などの情報を医療現場に正確に早く伝えることがポイントになります。
「命のバトン」とは、緊急時に必要な医療情報を専用容器（命のバトン）に入れ、冷蔵庫の指定場所に保管し、迅速な救急活動に役立てます。

この位置にマグネットシートを貼り付けます

冷蔵庫のマグネットシートを見て中に「命のバトン」が入っていることを確認。

命のバトン（緊急情報）

有事の際にご利用いただけるように、ご自分の情報を財布などに入れておいて下さい。

冷蔵庫の扉の内側に保管（必須）

冷蔵庫の扉に保管された「命のバトン」の内容を確認し緊急搬送。

見本　命のバトン情報用紙

令和３年　４月　１日記入

救急情報（情報に変更があった場合は、内容を書き換えてください。）

ふりがな	あくたみ　ひがし	性別	男・女
氏　名	芥見　東		
住　所	岐阜市　大洞桜台１-２６-２	☎(058)　２４１－１０６２ 080－２２４３－１０２８	
生年月日	明・大・昭・令　１５年　１０月　２２日		
血液型	A・B・O・AB型　(Rh　＋，－)　・　不明		
かかりつけ医療機関 電　話	病院名：○○○○病院 電　話：○○○－○○○－○○○○		
かかりつけ医療機関 電　話	病院名：○○○○病院 電　話：○○○－○○○－○○○○		
治療中の病気	高血圧・糖尿病		
今飲んでいるお薬 （お薬情報の紙でも可）	○○○○○○○○○○		
その他伝えたいこと （ペースメーカー・透析・体の不自由なところ・アレルギーなど）	ペースメーカー・透析・耳が聞こえにくい・視力・アレルギー等 認知症である、耳が聞こえにくい		

緊急連絡先（市内・または近郊に住む血縁者・ご親類・知人など）

ふりがな	あくたみ　にしお	続柄	あくたみ　みなみこ	続柄
氏　名	芥見　西雄	長男	芥見　南子	長男の妻
電話番号	自宅：○○○－○○○－○○○○		自宅：○○○－○○○－○○○○	
	携帯：○○○－○○○○－○○○○		携帯：○○○－○○○○－○○○○	
住所	岐阜市○○○○○○○○		各務原市○○○○○○○○	

容器の中の救急情報は、救急隊と搬送先の医療機関が、救急医療に活用することに同意します。

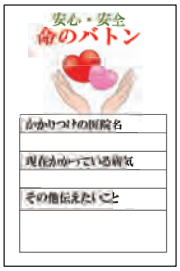
ご本人氏名　芥見　東

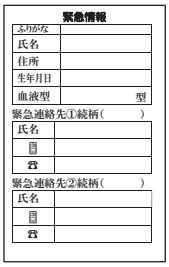
▼ 記入の仕方、注意事項は裏面を参照ください。

☆冷蔵庫に保管していただく私の「命のバトン」

↑
冷蔵庫の上右側と玄関ドア内側に貼るマグネットシール

↑
緊急情報を入れて冷蔵庫の扉に保管する「命のバトン」





有事の際にご利用いただけるように、ご自分の情報を財布などに入れておいていただく「命のバトン」。

救急情報（情報に変更があった場合は、内容を書き換えてください。）

ふりがな		性別	男・女
氏　名			
住　所	岐阜市	電話番号 ☎(058)	
生年月日	明・大・昭・平・令　　年　　月　　日		
血液型	A・B・O・AB型　(Rh　＋，－)　・　不明		
かかりつけ医療機関 電　話	病院名： 電　話：		
かかりつけ医療機関 電　話	病院名： 電　話：		
治療中の病気			
今飲んでいるお薬 （お薬情報の紙でも可）			
その他伝えたいこと （ペースメーカー・透析・体の不自由なところ・アレルギーなど）	ペースメーカー・透析・耳が聞こえにくい・視力・アレルギー等		

緊急連絡先（市内・または近郊に住む血縁者・ご親類・知人など）

ふりがな		続柄		続柄
氏　名				
電話番号	自宅：		自宅：	
	携帯：		携帯：	
住　所				

容器の中の救急情報は、救急隊と搬送先の医療機関が、救急医療に活用することに同意します。

ご本人氏名

第1回防災ワークショップ開催　2022年6月19日（日）

10. 平成24年　小さな手助け開始

「小さな手助け」は社協芥見東支部事業の一つです　この事業はボランティア登録者の善意で成り立つ事業です。

平成24年5月29日設立総会→6月1日より活動開始

「以前出来たことが出来なくなった」
「子どもを呼んだり業者に頼むほどではないことで困ることが多くなった」

高齢者と高齢者が見守り合う地域です。

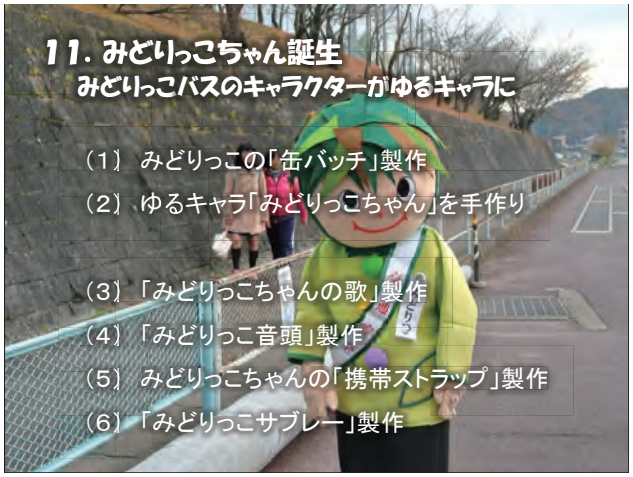
ボランティア人数

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
登録人数	87	52	54	87	83	78	77
活動延べ人数	27	40	49	57	97	91	101
手助け件数	30	27	37	34	55	80	73

依頼者の年齢

年齢（才）	件数		
	26年度	27年度	28年度
60～69	6	0	2
70～79	13	14	7
80～89	14	13	8
90～	0	1	
不明	4	6	2
合計	37	34	19+3団体

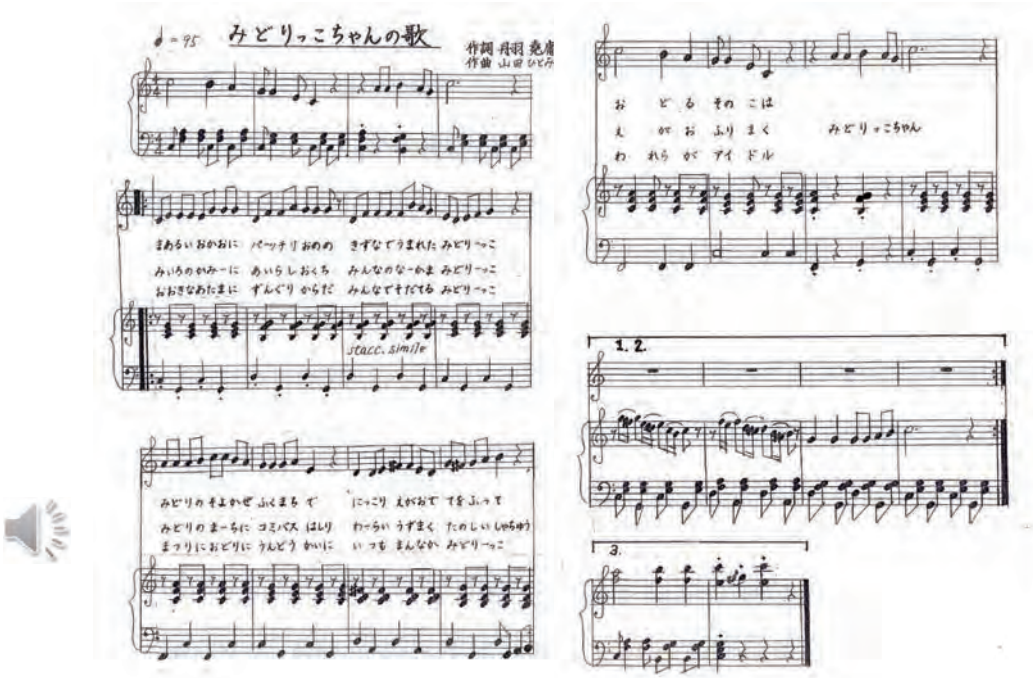
平成30年度手助け内容
- 水道の不具合修理
- 仏間の戸の蝶番修理
- 庭木の剪定（みどりっこハウス）
- 溝の草ぬき
- 剪定
- キウイの枝切り
- 買い物
- サロン（桜台）
- 出張包丁研ぎ
- 雨戸開け閉め（台風）
- 「つどいのひろば」の支援
- 倒れた庭木の立ち上げ（台風）
- 草ぬき（スーパーシニアの一環）
- 分別回収集積場へ出す手伝い



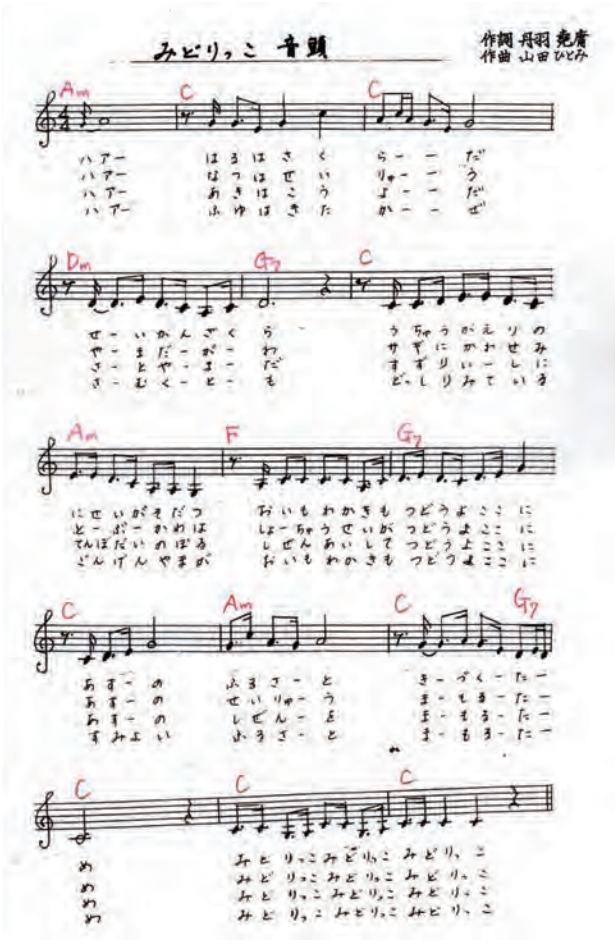
（1） 「缶バッチ」製作（平成25年3月）

（2） ゆるキャラ「みどりっこちゃん」を手作り（平成25年5月）

♪（3） みどりっこちゃんの歌をつくりました　♪（平成25年10月）



（4）「みどりっこ音頭」も
作りました
平成26年2月



「みどりっこ音頭」の振り付けをつくり8月に開催した夏まつり・盆おどり大会で踊りました。

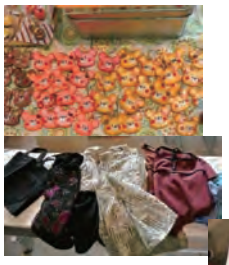
（5）「携帯ストラップ」製作
平成26年4月

（6）「みどりっこサブレー」製作
平成26年5月

13. 平成25年　みどりっこマーケット開始

・コミュニティビジネス「き・ず・な」の会を立ち上げてみどりっこマーケット（ハンドメイドマーケット）を始めました。
・みどりっこマーケットとは、皆さんが趣味で作ってらっしゃるブローチ、財布、帽子、服、カバンなど様々な物をご自分で販売してもらう場所を提供
・初回は平成25年10月にバロー芥見店のセルフレジの前の通路をお借りして2ヶ月に1回開催していました。バローリニューアル後の現在は三洋堂とセリアの間のイベント広場をお借りして2ヶ月に1回開催しています。また、それ以外にもメディアコスモス、清流特別支援学校、岐協苑、芥見東夏まつり・盆おどり大会の会場など様々なイベント時に開催しています。
・回を重ねるごとにリピーターも増え、そんなお客様とのつながりあるいは会員同士のつながりもでき、お客様共々楽しんでいらっしゃいます。

平成２９年５月７日メディアコスモスでのみどりっこマーケット



スピーカー

アンプ

デンモク

マイク

カラオケ機器導入後の様子

ｴﾝｼﾞｮｲｶﾗｵｹｵｰﾌﾟﾆﾝｸﾞｾﾚﾓﾆｰ

カラオケ教室

第１回ふれあいｶﾗｵｹ祭り

12. 平成25年　ワンコインコンサート開始

- 平成25年8月、芥見東音楽同好会を立ち上げ、平成25年9月よりワンコインコンサートを開始
- ワンコイン（500円）の会費で毎月1回第2土曜日に開催

休止中

14. 平成25年　健康落語会開始

（落語もワンコインコンサートと同じ金額、500円会費にて開催）

柳家花いち	平成２５年１１月　９日（土）
桂歌之助	平成２６年　３月　２日（日）
林家花丸	平成２７年　４月１９日（日）
勝[illegible]演芸[illegible]座	平成２[illegible]年　５月２１[illegible]（土）
桂[illegible]奇席	平成２[illegible]年１１月[illegible]５[illegible]（土）
桂[illegible]半[illegible]	平成３０年　９月１５[illegible]（土）
ど[illegible]む[illegible]語	令和[illegible]年１１月　２[illegible]（土）

休止中

15. 平成26年　映画開始

・平成26年9月より毎月開催、会費は300円。年代を問わず名作や有名な映画を上映している。上映が終わると観客から拍手をいただくほどの映画ファンが集まっての上映会です。

休止中

16. 平成27年　山田川ほたる祭り開始

・昭和55年から始めた「山田川に蛍を呼び戻す運動」は、今日まで幾多の困難を乗り越え今では蛍の飼育小屋でふ化した幼虫と、山田川で自然にふ化した幼虫が季節になると乱舞するようになりました。平成4年には藍川東中学校の生徒が丹精込めて製作した蛍の彫刻画像をほたる飼育小屋に贈呈してくれました。
そんな蛍をみんなで観ようと四年前から「山田川ほたる祭り」を始めました。年々参加者が増え「ほたる祭り」は地域に欠かせない行事になりました。

休止中

17. 平成27年　カラオケ機器導入

・地域の活性化のために誰もが気楽に参加できるカラオケをやりたいと以前から考えていました。そんな折、補助金を申請し補助金がいただけることになりましたのでカラオケセットを購入しました。第一興商の移動式カラオケ機器のパーティダムとアンプとスピーカーセットを購入しました。

カラオケ機器導入から現在まで

平成27年　7月27日（月）	カラオケセット購入
平成27年　8月11日（火）	エンジョイ カラオケ オープニングセレモニーの開催
平成27年　8月18日（火）	「カラオケ教室」の開始・・・・・毎週火曜日
平成27年12月　6日（日）	第1回ふれあいカラオケ祭りを開催（東部コミセン）
平成28年　4月10日（日）	第1回お花見・カラオケ春祭りを開催（岐協苑）
平成28年　7月10日（日）	第18回東部歌謡「歌の祭典」に参加者を募って参加
平成28年　8月　6日（土）	夏まつり・盆おどり大会が始まる前、正午から体育館にて
平成28年12月11日（日）	第2回ふれあいカラオケ祭りを開催（東部コミセン）
平成29年　4月　1日（日）	第2回お花見・カラオケ春祭りを開催（岐協苑）
平成29年　7月　9日（日）	第19回東部歌謡「歌の祭典」に参加者を募って参加
平成29年12月10日（土）	第3回ふれあいカラオケ祭りを開催（東部コミセン）
平成30年　4月　7日（土）	第3回お花見・カラオケ春祭りを開催（岐協苑）
平成30年12月　9日（日）	第4回ふれあいカラオケ祭りを開催（東部コミセン）
平成31年　3月30日（土）	第4回お花見カラオケ春祭りを開催（岐協苑）
令和　3年12月12日（日）	第5回ふれあいカラオケ祭りを開催（東部コミセン）

各種 カラオケの祭典

NO1

第１回お花見・ｶﾗｵｹ春祭り

東部歌謡歌の祭典に参加

夏まつり ふれあいｶﾗｵｹ

第２回ふれあいｶﾗｵｹ祭り

第２回お花見・ｶﾗｵｹ春祭り

第３回ふれあいｶﾗｵｹ祭り

NO2

第３回お花見・ｶﾗｵｹ春祭り

第４回ふれあいｶﾗｵｹ祭り

第４回お花見・ｶﾗｵｹ春祭り

第１回ふるさとｶﾗｵｹ祭り

「自治会だより」より抜粋

カラオケクラブ　一年を顧みて思う！

―紅葉が丘支部・KYさん

平成27年8月のカラオケクラブ発足後、私はひと月遅れで加入した。退職して、20年近い私は、人との会話も少なく、日課としていた散歩で、出会う人との挨拶ぐらいしかなく寂しい思いをしていた。また、後期高齢者で歌をうたうことができるか不安と、午前中の発声に少々抵抗があったが。日が経つにつれそれも慣れ、クラブ仲間の拍手等々に気分も良くし、仲間との会話もできる喜び、月4回の歌も、2回は舞先生の指導、助言もいただき、幸せいっぱいの今日である。70歳過ぎれば、10人以上の人たちと会話できない人間は惚(ぼ)ける確率が高いと言われておりその点は大いにカバーされたことと思う。

12月には「ふれあいカラオケ祭り」が催され、60数名の参加で大盛況であった。作詞家の小木曽先生の寛大な高評に、みなさんも楽しいひと時であった。1月にはクラブ新年会も開かれ、7月には「歌の祭典」に150名弱ののど自慢者が集まり大いに盛り上がった。8月には「夏まつりふれあいカラオケ」で中高生を交えて平素ならした歌声で祭り前半の盛り上げに一翼を担ったことは嬉しい限りであり、また色々企画してくださるスタッフの方に感謝の念でいっぱいです。

より多くの人がクラブに加入され、共に歌っていこうではありませんか。

卒寿を迎え　私の居場所が見つかりそう

―紅葉が丘支部・UKさん

小生、今年9月に卒寿になり市より萬松館にて祝福を受けました。岐阜市で90歳以上は約5，500名、そのうち100歳以上は約150名とのこと、高々齢者の多いのに驚きました。

この地区も高齢者が多く、コンパクトシティー化され何もかも揃っている地区なのですが、高齢者の生き様が問題です。体力・知力も衰え物覚え、物忘れ認知症の気配を感じられる私たち高齢者は孤独感に悩んでおります。

しかし、無味乾燥な日々の生活より抜け出したいと思っておりましたところ、芥見東公民館で「カラオケ教室」があることを聞き伺いました。皆様和やかな人々で、居心地の良い所と感じ4月に入部いたしました。高々齢者の私の下手で聞くに堪えない歌でも拍手をいただき、お世辞と感じながらも楽しく歌っております、私の居場所が見つかりそうです。

私の今後の人生訓は「ケ・セラ・セラ～なるようになるわ～」後のことなどわからないです。また、クラブでは自己陶酔になったり、自己嫌悪になり様々ですが楽しく、地域の人々とも仲良く暮らしています。

住みやすく ホタル舞う こころ豊かなまちで子育てを！

芥見東地区全景

大洞緑団地

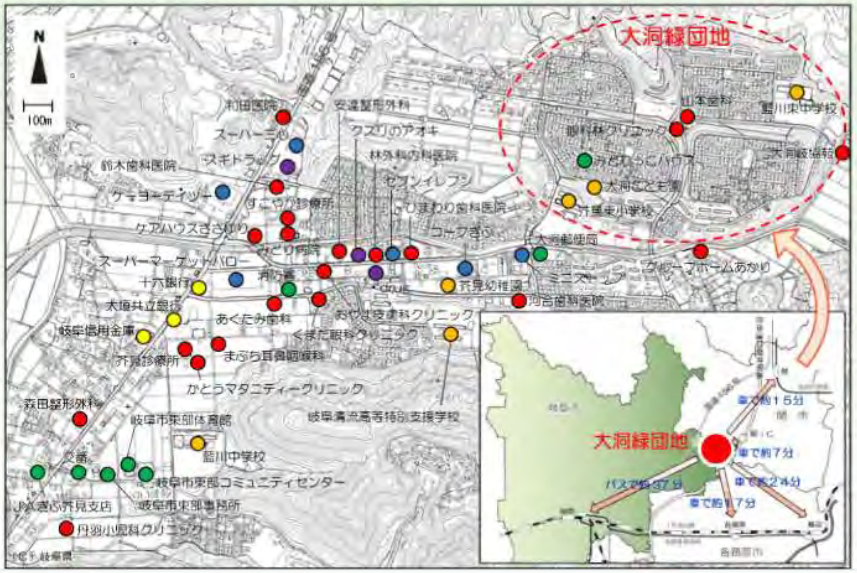
【地区名】芥見東

【団地名称】大洞緑団地
「大洞桜台」、「大洞柏台」、「大洞桐が丘」、
「大洞紅葉が丘」を総称した名称

【住民規模】平成27年国勢調査

「桜台」	1,423人600世帯
「柏台」	1,255人512世帯
「桐が丘」	650人250世帯
「紅葉が丘」	922人364世帯

【中古住宅販売価格】690万円（平成30年 実績値）



地域の皆さんに聞いてみました

【団地居住歴15年のSさん】

◆大洞緑団地に住んで…

団地に住み始めたばかりの頃は不安もありましたが、散歩やジョギングをしている方が多く、互いに笑顔であいさつし合うのを見て、人のつながりを大事にして安心して暮らせるまちだと感じました。

今ではこの団地の生活にも慣れ、地域で行われるほたる祭りや夏祭りを毎年楽しみにしています。

★大洞緑団地の魅力

児童館やこども園ではたくさんの集会があるので、近所の子ども同士が仲良くなれますし、スポーツ少年団も地域の方が教えてくださるので、安心して子育てができる環境です。

大洞緑団地在住のSさん家族

【団地居住歴6年のTさん】

◆大洞緑団地に住んで…

最初は、勤務地に近く、中古住宅が手頃な価格で販売されていたため、この団地に住むことを決めました。

実際に住み始めると、自然が近く、四季折々の景色が楽しめますし、子ども達も秋にはどんぐりや松ぼっくり集めなど、自然の中で遊ぶ事を楽しんでいます。

【団地居住歴43年のTさん】

◆大洞緑団地に住んで…

団地に住んで約半世紀。「ここはいいわ、空気がいいし、店はあるし、学校も幼稚園も病院も揃って」散歩途中の休憩に仲間と交わす言葉です。

東日本大震災を機に、孫の安全と育児環境が第一と考え、関東に住んでいた娘一家を呼び、今は一緒に暮らしています。ビルの一角にある保育園で駆け回る庭もなかった孫は今、豊かな自然環境の中でのびのび育っています。

★地域の主なイベント年間スケジュール★

4月 お花見・カラオケ春祭り

6月 ほたる祭り

8月 夏まつり・盆おどり大会

10月 市民運動会

12月 ふれあいカラオケ祭り

8月 のイベントのお知らせ

【 夏まつり・盆おどり大会 】

○平成30年8月4日（土） 午後4時～8時

○芥見東小学校グラウンド
（岐阜市大洞桜台1丁目2）

○問合せ先
芥見東まちづくり協議会
電話：058-241-1062

昨年の様子

地域最大のイベントです
みなさんぜひご参加ください

1年中たのしいイベントがいっぱい！

◆発行年 平成30年7月
◆発行元 芥見東まちづくり協議会

18. 平成28年　みどりっこハウスオープン

・空き家を利用しての地域活性化、社会福祉協議会が主体となって取り組んでいます

平成２８年１２月１８日オープン式
- ・子ども未来塾
- ・三世代交流

水曜日
　将棋、囲碁、その他、お喋りなど
土曜日
　介護相談など
　将棋、囲碁、その他、お喋りなど
　読み聞かせ、未来塾など

お喋り

みどりっこハウス

子ども未来塾

これからの活動

空き家の維持管理をする（コミュニティビジネス）

- 大洞緑団地の暮らしやすさや魅力のPR→リーフレットを作成（岐阜市と共同）して不動産業者、通勤圏内の企業へリーフレットを配布など。
- 当地区の空き家は83軒（岐阜市調べ）、所有者は維持管理に困っている。空き家バンクに情報を掲載（岐阜市）して販売する。
- 空き家の維持管理をコミュニティビジネスで行おうと、芥見東まちづくり協議会に属した「NPO法人まちつくろう会GIFU」を令和2年（2020年）10月22日に立ち上げました。管理は、定年退職後、家に閉じこもっている地域のシニアのみなさんを募り、定期的に見回ってもらい維持管理をしてもらい謝礼金を支払う。草などが生えてきたら所有者に連絡して別料金にて作業を請け負う形で計画中です。そうすることによりシニアのみなさんも目的を持った生活ができると考えています。

19. 平成30年～　婚活

- **・安心して子育てのできる町**
- **・地域が子どもを育てる町**
- **・高齢者が元気な町**
- **・文化のある町**
- **・コンパクトシティの維持と充実**
- **・地域住民が家に閉じこもらない町**

・こんなまちづくりを進めればここに住みたい人がおのずと増え、若い人達がこの地に所帯を構え町が元気になる。

これからの活動

20. 平成29年 ヤングサポーターズクラブ

・我が故郷の今後のあり方に対して一緒に思い、悩み、行動する若者を募集して当地域で活躍する若者を育てる

令和2年8月22日（土）に行なった「NPO法人まちつくろう会GIFU」の設立総会の様子

住みやすく ホタル舞う
こころ豊かなまちで子育てを！

芥見東地区全景

大洞緑団地

【地区名】芥見東

【団地名称】大洞緑団地
「大洞桜台」、「大洞柏台」、「大洞桐が丘」、「大洞紅葉が丘」を総称した名称

【中古住宅販売価格】６９０万円（平成３０年 実績値）

【住民規模】平成27年国勢調査

「桜台」	1,423人	600世帯
「柏台」	1,255人	512世帯
「桐が丘」	650人	250世帯
「紅葉が丘」	922人	364世帯

大洞緑団地
車で約15分
車で約7分
車で約24分
車で約17分
バスで約37分

地域の皆さんに聞いてみました

【団地居住歴15年のSさん】

◆大洞緑団地に住んで…

団地に住み始めたばかりの頃は不安もありましたが、散歩やジョギングをしている方が多く、互いに笑顔であいさつし合うのを見て、人のつながりを大事にして安心して暮らせるまちだと感じました。

今ではこの団地の生活にも慣れ、地域で行われるほたる祭りや夏祭りを毎年楽しみにしています。

★大洞緑団地の魅力

児童館やこども園ではたくさんの集会があるので、近所の子ども同士が仲良くなれますし、スポーツ少年団も地域の方が教えてくださるので、安心して子育てができる環境です。

大洞緑団地在住のSさん家族

【団地居住歴6年のTさん】

◆大洞緑団地に住んで…

最初は、勤務地に近く、中古住宅が手頃な価格で販売されていたため、この団地に住むことを決めました。

実際に住み始めると、自然が近く、四季折々の景色が楽しめますし、子ども達も秋にはどんぐりや松ぼっくり集めなど、自然の中で遊ぶ事を楽しんでいます。

【団地居住歴43年のTさん】

◆大洞緑団地に住んで…

団地に住んで約半世紀。「ここはいいわ、空気がいいし、店はあるし、学校も幼稚園も病院も揃って」散歩途中の休憩に仲間と交わす言葉です。

東日本大震災を機に、孫の安全と育児環境が第一と考え、関東に住んでいた娘一家を呼び、今は一緒に暮らしています。ビルの一角にある保育園で駆け回る庭もなかった孫は今、豊かな自然環境の中でのびのび育っています。

★地域の主なイベント年間スケジュール★

4月 お花見・カラオケ春祭り

6月 ほたる祭り

8月 夏まつり・盆おどり大会

10月 市民運動会

12月 ふれあいカラオケ祭り

8月のイベントのお知らせ

【 夏まつり・盆おどり大会 】

○平成30年8月4日（土） 午後4時～8時

○芥見東小学校グラウンド
（岐阜市大洞桜台1丁目2）

○問合せ先
芥見東まちづくり協議会
電話：058-241-1062

昨年の様子

地域最大のイベントです
みなさんぜひご参加ください

1年中たのしいイベントがいっぱい！

◆発行年 平成３０年７月
◆発行元 芥見東まちづくり協議会

アットホームなまちへいらっしゃい！

暮らしの便利がいっぱい

スーパーマーケット、銀行、郵便局など、日常生活に必要な施設が周辺に揃っており、生活利便性が高いです。

医療が充実

日常の医療に加え、出産から子育て、高齢者向けの医療施設や介護関連施設が整っています。

地域の安全

消防署が近くにあり、救急車、消防車の出動は迅速です。また、地域住民で消防団、水防団、防犯パトロール隊も組織され、地域の安全な生活を守っています。

子ども達の安心

団地内にこども園、小学校、中学校が集約しており、子どもが成長しても通学しやすいです。また、通学時には交通量の多い交差点等に“ふるさとよくし隊”が立ち、子ども達が安心して通学できるよう見守っています。

みどりっこバス

団地内各所と周辺施設を周回するコミュニティバスは、平日は1日16便が走り、地域住民の大切な脚となっています。

暮らしやすい 安心・安全 こころ豊かに つながるまち

みどりっこちゃん

近所のつながり

平常時のつながりを大切にし、非常時に助け合いができるよう、「向こう三軒両隣」を1グループとした“見守り愛チーム”など、日頃から相互の見守りを行う取り組みをしています。

みどりっこハウス

3世代交流を目的に、空き家を利用してオープンしました。子育て支援、児童の学習支援、認知症カフェ、パソコン教室など、いつでも集えるサロンです。

豊かな環境の中で

地域には昔ながらの里山が広がり、夏になると山田川にホタルが舞うなど、四季折々の豊かな自然に接することができます。

21. まとめ （1）きずなづくり

- 男性の苦手な井戸端会議をする場所が少ない。そんな場所をこの地域の方々に作れば、苦手な井戸端会議も始まり絆づくりもでき地域の活性化ができる（※ 道端或いはどこにでも椅子を置けば井戸端会議の会場になる）。
- 一小一中のこの地域は平成25年度に小中共にコミュニティスクールの指定を受け、子どもたちと地域のつながりが盛んな地域です。そのつながりを一部の人たちだけでなく、この地域に住む人たちみんながつながるような行事をしていく必要がある。また、令和3年度より小中一貫校の藍東学園になりますます子ども達と地域のつながりが強くなるような活動にしていく必要がある。
- 自主防災隊に組み込んだ見守り愛チームで、防災の取り組みをチームとしてみんなで考えることによって、チームのつながりづくりをする。

まとめ （2）まちづくり協議会の充実

・まちづくり協議会を平成19年1月に立ち上げたが本来の目的である、地域の連携力強化、地域のみんなが主体的に「安全で快適な魅力ある話し合いによるまちづくり」が進んでいない。
・平成30年3月の総会においてまちづくり協議会の組織を変更し、地域の企業とその他の組織にも参画してもらい情報の共有をはかり、地域が一体となってまちづくりを進める。
・平成30年4月のまちづくり協議会を皮切りに、まちづくり協議会の開催を多くして情報の共有、人と人のつながり作りをする。（平成30年度は8回開催）
・平成30年度は「夏まつり・盆おどり大会」を主催しました。
・平成31年度は「芥見東市民運動会」を主催しました。それに伴って名称を「芥見東市民うんどうかい」に変更しました。また、「市民うんどうかい」を三世代交流の場にしようと子どもたちを中心にした「うんどうかい」にしました。

平成30年4月28日（土）に「みの観光ホテル」で開催したまちづくり協議会

まとめ（3） 故郷づくり 藍川東中学生のボランティアが盛ん

※ 息の長い活動になりますが、子どもたちの故郷づくりをすることが一旦出て行った子どもたちがいつか「故郷はいいな」と思い、故郷に帰って来ると信じて。

道端或いはどこにでも椅子を置けば井戸端会議の会場になると
みどりっこバスのバス停に置いたベンチ。

ミニストップのバス停に置いたベンチ

森田整形外科のバス停に置いたベンチ

つながりを作ろうと「みの観光ホテル」で開催の敬老会

←チラシ

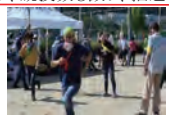
↓自治会だよりに掲載された文章

中学校P 笑顔溢れるうんどうかい

一藍川東中学校ＰＴＡ

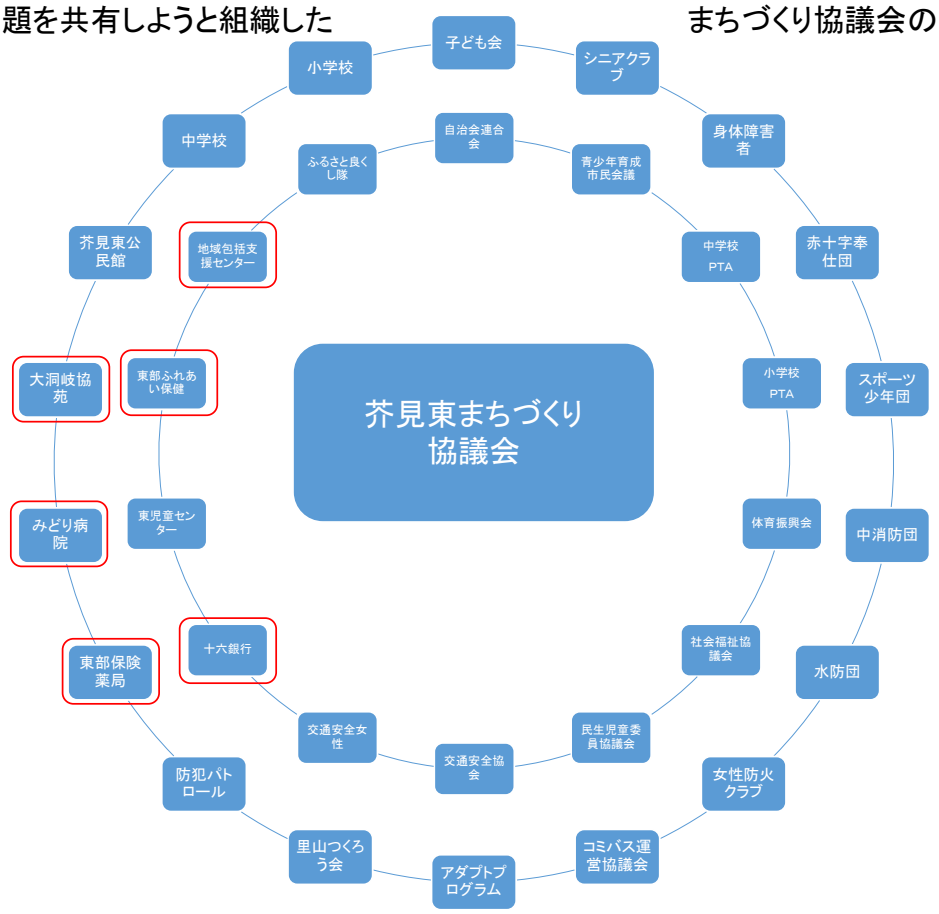
10月6日（日）「第45回芥見東市民うんどうかい」が開催されました。芥見東まちづくり協議会の会議では「お年寄りから小さな子供まで、みんなで楽しめる運動会を･･･」と何度も熱い話し合いを重ね、その日を迎えました。

今年は、半日だけの開催にし、競技数も減り、抽選会もなくなりました。どんな会になるのかなと思っていましたが始まってみると、そこには笑顔、笑顔、笑顔！ どの競技を終えた人からも笑顔があふれ、競技には参加できないけれど応援だけというおじいちゃまおばあちゃま方もみな笑顔になっていました。

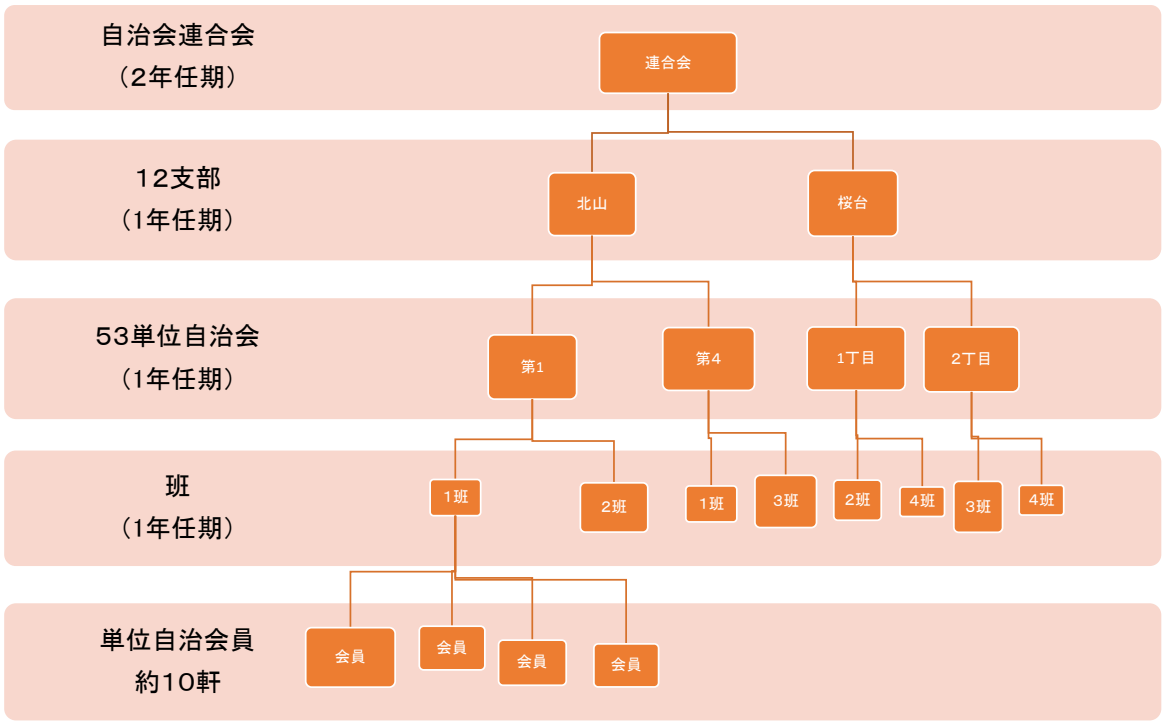


体力などの違いから運動会の楽しみ方はそれぞれですが、同じ時間を共有し、その場の空気を一緒に感じることで生まれる感動も、思いやりの心、明日への希望があると思います。中学校は、準備の段階から40名以上のボランティアの子が関わらせていただきました。幅広い世代の人たちが集まる市民うんどうかい。来年も楽しみです。 □■

地域の課題を共有しようと組織した　　まちづくり協議会のメンバー



芥見東の自治会組織



※　少子高齢の実情に合わせるため班の統合、自治会の統合などを考える時に来ている！

わがふるさと　大洞の町（平成6年10月13日）

作詞　棚橋美奈（藍川東中学校一年）

作曲　堀田美由紀（藍川東中学校三年）

せせらぎ　やさし　山田川
消えては　光る　ほたる灯に
子らの手をとる　人のかげ
心　やすらぐ　大洞の町

歴史を語る　ふるさとの
さぎ草　ひなぎきょう　しでこぶし
幸せあふれる　住む人の
とわに　いとしき　大洞の町

終

ご清聴ありがとうございました

芥見東のまちづくりはまだまだ続きます、町が人をつくる・人が町をつくる。あなたと町をつくる芥見東です。

芥見東の活動はホームページにてご覧ください。
「芥見東のまちづくり」で検索をお願いします

8. まちづくりの担い手としての高校生と岐阜市・高校の協働について

(1) はじめに

2021 年度に関市のまちづくりを検討した『関市のまちづくりの現状と課題』[1]につづいて，2022 年度，当センターでは富樫理事長を中心に岐阜市との共同研究として『岐阜市のまちづくりと市民活動』を進めることとなった．私も“はずみ”で関わることになり，岐阜市の高校生に対するまちづくりの担い手育成の可能性を担当することとなった．最初から言い訳をすることになるが，私はこの領域の専門家ではなく，研究手法もよくわからないため，他の分担者とは違って，私の担当は，高校生というこれからのまちづくりの担い手に岐阜市がどのようにアプローチしているのか，若年者層との協力関係は築けないのかといった面から，一部関係者に聞き取りをしたものをまとめ，感想めいたものをつけた，というものにすぎない．

さて，共同研究のテーマでの検討をすすめるにあたり，岐阜市のある職員の方と話す機会があり，その場では，できれば，ちいきづくり（地域活動）を扱ってほしい，より具体的にいえば共助の担い手確保にもスポットをあててほしい，という控えめな要望も受けた．様々なちいきづくりにおいて，特に共助において，いままで自治体は加入も設立も任意であるところの自治会・町内会を頼みにしていた．しかし，それらへの加入率の低下，主力の高年齢化等により，ますます共助の部分が減り，その分，今後，公助が増えることが懸念される．また，その地域の活力や安心感が失われ，地域全体の衰退につながる可能性もある．逆に，ちいきづくり活動や共助に若い世代の参入があれば，活力がもたらされ新しい視点も加わり，もしかするとその地域の魅力が増加し，ひょっとすると地域振興につながる望みも捨てきれない．そうした思いに由来する要望だったのだと思われる．

若い世代にシビックプライドを醸成することで，他地域への転出を抑制し，人口を確保したい．また，ちいきづくり活動に関心を持ってもらい，あわよくば共助の担い手として実際に活動してもらいたい．そうした思いをもって，それぞれの自治体では様々な取り組みがなされている．大学でも，研究教育と並んで位置づけられている「社会連携」という大学の果たす役割があり（そうしないと大学は生き残れないという危機感[2]），その一環としてそれらの事業に協力することが多くなっている．筆者が所属する大学学部でも，いままで岐阜市，高山市，恵那市，中津川市，関市等で，「高校生のためのまちなかオープンカレッジ」なるイベントを開催している[3]．地域をよくしたいと頑張っている人や，地元で長年事業に取り組んでいる人，若い感性で事業展開をしている人等に登壇していただき，その実践を紹介しつつ，大学教員からも関連する講義を提供し，「ちいきづくり」に高校生が興味をもってもらうことを通して，ちいきづくりの担い手育成（というよりまずは担い手発見）に取り組んでいる（共助については我々もないがしろにしてはいないのであるが，まずは地元定着を優先した内容となっている）．市役所職員の方々と高校の先生方と協働で創っているイベントである。大学の学部主催として開催してきたため，学部への進学に興味のある高校生が参加していることを差し引いても，アンケートでは大変に高評価であり，地元や地域そのものに興味関心を持つ若年者層が一定数いることがわかる．

今回，こうした意識をもちつつ，岐阜市のちいきづくり人材獲得のための，特に高校生へのアプローチについて述べてみたい．そのために高校現場の取り組みについても紹介しつつ，ニーズとギャップについて示しておこうと思う．

1　岐阜県地方自治研究センター・関市・岐阜大学共同研究・報告書『関市のまちづくりの現状と課題』自治研ぎふ 2022 年 3 月．

2　例えば岐阜大学では地域協学センターという部局があり，「地域を知り，地域の課題を見つけ，地域の課題解決に向けて貢献できる「次世代地域リーダー」の育成（次世代地域リーダー育成プログラム），地域の課題解決に向けた研究の推進（地域志向学研究），地域の課題解決に向けて多様な人びとが対話し，新たな価値を創造する「対話・共創の場」づくり（ぎふフューチャーセンター）等の取組」を実践している．参照，地域協学センター HP<<http://www.ccsc.gifu-u.ac.jp/>>.

3　関市は 2021 年度に岐阜大学地域科学部主催としてオープンカレッジを開催したが，2022 年度からは，関市が「関なかサーチ」として主催し，岐阜大学地域科学部は共催として協力する体制となった．

(2)「地域社会の支え手」に対する期待

① 第 32 次地方制度調査会の答申

これまでも，国や自治体はソーシャルキャピタルの重要性をうたいつつ，共助の層を厚くしようと試みてきたが，問題解消にいたっていない．共助に関する問題意識・期待は，第 32 次地方制度調査会の答申においても，公共私の連携という項目として示されている．

この答申において，基本的な考え方として，地域資源の減少にも関わらず，住民ニーズ・地域課題の多様化・複雑化が進むこと，そしてこれまで家庭，市場，行政が担ってきた機能の今後の担い手として組織の枠を超えて行政，コミュニティ組織，ＮＰＯ，企業等が期待されるとする．そして共助の担い手として，都市部は地縁による共助より NPO や企業等の多様な主体を，地方部では地縁による共助の方に期待をしつつも，どちらも担い手不足が懸念されることが示されている．また，各主体の連携協力の重要性が示される．

肝心の担い手については，「共助の担い手の活動基盤の強化」という項目をたて，多様な住民が継続的に活動に関わるための仕組みづくりや，人材，資金，ノウハウ等の確保へむけた支援等を，市町村が積極的に行うことを求めつつ，（1）地縁法人制度の再構築，の他に，（2）人材・資金の確保等（①地域人材の確保・育成，②外部人材の活用，③活動資金の確保・多様化）について言及があるにすぎない．このうち①については，地域課題に取り組む担い手，コミュニティ組織の人材，リーダーの確保・育成のための育成の場の設定や多世代の知識・技能の習得や交流を通じて人材確保・育成の仕組みをしてはどうか，ということは書かれている．しかし，その人材確保・育成の具体的仕組みをどのようにつくればいいのかについては，当然のことながら答申レベルには示されておらず，各自治体にお任せである．

② 自治体の諸活動――関市の場合

2021 年度，当センターで検討した関市では，高校生・大学生をちいきづくりに呼び込むために，「せきららゼミ」（大学生対象），若者活躍推進事業「VS プロジェクト」，「関なかサーチ」といった事業を展開している[4]．関市の形の V と関市の S からとったという VS プロジェクトは，関市内に在住・在学の高校生を対象としたまちづくりプロジェクトである（平成 29 年度から開始）．これに応募すると，一定期間，高校生は関わることになる．この活動は，主として 3 タイプに分けられる．第 1 に高校生にミッションを与え，高校生はそれに高校生ならではの感性や手法でのぞみ，関市の魅力的なヒト，モノ，コトの情報発信をする．第 2 にチーム別プロジェクトとして，チームごとに自分のやりたいことを形にするものがある．これには，役所やその企画に精通する方の協力を得ながら，高校生がみずから事業展開をする．第 3 に他団体との交流として美濃加茂市の高校生団体「地域活性化スクール若者未来創造部」との交流，全国規模で開催される「全国高校生まちづくりサミット」の開催や参加などを内容としている．関なかサーチは，先に紹介した岐阜大学地域科学部主催の「高校生のためのまちなかオープンカレッジ」を関市主催にしたうえで，名前もリニューアルしたもので単発のものである（一日で終わる）．内容は，まちあるきをしつつ，地元企業や商店街の方々の経営についてうかがったり，ちいきづくりの苦労と楽しさをヒアリングし，それを KJ 法でまとめ発表し，あわせてちいきづくり・まちづくりに関する大学教員からの講義を受けてもらう．フィールドワークを織り交ぜながら，ちいきづくりに関心をもってもらうメニューとしている[5]．

ちいきづくりに，これらイベント参加者が今後も継続して関わることを成果とするのか，興味・関心を持ち理解をしたことをもって成果とするのか等で評価がわかれるため，これらの事業の効果を評価することは難しいが，さしあたり参加者の満足度は高い，または高いときく．

4　VS プロジェクトについては，関市 HP<<https://www.city.seki.lg.jp/category/4-18-1-0-0.html>> 参照．
関なかサーチについての実施報告については，これも関市 HP 参照．<<https://www.city.seki.lg.jp/cmsfiles/contents/0000018/18625/R4.08.22houkoku.pdf>>.

5　これらの事業は，中核となる関市役所の若手職員の熱意と工夫ではじまったが，形にするまでは当然苦労もあったようである．関市にある高校に出向き，ちいきづくりに熱心な教員との関係を築き，あるいはすでに築いていた関係を駆使し，企画し，実施するというところから始めるのであるから，手探りの作業であったと思われる．「まちなかオープンカレッジ」あらため「関なかサーチ」を行うに当たって，大学側と関市側でなんどか打合せをするのは当然のことであるが，大学の教員と関市職員で関市内の複数の高校に出向いて，趣旨説明と協力をお願いにあがるなど準備にも相当の時間と労力をかけていた（これには富樫理事長（当時は岐阜大学の教員として）と三谷が同行した）．

③ まちづくりプログラムと高校生の反応と評価

現行の学習指導要領（平成 30 年告示）では，社会参画とともに他者との協働により課題を解決することが求められ，主権者として，持続可能な社会づくりに向かう社会参画意識の涵養やよりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度の育成が求められている（地理歴史解説及び公民解説）．それより以前の学習指導要領にはほとんど登場しない「協働」という言葉が頻出するなど，地域社会との連携による教育が求められるようになっている．

まさに「ちいきづくり」ないし「地域連携」はこうした教育現場における要請にうってつけのテーマであることもあり，高等学校側においても，行政と住民の協働，住民同士の協働（共助）の実践を生徒に体感してもらうニーズはあるように思われる．そして，実際に，生徒が，地域活動に参加するプログラムを体験することで，学習意欲の向上，問題意識の深化，社会課題に対する当事者能力の向上が見られるという報告もあり，且つ，生徒だけでなく地域への一定の成果もあることが指摘されている[6]．

例えば 2017 年度から行われている「市ヶ尾ユースプロジェクト（中高生と地域人材によるまちの未来づくりプログラム）」に参加した生徒の満足度を評価した研究がある．このプロジェクトは，横浜市青葉区，区内の中学校，高等学校，地域在住の者が協働して行っているもので，「都市部の進学校が地域協働を実践するモデルとして先駆的なもの」とされ，社会の中核たる人材の育成を教育目標の一つとして掲げ，「豊かな経験を持つ大人と中高生が力を合わせ，まちづくりの課題やまちの魅力アップに取り組むことで，多世代交流による子ども・若者の育成支援を行う活動」となっている．取り組み内容は，年間に 10 回のワークショップを中心に，複数のチームがそれぞれ課題を与えられ，中高生と大人が一緒になって考える提案する，というものである．たとえば地場食材，直売所などをアピールする，スタンプラリーを通して地域をどうアピールしたら良いか，グッズ製作を通じ区のキャラクターに愛着をもってもらうにはどうするか，スマホ講習会を通じ世代間交流を進めるにはどうしたらよいか，等の課題である．意識調査の結果として，地域協働の取り組みが社会参画の意欲や効果に直接影響を与えるかどうかは不明であるものの，学習意欲や行動に影響を与える可能性があり，地域との連携による取り組みが学習意欲の向上に影響を与え，社会参画の意欲等は総合的な探求の時間を地域との協働で進めることで醸成されうることが示されたという[7]．

また，飯田市では，飯田長姫高校（現飯田 OIDE 長姫高等学校商業科），松本大学，飯田市の三者のパートナーシップ協定に基づいて，高校生が地域理解を深め，地域での生き方を考え，郷土愛を育むことを通じて地域を担う人材を育成することを目的とした教育プログラムの「地域人教育」を 2011 年から始めている[8]．3 年生が 1 年にわたり，企業，公民館，地域住民らと伝統文化や工芸品の PR，商店街の活性化，農産物の生産販売，情報発信等のテーマで地域連携企画・実践に取り組み，最終的には提言をする，というものである．こうした取り組みの成果としては，卒業後も地元に残りたいとの希望が大幅に増え，「地域人教育」に魅力を感じ，この高校に進学したいという中学生も増えているという．さらにこのプログラムをきっかけに自主的なまちづくりサークルが結成されるなどの波及効果もあるという[9]．

こうした高評価はこれらのイベントならではのものでもないようである．三菱 UFJ リサーチ＆コンサルティング株式会社が実施した「高校生活と地域に関するアンケート」が参考になる．これは，新学習指導要領が目指す「社会

6　倉岡正高「中高生と地域の大人による課外活動が社会参画意識と学習意欲にもたらす効果――地域との協働を基盤とした総合的な探求の時間の取り組みに向けた可能性――」神奈川大学心理・教育研究論集 47 号 42 頁参照．また浦崎太郎「高校生と地域活動：『社会を創り出す』人材は学校教育だけで育成できるか？」社会教育 72 号 36-41 頁（2017 年）．

7　参照，前掲（注 6）倉岡 52 頁．

8　広報いいだ 1093 号 3 頁（2019 年）．<< https://www.city.iida.lg.jp/uploaded/attachment/38245.pdf>>
白戸洋「人を育て地域を育てる『地域人教育』」教育 866 号 10 頁（2018 年）等参照．

9　参照，白戸・前掲（注 9）16 頁．なお，小中についての取り組みについて，例えば，宮前耕史他編『持続可能な地域づくりと学校』（ぎょうせい，2017 年）がある．北海道の浦幌町で展開される「うらほろスタイルふるさとづくり計画」の事例を中心にした研究であるが，全国の事例もあわせて紹介されている．岐阜市のコミュニティスクールの状況について安井智恵「コミュニティ・スクールを核とした地域創造の可能性―子ども・大人・地域をつなぐ岐阜市のコミュニティ・スクールの展開―」がある（87-123 頁）．なお岐阜市立商業高等学校の「市岐商デパート」も，地域との連携で実際に商売のプロセスと楽しさを学ぶ貴重な体験プログラムとなっているが，ここでは扱わない．

に開かれた教育課程」に関して，“探求的な学びの場として着目される地域社会”と，“地方創生の新たな担い手として期待される高校・高校生”との関わりについて実態と意識に関するアンケート調査である[10].

このアンケートの中で，高校生の地域貢献への意識について，

○「将来の国や地域の担い手として積極的に政策決定に参加したい」29.1％

○「地域をよりよくするため，私は地域における問題に関与したい」28.8％

○「自分の住んでいる地域をよくするために何をすべきか考えることがある」26.4％

○「将来，自分の住んでいる地域のために役に立ちたいという気持ちがある」38，5％

○「私の参加により，変えてほしい社会現象が少し変えられるかもしれない」30.7％

となっている．どれも 30％前後であり，これを高いとみるか低いとみるかは分かれるところと思われるが，希望のもてるレベルではないかと思う．

最後にこの調査では 2 以上の質問の回答内容をかけ合わせ，回答者属性ごとの違いを見るクロス集計をしている．結果は高校時代における地域社会や地域の大人との関係性が深いほど定住の意向が高い傾向がみられるという．そこからいえば先述した飯田市の事例は好例といえる．高校現場は学習指導要領でめざす教育内容の充実のため，そして，人口流出をふせぎたい自治体にとっても，高校での学びにコストをかける，関与する意義がある，というデータであったと思われる．「ちいきづくり」に接する機会を増やすことが，定住だけでなく参加のきっかけになるということでもあろう．

(3) 岐阜市と高校のそれぞれの状況

各自治体で，高校生を対象とした事業展開がすでになされている．すでに関市の例は紹介したが，ここでは岐阜市のちいきづくりの循環を支える高校生へのアプローチ状況を，岐阜市，高校側の双方から事情をみておきたい．

① 岐阜市の体制と状況

高校生に対するアプローチを岐阜市ではどのように位置づけているのだろうか．

岐阜市は，岐阜市住民自治基本条例に基づいて，住民自治の推進を図るべく，「岐阜市協働のまちづくり推進計画 2018 － 2022」を策定している[11]．この計画は，「市民はまちづくりの主権者である」ことを市政運営の基本とし「明日の住民自治像」の実現にむけて構成されているという．その基本方針は，第 1 に市民の市政参加の促進，第 2 に多様なまちづくりの主体の育成と協働，第 3 に総合行政の推進，と三本柱になっている．

この第 2 の柱を実現するための重点推進施策として，①地域との協働～多世代交流・共生のまちづくり推進～，②生涯学習によるまちづくり，③より良い公共の創出，④中間支援機能の充実，⑤自発的なまちづくり活動の醸成，

10　調査対象は国公立高校に通う現役高校生（515 サンプル）及び 20 歳以下の公立高校卒業者（515 サンプル），調査期間は 2018 年 2 月 2 日～ 4 日，調査方法はインターネットアンケート調査である．

このアンケートのなかで，「地域社会の魅力や課題について自主的にテーマを設定し，フィールドワーク等を行いながら調べ，考える」という学習活動（「課題探求学習」と定義）の機会についての問いでは「よくする」が 8.1％，「時々する」が 16.4％ある．そしてそれらの者の学習への熱心度は「熱心」や「まぁ熱心」あわせて約 6 割弱にのぼる．(2)「地域社会や大人と関わる経験」を問う項目では，「よくある」と「時々ある」は，「地域の魅力について知る機会」(21.6％)，「地域文化について知る機会」(20.4％) となっている．(3)「教員や地域社会の大人との関係性」では，教員への信頼が高いのは予想どおりというところだが，「本音で接してくれる地域の大人がいる」及び「本気で接してくれる地域の大人がいる」は 20％超となっている．「地域から大切にされている雰囲気を感じる」と答えた割合は「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」で 37.9％．「自分の暮らす地域を，外からの視点で考える機会がある」(24．9％)，「地域の人や課題などの現場に直接触れる機会がある」(25.5％)，「地域の人や地域課題など，興味を持ったコトに対して，すぐに橋渡しをしてくれる大人がいる」(28.3％) となっている．これらの値は，団塊ジュニアの私としては高いようにも思えるのだが，他の項目での％が高いのに比べて総体的に低いという評価を三菱 UFJ リサーチ＆コンサルティングはしている．

11　「岐阜市協働のまちづくり推進計画 2018 － 2022」<<https://www.city.gifu.lg.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/003/377/0406kyoudou.pdf>>

が示されている．しかし，例えば①は自治会や各種団体との協働をいうものの，排除はしないが，次世代の担い手として有望であろう高校や大学は入っていない．⑤の自発的なまちづくり活動の醸成についても，高校や大学への出前講義や，ゼミ，部活等との連携や協働という項目はなく，組織的対応としては検討対象にすらなっていないようにみうけられる．

では関市で展開されているような，高校生を対象とした具体的な事業やイベントはないのだろうか．この点，まちづくりサポートセンター主催のまちサポトークにおいて，「若者が参画するオール岐阜のまちづくり」（まちサポトーク 2018 冬／平成 30 年 12 月 18 日）や「高校生と共に歩むまちづくり」（まちサポトーク 2023 春／令和 5 年 1 月 29 日）のような例はあるが，単発であり，岐阜市が組織的・継続的に高校生や高校とのパイプをもっているわけではない．むしろ，コーディネーターとなっている者の人間関係に依存しているところがあり，このコーディネーターがいなければ成立しない可能性もある（上記イベントのコーディネーターは当センターの富樫理事長）．岐阜市として，担い手の獲得・養成の機会を得られていないように思う．いうなれば有望な「投資先」をみすみす逃している感が否めない．

なお，こうした岐阜市の状況について，市の担当者に，①岐阜市の事業の有無，②現在の体制，③高校生への期待感，④高校の取り組み，⑤高校現場への期待，についてうかがってみた．担当者の回答としては，①については，岐阜市商業高等学校の「市岐商デパート」での協力連携関係はあるものの，他には市が行う事業としてはないそうである．②については体制以前の問題で，これまで組織的な対応はなされていない．ただ，市長が懇話会において，高校生は潜在的なまちづくりの担い手として有望である旨の発言もあり，課題意識はある．③については，これからのちいきづくり――自治会・町内会などの諸活動含めて――に期待するところが大きいが，まず若い人々の関心が薄れていることに歯止めをかけない限りコミュニティが維持できない，という危機感がある．ただ，そのための施策を講じたことはなく，意識も薄かった．施策を講じることの合理性はあるが，関係者の納得がまずは前提であり，その合意形成はいままでは難しかったのではないかという．また一担当者がそういった施策を発案し形にすることは至難の業である．④については，個人的には部活等で地域活動を行っている事例は知っているものの，各高校がふるさと教育のどの類型でどのような事業を展開しているのかまでは不明，とのことであった．⑤については，市の担当者としては，市民活動を支援する立場から，高校現場からの要請があれば，出向いて生徒さんに市の状況説明をすることも可能であるし，市長等からの施策の指示や要請があれば可能かもしれないとのことであった．もう少し高校現場へ訪問し，連携を深めても良いのでは？となげかけてみると，飛び込み営業のように高校現場に出向き，施策を講じる約束をしてくることもできないし，相手がそれを望んでいないかもしれないため，なかなかそういう現場に出向いたりネットワークを構築することはできなかったのであるが，高校現場からの要請があればそれらを積極的にしたいとのことであった．行政職員としては，高校生に地域に誇りをもってもらう「シビックプライド」の醸成を図りたいこともあり，またコミュニティの希薄化の現状を高校生にも知ってもらいたい意識もあるので，高校現場からの協力要請を実は欲しているようにも見受けられた．攻めの姿勢はないものの，どちらかというと出番が来るのを切実に待つ「待ち」の状態というところであろうか．

② 高校側の状況

（2-1）ふるさと教育事業

次に高校側の状況はどうなのであろうか．「岐阜県教育振興基本計画第 3 次岐阜県教育ビジョン～ふるさとに誇りをもち，『清流の国ぎふ』を担う子どもたちの育成～（2019 年度～ 2023 年度）」では「ふるさと教育の充実」をうたっており，学校と地域を強く結びつける活動を通じて地域の魅力を知り課題を発見・解決する学習の促進が掲げている．そしていわゆる中堅進学校に協議会を設置し，関連する自治体，大学や地域の企業等との協働により，地域の魅力を知り，課題を発見・解決する学習を推進することとされている（5 頁（第 2 章の 2 部分））．

岐阜県教育委員会「岐阜県立高等学校の活性化に関する検討まとめ（岐阜県立高等学校ふるさと教育関連事業実施報告／令和 3 年度）」では，4 つのタイプのふるさと教育が展開されていた．

一つめは，地域連携による活力ある高校づくり推進事業であり，不破，郡上北，山県など 19 ほどの高校が指定されている．地元市民団体と連携して地域の活性化を目指す LINE スタンプ製作やニホンジカの生態調査（不破），地元企業や自治体との三者連携による栗・林檎を素材とした 6 次産業学習の実施やドローン学習の実施（恵那南）などがある．

二つめは，グローバルな視点で課題を探求する事業の一つとして，地域共創フラッグシップハイスクール事業（FRH）が位置づけられ[12]，岐阜北，長良，加納，岐阜商業，大垣北，関，可児，多治見北，斐太が指定され，カリキュラム等の研究・開発が行われている（26-31 頁）．これらの高等学校では地元企業，大学，自治体などとの連携による様々な取り組みがなされているが，共助についての意義・必要性についての教育は手薄なように思われる．

三つめに「地域に密着した課題を探求する」事業として，地域課題探求型学習推進事業も展開されている．羽島北，各務原，各務原西，本巣松陽，羽島，大垣南，大垣西，郡上，武儀，加茂，多治見，中津，益田清風が指定されている．外部講師の講義やフィールドワーク，商品開発，地域の大人と語る会，などもある．地元自治体の協力を得て進めている高校もあるが，全体として自治体の出番は少ないようにみえる．

四つめは，地域の企業等と連携した専門高等学校グループであり，岐阜工業，岐阜総合，岐阜城北，岐阜商業，岐南工業など 20 余りの高等学校などが対象となっている．地元企業との連携によって，地元の原材料をつかった商品開発や地元企業の指導による金型の作成（岐阜総合），美濃柴犬の保存と普及（大垣養老），耕作放棄地対策（加茂農林）などがある．

このように岐阜県内の高等学校は，四つのタイプのふるさと教育を通じて，地域の市民団体，企業，そして自治体の力を借りながら地域との接点を生徒にもたらしているようにもみえる．それらが「総合的な探求する時間」のなかで，どのようなウエイトで誰がどのように企画して展開されているのかといった詳しい内容や成果は「岐阜県立高等学校の活性化に関する検討まとめ」にはなく，また，県教育委員会も――個人的に知っていることはあるとしても――組織としては把握していないという．

高校の先生方の情報交換についても，教育委員会が関与しているものとしては，第一に，ふるさと教育関連事業担当者会議がある．ここでは，「地域連携による活力ある高校づくり推進事業」，「地域課題探求型学習推進事業」，「グローカル探求実践事業」，「地域共創フラッグシップハイスクール事業」，「地域産業の担い手育成総合戦略事業」等に分かれて分科会を設け，各校の取り組みにかんする情報・意見交換があるが，総時間としては三時間ほどのようである．

第二に，上記とは別に，岐阜大学地域協学センターと教育委員会とのコラボで「スーパーハイスクールセッション」として複数回の報告会を設けて，各高校の成果発表等がなされている．岐阜県下の 16 の高校が研究内容を報告することで，情報交換の意味をもつものといえる．

第三に，岐阜市役所のイベント「まちさぽトーク 2023 春――高校生と共に歩むまちづくり」（令和 5 年 1 月 29 日，メディアコスモス）のような単発イベントもある．このイベントには加納高校（地域研究部：籠大仏を探る――誰が創ったのか――），長良高校（町歩きで課題発見，地元に愛着が湧く），関高校（地産地消のとりくみ，キウイフルーツでまちおこし）の 3 つの高校が参加し，それぞれ活動内容を報告し，クロストークをするものであった．なぜこの三校かというと，イベントの時間制約のなかで司会も担った富樫岐阜地方自治研究センター理事長の人間関係によるところが大きいと思われる．また，生徒さんらの活動報告の他にも会場から先生のコメントもあったが，別途，時間と場所を確保したうえで，関係者らの腹を割っての交流があれば，協働の可能性と限界がわかってくるのだろうと思われた．

また，県教育委員会にうかがったところによると，県教育委員会では，地域研究部のような部活についても，詳しい活動内容までは把握しておらず，またそうした部がどのような経緯でつくられたのか，その成果についてもデータを有していない．また教育委員会以外の岐阜県庁の他部局との連携でふるさと教育や地方創生について検討しているわけでもない，という．どのような活動を展開するのかは，高校現場の各教員の個人的な資質に大きくよる，ということであろう．

（2-2）高校現場

岐阜市内の「地域共創フラッグシップハイスクール事業」の指定された，ある高等学校の先生にふるさと教育と市役所等との連携の状況についてお話をうかがった．

まず 4 つのタイプのうちから「地域共創フラッグシップハイスクール事業」に指定を受けているのは，いくつか

12　グローバルな視点で課題を探求する事業は，①スーパーサイエンスハイスクール事業（SSH），②地域共創フラッグシップハイスクール事業（FRH），③理数教育フラッグシップハイスクール事業（FSH）と整理されている．

のタイプのうちどれかを選んで申請をしそれが認められるのか，教育委員会からいきなり指定されるのか，疑問であったが，高等学校からの希望ではなく，いきなり指定とのことであった．したがって，教育委員会によって，事業内容も変更されうる（この高校は令和 4 年からはグローカル探求実践事業に指定されている）．

事業は 4 名の先生方がスタッフとなり行っており，他業務を行いながら実施しているとのことであった．校内での認知度はそれほど高くなく，全校体制で取り組んでいるというわけではない[13]．

指定後のコンテンツづくりは，各校の担当となった先生方が創意工夫で創っていくもののようであるが，この高校では将来，生徒は企業で企画立案したり公務員となったりする生徒が多いため，思考力を深める事業がよいと考えたようであった．

高校でのふるさと教育は，二年次以上が「総合的な探究の時間」のなかで行われる．もちろん総合的な探究の時間はふるさと教育だけに割かれるわけではなく，英語，情報関連の探究もこのなかで行われる．三年次では，進路と直結した探究学習を企画したいという教員側の思いはあるものの，現状では基調講演や小論文・面接対策に充てられているようであった．

こうした制約・制限があるなかで展開されるふるさと教育ではあるが，全体としては，生徒からの評価は「悪くはない」とのことである（これは非公表）．

市役所の方々――職員，議員，首長――との協働の可能性，たとえば協働企画や部活にお呼びして協力してもらう等，についても，この高校での総合的な探究の時間の目的が「探究」であり，解決策に至るまでの現状分析，原因究明であることから，ちいきづくり・まちづくり関連のリサーチクエスチョン設定の妥当性をアドバイスしてもらう等の協力関係があればありがたいとのことであった．ただし，時間が限られていることから，基調講演のようなものは最小限にしておきたいとのことであった[14]．

市役所からの協力に関して，他校の先生にもお話を伺った．その方は生徒の就職先としての役所やその業務を実際に知ることができる，進学への刺激になるということを重視しておられ，役所の方々と生徒の接触は奨励したいという．

しかし生徒に伝えるべきは，行政の業務内容やちいきづくりに必要な専門技術的な知見にとどまらない．行政職員らが機会を得て生徒らへ何らかのアドバイスをすることができた場合には，そこで，直接間接に，ちいきづくりや共助に関して，他者のため，地域のために奮闘することの重要さ――行政が担当している事項でもある――を伝えることであろう．また，地域内の課題は自らの困りごとにもつながるのであり，共に取り組むことで他者と自分の双方がこの地域で暮らすことの意味を見出し，互いの幸福感を高め，よりよいまち，誰もが暮らしやすいまちに変えていけるのではないかというメッセージを伝えることが重要と思われる．そうすれば，学校教育においてたびたび登場する「他者と共に生きる」というキーワードを実践するのに適切な場であり，機会となる．こうしたメッセージを，ふとした折に伝えていくことが求められるように思うのである．

(4) むすびにかえて

高校生に地域に接してもらい，シビックプライドを高めてもらうことは，共助の担い手を確保するためではない．「地方創生」は，地域存続のために必要なことという前提で，そのためにまずは地域住民，とくに若い層にシビックプラ

13　なお，高校も，教育委員会から指定された事業を受け持つわけであるが，継続性はそれほど確保されていない印象を受ける．コンテンツは，継続的な工夫があって徐々に創られていくものであるが，先生方の異動も含め，途中でとぎれるリスクはあるように思う．引き継がれる際に当初のプログラムの意図や方向性が変更されることもあろう．「ふるさと教育」の担当は，高校生への教育のプロは高校の先生方，そしてその支援をするべき教育委員会ではあるが，地域の人々と協働でつくるコンテンツであることから，担当者や企画が変更になったからということで関係性が切れてしまうようなことがない方がよい．事業には，継続的且つ組織的対応が必要なのではないかと思われる．しかしながら，協力者・協力団体から，高校にあまり過度な期待を持たれるのも困るし，同時に，撤退できる道筋も同時に残しておきたい．その意味では，業務として割り切れる市役所の職員の方々に協力をお願いするのは悪くない手段のように思える．

14　市役所の職員や議員，首長らとの協力関係も，わりと多いのが講演かと思われるが，これは生徒に考えさせることを念頭におく高校は，単発でおわって，話をきいて面白かった，終わりとなるため，ありがたくない，ということのようである．

イドを醸成することの素地のうえにある．その先に共助の担い手というテーマがくるということと思われる．

「地方創生」のために，高校現場は，ふるさと教育を通じて尽力されている．また自治体も限られた予算の中で奮闘している．また，今回，それぞれにうかがったところによるとお互いを利用する余地やニーズもメリットもある．あとは関係者が議論する場，そしてネットワーク構築であろう．

今回，筆者の限られた人的資源のなかでお話をうかがった方々は，そのご自分の領域のなかで創意工夫しながら生徒を指導し，あるいは役所の職務を果たしている．しかし，外野から見て，協力しあえるところがあるのに，両者が互いをしらないがゆえに，もったいない状態になっているようにみえる．ネットワークの欠如，不足があるようにみえるのである．それらを解消するには，それぞれの領分をおかしてはならないという意識も働き，なかなか難しいのだとは思うが，全体を統括する者（首長や教育委員会など）の方向付けだけでなく（もうすでに一定程度はなされている），それぞれの主体がもう一段歩み寄ること（←いまここの少し前の段階），あるいはそれぞれの主体をつなぐお節介をやく存在があること（大学など），そして，持続可能な形でネットワーク化し継続的な改善をしつづけ，誰もが暮らしやすいちいきづくりにむけ協働していくことが必要であるように思われる．

（三谷 晋）

表紙の写真

■格子の町家が続く川原町（写真上　左）
長良橋南詰の鵜飼観覧船のりばから西へ続く「湊町・玉井町・元浜町」が通称「川原町」。織田信長の時代から商人の行き交う川湊で、昔ながらの日本家屋が続く。古きよき趣はそのままに、町家や蔵を改装したお店がオープンしている。

■柳ケ瀬商店街で開催されるサンデービルヂングマーケット（写真上　右）
2014年から柳ケ瀬商店街で始まった手づくりとこだわりの詰まったライフスタイルマーケットが毎月開催され、今では県外からも多くの人が訪れる。

■伝統工芸「岐阜和傘」の生産地　加納（写真中　左）
市南部に当たる旧城下町。江戸時代から続く和傘の生産地。2022年に「岐阜和傘」は伝統工芸品に指定された。

■夜にぎわう玉宮通り（写真中　右）
岐阜駅と柳ケ瀬を結ぶ地域の中心に位置する玉宮通り。おしゃれなショップが軒を連ね、夜は居酒屋やバーに大勢の人が集まり、にぎわいを見せる。

■郷土の歴史を学ぶ子どもたち　黒野（写真下　左）
市北西部に位置する黒野。小学校の授業のなかでは郷土ふるさとの歴史を学ぶフィールドワークなども行っている。

■権現山から望む団地　芥見東（写真下　右）
1965年にできた県下最大のマンモス団地（大洞緑団地）。現在、人口が減っている中、高齢化率が4割を超え、高齢者の一人暮らしが多くなっている。

岐阜市のまちづくりと市民活動

2023年3月 発行

岐阜県地方自治研究センター

発行所

岐阜県地方自治研究センター

〒500-8069 岐阜市今小町15番地
TEL 058-265-3135（代）
FAX 058-267-0093
URL www.gifu-jichiken.jp/
E-mail info@gifu-jichiken.jp